

令和7年
岩手県教育委員会定例会
4月

岩 手 県 教 育 委 員 会

令和7年4月 岩手県教育委員会定例会議事日程

令和7年4月21日（月）午後1時30分

第1 会期決定の件

第2 事務報告1 令和7年2月県議会定例会の概要について

（教育企画室）

第3 事務報告2 令和7年度岩手県立特別支援学校高等部の学級数等について

（学校教育室）

第4 議案第1号 県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～の策定に関し議決を求めることについて

（学校教育室）

閉会

事務報告 1

令和 7 年 2 月県議会定例会の概要について

令和 7 年 2 月県議会定例会が開催されましたので、概要について別紙のとおり報告します。

令和 7 年 4 月 21 日

令和7年2月県議会定例会の概要について

2月県議会定例会の概要は、次のとおりであった。

1 日 程

2月14日（金）	本会議（招集、知事演述、教育長演述、議案等の提案）
2月20日（木）～27日（木）	本会議（代表質問、一般質問、質疑、委員会付託）
2月28日（金）	常任委員会
3月4日（火）	本会議（常任委員会委員長報告、討論、採決）
3月5日（水）、6日（木）	予算特別委員会（総括質疑）
3月6日（木）～18日（火）	予算特別委員会（教育委員会審査：3月12日（水））
3月19日（水）	常任委員会
3月24日（月）	第1回岩手県議会災害対策連絡本部会議
3月25日（火）	本会議（議案等の提案、質疑、委員会付託） 常任委員会 本会議（常任委員会委員長報告、予算特別委員会委員長報告、採決）

2 代表質問・一般質問

(1) 会派別一般質問議員数（16人）

希望いわて	6人
自由民主党	6人
いわて新政会	2人
いわて県民クラブ・無所属の会	1人
日本共産党	1人

(2) 代表質問（教育委員会関係：1人）

次の議員から質問があり、知事が答弁した。

ア 佐々木 努 議員 3件

(ア) 子どもを取り巻く環境の変化と対応策について

① 学校給食費について

(イ) 不登校対策について

① 不登校児童生徒の増加について

② フリースクールに係る支援について

(3) 一般質問（教育委員会関係：10人）

次の議員から質問があり、知事及び教育長が答弁した。

ア 佐々木 順一 議員 4件

(ア) 投票率について

① 主権者教育について

② 具体的事象等について

③ 教員の心理的抑圧について

④ 教員の対応について

イ 佐々木 茂光 議員 3件

(ア) 教育政策について

① 不登校対策について

② 沿岸南部地区高校への医系進学コースの設置について

③ 県立高田高校への特色ある学科設置等について

ウ 神崎 浩之 議員 6件

(ア) 農業振興について

① 米価高騰について

a 学校給食への影響について

(イ) 教育施策について

① 不登校対策について

a 不登校の現状について

b 教育支援センターについて

② GIGAスクールについて

a 端末の活用状況について

b ネットワーク改善について

(ウ) 知事の県政運営について

① 学校教育の変革について

エ 佐藤 ケイ子 議員 5件

(ア) 教育施策について

① いわて留学について

a いわて留学に係る市町村の取組への支援について

② 包括的性教育について

③ 図書館について

a 県立図書館の役割について

b 岩手県子どもの読書活動推進計画の取組について

(イ) 働き方改革について

① 市町村教育委員会への取組支援について

オ 高橋 穂至 議員 1件

(ア) 人口減少対策について

① 少子化対策の強化について

a 有配偶出生率の向上について

(a) 学校給食費の無償化について

カ 千葉 盛 議員 3件

(ア) 教育政策について

① 学びの多様化学校について

② 県立高校の「医系進学コース」について

③ 教育格差是正に向けた取組について

キ 高橋 こうすけ 議員 1件

(ア) 男性の育児休業について

① 教職員の育児休業について

ク 畠山 茂 議員 4件

(ア) 不登校対策について

① 不登校児童生徒を出さない取組について

② 不登校児童生徒の背景について

③ 不登校児童生徒のいる家庭・保護者への支援について

④ 不登校児童生徒の居場所づくりについて

ケ 菅原 亮太 議員 3件

(ア) 社会減対策について

① 若者定着について

a 授業等を通じた高校生への働きかけについて

b 県内就職の促進について

② U・I ターン促進政策について

a 高校生の進学先の把握について

コ 斉藤 信 議員 4件

(ア) 高校再編計画、盛岡みたけ支援学校高等部への通学バス問題について

① 県立高校の魅力化に対する知事の思いについて

② 長期ビジョンの内容と県民説明会での意見について

③ 小規模校の存続と魅力化と充実を図る取組について

④ みたけ支援学校高等部への通学バスについて

3 文教委員会【2月28日（金）】

(1) 議案の審議

ア 議案第81号「令和6年度岩手県一般会計補正予算（第12号）第1条 第2項 第1表 歳入歳出予算補正中 歳出 第10款 教育費」について、教育企画室長から提案理由の説明を行った。

(ア) 質問等

岩崎友一委員、工藤大輔委員及び斉藤信委員から、いわての学び希望基金に関する奨学金の補正理由、1人1台端末の更新及び廃棄、学校におけるネットワーク環境、学校要望に対する予算編成の状況、退職者数等について質問があり、教育長及び関係室課長等が答弁した。

(イ) 採決

原案どおり可決された。

(2) その他（この際発言）

ア 「岩手県立 盛岡地区 統合新設校 体育館 新築工事に係る進捗状況について」、教育企画室長から報告を行った。

(ア) 質問等

工藤大輔委員及び斉藤信委員から、矢巾町との協議の進め方、矢巾町の方針転換等について質問があり、教育長及び関係室課長が答弁した。

イ 上記の他、関根敏伸委員、小西和子委員、工藤大輔委員、飯澤匡委員及び斉藤信委員から、県立高校入試の出願状況、特色入試、退職者数と欠員状況、高校魅力化、働き方改革、いじめ・不登校対策、大船渡市林野火災による被害等について質問があり、教育長及び関係室課長が答弁した。

4 予算特別委員会の審議

(1) 総括質疑【3月5日（水）、6日（木）】（教育委員会関係：7人）

次の委員から質問があり、知事及び教育長が答弁した。

ア 柳村 一 委員 2件

(ア) GX・DXの推進について

① 教育現場におけるDXについて

(イ) 職員の育成・確保について

① 教員の働き方改革について

イ 千葉 秀幸 委員 1件

(ア) 公共施設の適正管理について

① 県立高校の適正配置について

ウ 福井 せいじ 委員 3件

(ア) 持続可能な行政基盤の構築に向けた取組みについて

① 県立高等学校教育の在り方について

a 次期県立高等学校再編計画について

b 専門高校について

c 知事の見解について

エ 吉田 敬子 委員 1件

(ア) こども施策について

① 遊びや体験活動の充実について

オ 高田 一郎 委員 1件

(ア) 防災対策、避難所の環境改善について

① 学校の体育館へのエアコン設置について

カ 小林 正信 委員 1件

(ア) フリースクールなどへの支援について

キ 田中 辰也 委員 2件

(ア) 県立高校における地域を支える人材の育成について

① 現状認識と課題について

② 福岡高校の課題と解決策について

(2) 教育委員会審査【3月12日（水）】

令和7年度予算について教育長から説明を行い、次の委員から質問があり、関係室課長等が答弁した。

ア 高橋 はじめ 委員 4件

- (ア) 遠隔教育による学びの機会充実事業費について
 - ① 遠隔教育の推進について
 - ② 不登校等多様な生徒に対する遠隔授業の試行について
- (イ) 西和賀高校1学年2学級体制について
 - ① 令和7年度の入試志願状況等について
 - ② 教職員体制について

イ 城内 愛彦 委員 3件

- (ア) 運動部活動地域連携推進費について
- (イ) PTAの活動状況について
- (ウ) 公民館事業について

ウ 吉田 敬子 委員 7件

- (ア) 県立美術館・県立博物館について
 - ① 美術館のミュージアムコンサート及びナイトミュージアムの取組実績と評価について
 - ② 博物館のミュージアムコンサート及びナイトミュージアムの取組実績と評価について
 - ③ グランド・ギャラリースペースの一般貸出について
 - ④ 博物館の資料保管に関する課題について
 - ⑤ 文化芸術活動推進のための取組と効果について
- (イ) 多様な体験活動の充実について
 - ① 教育振興運動60周年記念事業での講演について
 - ② 多様な体験活動充実のための取組について

エ 佐々木 努 委員 7件

- (ア) デジタル機器の普及と子どもたちへの影響について

- ① 小・中・高校生のスマートフォンの利用時間について
- ② 視力低下の状況と要因について
- ③ ゲーム障害の状況について
- ④ 子どもの読書時間の実態と要因について
- ⑤ 全国学力テストにおける国語の学力低下の要因について
- ⑥ SNSが要因となった事件、不適切行為の発生状況について
- ⑦ デジタル機器がもたらす悪影響への改善策について

オ 郷右近 浩 委員 3件

- (ア) 農業高校の志願者確保等について
 - ① 農業高校の志願者確保及び人材育成、就農促進の取組について
 - ② 農業高校の魅力化について
- (イ) 農業大学校との連携等について

カ 神崎 浩之 委員 2件

- (ア) 学校のデジタル化推進の課題について
 - ① 通信環境の課題について
 - ② 通信環境の改善に向けた取組について

キ 佐々木 朋和 委員 4件

- (ア) 教育委員会所管の予算、事業について
- (イ) いじめ不登校対策事業費について
 - ① 校内教育支援センターの設置促進に係る事業について
 - ② いじめ不登校関連の具体的推進方策指標等の変更について
- (ウ) いわて高校魅力化推進事業について

ク 村上 貢一 委員 11件

- (ア) 災害時学校支援チームについて

- ① 設立の背景、目的について
- ② 組織体制等について
- ③ 平時の活動内容について
- ④ 災害発生時のスキームについて
- ⑤ 他県の支援チームの状況及び能登半島地震での活動事例について
- ⑥ 他県の支援チームとの連携等ネットワーク的な方策について

(イ) 不登校児童生徒対策について

- ① 学校内外の機関等で専門的な相談、指導を受けていない児童生徒への支援状況について
- ② 不登校児童生徒を持った保護者への支援策について
- ③ 夜間中学校設置について

(ウ) 学校給食のアレルギー対応について

- ① 食物アレルギーの事故やヒヤリハット事例の状況等について
- ② アレルギー対応に関する課題と今後の取組について

ケ 岩淵 誠 委員 6件

(ア) 学校DXについて

- ① 今後の更新スケジュールについて
- ② 利用状況について
- ③ 遠隔授業の取組状況と今後の拡大予定について

(イ) 学校施設整備について

- ① 施設整備の予算と決算の乖離状況について
- ② 改修と改築の考え方と今後の見通しについて
- ③ 2年連続で志望倍率が0.5倍以下の学校について

コ 臼澤 勉 委員 6件

(ア) 高校再編計画について

- ① 今年度入試における盛岡ブロックへの志願者数の集中について
- ② 共創プロジェクトの評価と今後の対応について

- ③ 私立高校と公立高校の募集学級数の在り方について
- ④ 高校教育の無償化について
 - a 本県の影響額について
 - b 県立高校の志願者への影響について
- ⑤ 学校の小規模化について

サ 佐藤 ケイ子 委員 5件

(ア) 社会教育施設（県立青少年の家）の維持管理について

- ① 利用状況について
- ② 利用者及び指定管理者からの要望について
- ③ 指定管理料について
- ④ 利用料について
- ⑤ 社会教育施設等個別施設計画について

シ 高橋 穂至 委員 3件

(ア) 確かな学力育成プラン推進費および確かな学力育成加速化事業費について

(イ) 教育振興運動推進費について

(ウ) 学校における「地域教育」の取組について

ス 大久保 隆規 委員 4件

(ア) 震災教育について

(イ) 県立美術館について

- ① 令和7年度の運営内容について
- ② レストランスペースの活用について
- ③ 駐車場の除雪について

セ はぎの 幸弘 委員 9件

(ア) 災害時学校支援チーム構築事業費について

- ① 事業の内容について
- ② 事業のプロセスについて

(イ) 学校教育D X推進事業費について

- ① 1人1台端末の更新に係る予算について
- ② 高校生の1人1台端末の環境について
- ③ 端末の更新間隔について
- ④ 更新する端末の機能について
- ⑤ 端末の使用状況について

(ウ) 遠隔授業の取組状況について

(エ) 学力向上の取組状況について

ソ 鈴木 あきこ 委員 3件

(ア) 岩手県立学校の寄宿舎の設備について

- ① 寄宿舎（寮）のエアコン設置状況について
- ② 今後の設置見込について

(イ) 文化財保護推進費について

タ 松本 雄士 委員 7件

(ア) 不登校対策等におけるS S Wの役割について

- ① 「不登校」および「家庭環境問題」の相談対応・件数の推移について
- ② S S Wの活用実態と評価について
- ③ S S Wの報酬について
- ④ 「児童生徒健全育成推進費（S S W配置事業費）」の減額要因について
- ⑤ S S Wの定着状況について

(イ) 特別支援学校における就労支援について

- ① 現在の取組について
- ② 就労選択支援制度の検討・対応状況及び3年生以外への実施について

チ 菅原 亮太 委員 11件

(ア) 岩手教育振興計画の県内就職率について

- ① 令和6年度の実績について
- ② 高校生の県内就職率を設定した根拠について
- ③ 目標達成に向けた令和7年度予算での取組について
- ④ 達成見込について
- ⑤ 達成困難な場合の対応について

(イ) 60プラスプロジェクト推進事業費について

- ① 成果指標とこれまでの成果について
- ② I C T機器の活用について
- ③ 事業の数値目標について
- ④ 取組の強制化について

(ウ) 公立高校の複数受験制度について

- ① 高校無償化による県立高校への影響について
- ② 県立高校入試での複数校受検について

ツ 高田 一郎 委員 6件

(ア) 就学援助制度について

- ① 単価の見直し等について
- ② 修学旅行費の支給方法について
- ③ 認定基準の見直しについて

(イ) 不登校対策について

- ① 校内教育支援センターの設置状況及びスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの設置状況と活動実績について
- ② スクールソーシャルワーカー等の常勤化について
- ③ 全国のフリースクールへの支援状況について

テ 田中 辰也 委員 2件

(ア) 教育振興運動について

(イ) 県立高校の在り方について

5 文教委員会【3月19日（水）】

(1) 議案の審議

ア 議案第72号「権利の放棄に関し議決を求めることについて」、参事兼教職員課総括課長兼服務管理監から提案理由の説明を行った。

(ア) 採決

原案どおり可決された。

(2) 請願の審議

ア 請願第35号「盛岡一高バレーボール部に関わる調査検証委員会の設置についての請願」について、審査が行われた。

(ア) 採決

継続審査とされた。

(3) その他（この際発言）

ア 「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～策定案について」、高校改革課長から報告を行った。

(ア) 質問等

飯澤匡委員、斉藤信委員及び小林正信委員から、中学校の進路指導における地域や地域産業を担う人材の育成、医系進学コース設置等について質問があり、関係室課長が答弁した。

イ 上記の他、小西和子委員、斉藤信委員及び小林正信委員から、人員配置、スクールロイヤーの相談体制、働き方改革、学校給食費の値上げ、不登校対策、いわて留学、陸前高田市との連携状況、フリースクール等について質問があり、教育長及び関係室課長等が答弁した。

6 大船渡市林野火災 第1回 岩手県議会災害対策連絡本部会議【3月24日（月）】

次の委員から質問があり、教育企画推進監兼服務管理監及び学校教育企画監が答弁した。

ア 小西 和子 委員 8件

(ア) 経済的支援について

① 就学援助対象者の拡大について

② 被災就学援助の所得制限の撤廃について

(イ) 心のケアについて

① 心のケアの拡充について

- ② スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの拡充について
- (ウ) 教職員の配置について
 - ① 教職員の加配について
 - ② 被災地を生活根拠地とする教職員の優先配置について
 - ③ 被災地出身者の優先的採用について
- (エ) スクールバスの常備について

7 文教委員会【3月25日（火）】

(1) 議案の審議

ア 議案第105号「令和6年度岩手県一般会計補正予算（第13号）第1条 第2項 第1表 歳入歳出予算補正中 歳出 第10款 教育費」について、教育企画室長から提案理由の説明を行った。

(ア) 質問等

岩崎友一委員、工藤大輔委員及び斉藤信委員から、授業料等の減免、大学等進学支援一時金の給付要件及び所得制限の撤廃等について質問があり、教育長及び関係室課長等が答弁した。

(イ) 採決

原案どおり可決された。

※ 議員毎の件数は項目数であり、同一項目の関連質問は含んでいないため、件数と答弁実績数は一致していないこと。

事務報告 2

令和7年度岩手県立特別支援学校高等部の学級数等について

令和7年度の岩手県立特別支援学校高等部の学級数等について、別紙のとおり報告します。

令和7年4月21日

令和7年度岩手県立特別支援学校高等部の学級数等について

1 学級設置の基本的な考え方

障がいのある生徒に一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を行い、望ましい成長発達を促すとともに、社会参加と自立を図るため、県立特別支援学校高等部の在籍数及び入学希望見込みの増減等を勘案し、毎年度適正規模に調整するものとする。

2 学級数の増減

学校名	部・科・学級	予定(10月時点)		決定(4月1日時点)			備考
		学級数	定員	学級数	定員	生徒数	
盛岡視覚	高等部・保健医療科・通常学級	1	8	0	0	0	入学予定者なし
盛岡聴覚	高等部・普通科・通常学級	1	8	0	0	0	入学予定者なし
	専攻科・産業技術科・通常学級	1	8	0	0	0	入学予定者なし
盛岡となん	高等部・普通科・重複障がい学級	4	12	10※	30※	29	複数の学年を合わせた学級編成とする
盛岡青松	高等部・普通科・重複障がい学級	2	6	7※	21※	19	複数の学年を合わせた学級編成とする
盛岡ひがし	高等部・普通科・通常学級	2	16	1	8	7	
	高等部・普通科・重複障がい学級	4※	12※	2	6	5	学年別の学級編成とする
花巻清風	高等部・普通科・重複障がい学級	5※	15※	3	9	8	学年別の学級編成とする
前沢明峰	高等部・普通科・通常学級	3	24	2	16	9	
	高等部・普通科・重複障がい学級	4※	12※	6※	18※	13	
一関清明	高等部・普通科・重複障がい学級	5※	15※	7※	21※	20	
	高等部・普通科・重複障がい学級(あすなる分教室)	1	3	2※	6※	4	複数の学年を合わせた学級編成とする
釜石祥雲	高等部・普通科・重複障がい学級(しゃくなげ分教室)	1	3	2※	6※	5	複数の学年を合わせた学級編成とする

・※は、1～3学年を通じた学級数・定員として示しているもの。

・知的障がいを対象とする特別支援学校、一関清明支援学校及び釜石祥雲支援学校の重複障がい学級においては、募集定員を1～3学年を通じた人数として示しているもの。

・重複障がい学級においては、在校生及び入学予定者の障がいの状態等により、学年別の学級編成もしくは複数の学年を合わせた学級編成について柔軟な対応をしているもの。

3<参考> 令和4年度以降の県立特別支援学校高等部学級数・合格者数（訪問教育を除く）

	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度	
	学級数 (変更前)	合格者数 (募集定員)	学級数 (変更前)	合格者数 (募集定員)	学級数 (変更前)	合格者数 (募集定員)	学級数 (変更前)	合格者数 (募集定員)
通常学級	27 (31)	113名 (248名)	28 (35)	154名 (280名)	27 (34)	151名 (256名)	28 (34)	145名 (272名)
重複障がい学級	53 (39)	61名 (117名)	45 (39)	48名 (117名)	43 (38)	45名 (114名)	38 (38)	47名 (114名)
合計	80 (70)	174名 (365名)	73 (77)	202名 (397名)	70 (70)	196名 (370名)	66 (72)	192名 (386名)

- ・通常学級は、1学級8名定員を基準とする。
- ・重複障がい学級は、1学級3名定員を基準とする。また重複障がい学級の学級数は、一部1～3年を通じた学級も含まれたものである。

4 令和7年度岩手県立特別支援学校 高等部・専攻科の学年別人数及び学級数一覧(4月1日時点)

対応障がい	学校名	部	学科	学級別	学年	学級数	生徒数	学級	学年	学級数	生徒数		
視覚障がい	盛岡視覚支援学校	高等部	普通科	通常	1年	1	1	重複	1年	1※	1		
					2年	-	-		2年		1		
					3年	-	-		3年		1		
			保健医療科	通常	1年	-	-	-	-				
					2年	-	-						
					3年	-	-						
		専攻科	保健医療科	通常	1年	1	1	-	-				
					2年	1	1						
					3年	1	3						
			理療科	通常	1年	1	1	-	-				
					2年	1	4						
					3年	-	-						
聴覚障がい	盛岡聴覚支援学校	高等部	普通科	通常	1年	-	-	重複	1年	1※	1		
					2年	1	3		2年		1		
					3年	1	3		3年		1	3	
			産業技術科	通常	1年	1	3	-	-				
					2年	1	3						
					3年	1	1						
		専攻科	産業技術科	通常	1年	-	-	-	-				
					2年	1	1						
					3年	-	-						
		不自由 肢体	盛岡となん支援学校	高等部	普通科	通常	1年	1	3	重複	1年	10※	9
							2年	1	3		2年		11
							3年	1	1		3年		9
病弱	盛岡青松支援学校	高等部	普通科	通常	1年	1	2	重複	1年	7※	8		
					2年	-	-		2年		6		
					3年	1	1		3年		5		

※は複数の学年を合わせた学級である。

対応障がい	学校名	部	学科	学級別	学年	学級数	生徒数	学級	学年	学級数	生徒数	
知的障がい	盛岡峰南高等支援学校	高等部	生活科学科 農産技術科 加工生産科 流通・サービス科	通常	1年	4	31	-	-			
					2年	4	30					
					3年	4	28					
	盛岡みたけ支援学校	高等部	普通科	通常	1年	3	24	重複	1年	4※	3	
					2年	2	19		2年		3	
					3年	1	9		3年		4	
			二戸分教室	普通科	通常	1年	1	5	重複	1年	1	1
						2年	1	4		2年	-	-
						3年	1	7		3年	-	-
	盛岡ひがし支援学校	高等部	普通科	通常	1年	1	7	重複	1年	2	5	
					2年	2	11		2年	3	6	
					3年	3	17		3年	1	2	
知的障がい・肢体不自由	花巻清風支援学校	高等部	普通科	通常	1年	2	10	重複	1年	3	8	
					2年	3	16		2年	2	4	
					3年	2	13		3年	2	4	
	前沢明峰支援学校	高等部	普通科	通常	1年	2	9	重複	1年	6※	5	
					2年	2	16		2年		4	
					3年	2	10		3年		4	
	気仙光陵支援学校	高等部	普通科	通常	1年	1	6	重複	1年	1※	1	
					2年	1	7		2年		1	
					3年	1	7		3年		-	-
	宮古恵風支援学校	高等部	普通科	通常	1年	1	5	重複	1年	3※	3	
					2年	2	11		2年		2	
					3年	2	11		3年		4	
	久慈拓陽支援学校	高等部	普通科	通常	1年	1	4	重複	1年	2※	2	
					2年	1	10		2年		3	
					3年	1	8		3年		1	

※は複数の学年を合わせた学級である。

対応障がい	学校名	部	学科	学級別	学年	学級数	生徒数	学級	学年	学級数	生徒数	
病弱・知的障がい・肢体不自由	一関清明支援学校	高等部	普通科（知的）	通常	1年	2	9	重複	1年	7※	8	
					2年	2	11		2年		5	
					3年	2	15		3年		7	
			普通科（病・肢）	通常	1年	1	2		1年		2	
					2年	-	-		2年		-	
					3年	-	-		3年		-	
	あすなる分教室	普通科	-	-	-	-	-	重複	1年	2※	2	
									2年		1	
									3年		1	
病弱・知的障がい・肢体不自由	釜石祥雲支援学校	高等部	普通科（知的）	通常	1年	1	5	重複	1年	1	1	
					2年	1	3		2年		-	-
					3年	1	6		3年		-	-
			普通科（病・肢）	通常	1年	1	1		1年		3	
					2年	-	-		2年		-	
					3年	-	-		3年		-	
	しゃくなげ分教室	普通科	-	-	-	-	-	重複	1年	2※	3	
									2年		1	
									3年		1	
△訪問教育▽	盛岡となん支援学校	高等部	普通科	施設・在宅	施設訪問1学級 1学年1名 在宅訪問1学級 2学年1名 3学年1名							
	盛岡青松支援学校		普通科	病院	病院訪問1学級 2学年1名							
	盛岡みたけ支援学校		普通科	-	-							
	花巻清風支援学校		普通科	病院	病院訪問1学級 2学年2名							
	前沢明峰支援学校		普通科	-	-							
	一関清明支援学校		普通科	-	-							
	気仙光陵支援学校		普通科	-	-							
	釜石祥雲支援学校		普通科	-	-							
	宮古恵風支援学校		普通科	-	-							
	久慈拓陽支援学校		普通科	-	-							

※は複数の学年を合わせた学級である。

<資料> 令和7年度岩手県立特別支援学校高等部・専攻科学級数及び合格者数一覧

対応障がい	学校名	部	学科	募集人数	志願者数	合格者数	入学辞退者数	決定学級数	備考	
視覚障がい	盛岡視覚支援学校	高等部	普通科	8	1	1	0	通常 1学級		
				3	1	1	0	重複 1学級 ※		
		専攻科	保健医療科	8	0	0	0	通常 0学級	1学級減	
				8	1	1	0	通常 1学級		
				8	1	1	0	通常 1学級		
聴覚障がい	盛岡聴覚支援学校	高等部	普通科	8	2	2	2	通常 0学級	1学級減	
				3	1	1	0	重複 1学級 ※		
		専攻科	産業技術科	8	3	3	0	通常 1学級		
				8	0	0	0	通常 0学級	1学級減	
				8	0	0	0	通常 0学級	1学級減	
不自由	盛岡となん支援学校	高等部	普通科	8	4	4	1	通常 1学級		
				12	9	9	0	重複 10学級 ※		
病弱	盛岡青松支援学校	高等部	普通科	8	3	2	0	通常 1学級		
				6	8	8	0	重複 7学級 ※		
知的障がい	盛岡峰南高等支援学校	高等部	生活科学科	32	38	32	1	通常 4学級		
			農産技術科							
			加工生産科							
			流通・サービス科							
	盛岡みたけ支援学校	高等部	普通科	24	24	24	0	通常 3学級		
				12※	3	3	0	重複 4学級 ※		
			二戸分教室	普通科	8	5	5	0	通常 1学級	
					3※	1	1	0	重複 1学級	
	盛岡ひがし支援学校	高等部	普通科	16	7	7	0	通常 1学級	1学級減	
				12※	5	5	0	重複 2学級		

※は複数の学年を合わせた学級数・募集人数として示しているもの。

対応障がい	学校名	部	学科	募集人数	志願者数	合格者数	入学辞退者数	決定学級数	備考	
知的障がい・肢体不自由	花巻清風支援学校	高等部	普通科	24	10	10	0	通常 2学級		
				15※	8	8	0	重複 3学級		
	前沢明峰支援学校	高等部	普通科	24	11	11	2	通常 2学級	1学級減	
				12※	5	5	0	重複 6学級 ※	2学級増	
	気仙光陵支援学校	高等部	普通科	8	6	6	0	通常 1学級		
				3※	1	1	0	重複 1学級 ※		
	宮古恵風支援学校	高等部	普通科	8	5	5	0	通常 1学級		
				9※	3	3	0	重複 3学級 ※		
	久慈拓陽支援学校	高等部	普通科	8	4	4	0	通常 1学級		
				6※	2	2	0	重複 2学級 ※		
	い病・弱肢・体的知不自由が	一関清明支援学校 あすなる分教室	高等部	普通科(知的)	16	10	9	0	通常 2学級	
				普通科(病・肢)	8	2	2	0	通常 1学級	
普通科				15※	8	8	0	重複 7学級 ※	2学級増	
普通科				3	2	2	0	重複 2学級 ※		
い病・弱肢・体的知不自由が	釜石祥雲支援学校 しゃくなげ分教室	高等部	普通科(知的)	8	5	5	0	通常 1学級		
			普通科(病・肢)	8	1	1	0	通常 1学級		
			普通科	3※	1	1	0	重複 1学級 ※		
			普通科	3	3	3	0	重複 2学級 ※		
△訪問教育▽	盛岡となん支援学校	高等部	普通科	若干名	1	1	0	※		
	盛岡みたけ支援学校		普通科	若干名	0	0	0	※		
	花巻清風支援学校		普通科	若干名	0	0	0	※		
	前沢明峰支援学校		普通科	若干名	0	0	0	※		
	一関清明支援学校		普通科	若干名	0	0	0	※		
	気仙光陵支援学校		普通科	若干名	0	0	0	※		
	釜石祥雲支援学校		普通科	若干名	0	0	0	※		
	宮古恵風支援学校		普通科	若干名	0	0	0	※		
	久慈拓陽支援学校		普通科	若干名	0	0	0	※		

※は複数の学年を合わせた学級数・募集人数として示しているもの。

議案第1号

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～の策定に関し議決を求めることについて

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～を別添のとおり策定することについて、議決を求める。

令和7年4月21日提出

岩手県教育委員会教育長 佐藤 一 男

理由

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～を別添のとおり策定しようとするものである。これが、この議案を提出する理由である。

県立高等学校教育の在り方
～長期ビジョン～

(策定案)

令和7年4月 日

岩手県教育委員会

目次

はじめに

第1章 新たな県立高等学校再編計画（平成28年度～令和7年度）の取組（中間まとめ）

1 概要-----	1
2 進捗状況と評価-----	3

第2章 岩手の高等学校教育の基本的な考え方-----10

第3章 県立高校の学びの在り方

1 高校の特色化・魅力化-----	13
2 普通高校（普通科、理数科又は体育科を置く県立高校）-----	15
3 専門高校（農業、工業、商業、水産、家庭など、職業教育を主とする 学科を置く県立高校）-----	18
4 総合学科高校-----	27
5 定時制・通信制高校-----	29

第4章 学びの環境整備（県立高校の配置の考え方）

1 学校規模-----	31
2 小規模校の在り方-----	32
3 地区割と学校配置-----	34
4 通学区域（学区）-----	38
5 通学等に対する支援-----	42

第5章 高等学校教育の充実に向けた方策

1 遠隔教育・学校間連携-----	43
2 教育上特別な支援を必要とする生徒等への対応-----	43
3 普通科改革（「普通教育を主とする学科」の弾力化）-----	44
4 普通科改革によらない新たな学科等の設置-----	45
5 全日制高校への単位制導入-----	46
6 県政課題等に対応した人材育成の取組-----	47
7 中高一貫教育-----	48
8 いわて留学（県外募集）-----	50

おわりに

はじめに

「今後の高等学校教育の基本的方向」の策定

県教育委員会では、「いわて県民計画（2009～2018）^{*1}」やその教育政策分野のガイドラインである「岩手の教育振興」（平成 22 年 3 月策定）における方向性を基本に据えながら、第二次県立高等学校長期構想検討委員会の報告（「今後の県立高等学校の在り方について」平成 21 年 9 月）を踏まえ、県立高校における教育の基本的な考え方と方向性を示すものとして、平成 22 年 3 月に策定しました。

「今後の高等学校教育の基本的方向」の改訂

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災津波からの復興に向けた人材育成等も含めた今後の高等学校教育の在り方について、あらためて検討する目的で設置した県立高等学校教育の在り方検討委員会の報告を踏まえ、平成 27 年 4 月に改訂を行いました。

「新たな県立高等学校再編計画」（平成 28 年度～令和 7 年度）の策定

今後の高等学校教育の基本的方向を踏まえ、平成 28 年 3 月に現行計画を策定し、望ましい学校規模の確保による教育の質の保証と、本県の地理的条件を踏まえた教育の機会の保障を 2 つの大きな柱として県立高等学校の学びの環境を整備してきました。

「新たな県立高等学校再編計画後期計画」（令和 3 年度～令和 7 年度）の策定

また、新たな県立高等学校再編計画（平成 28 年度～令和 7 年度）期間の後半においては、「いわて県民計画（2019～2028）^{*2}」等との整合性を図りながら、令和 3 年 5 月に後期計画を策定し、2 つの大きな柱を踏まえつつ、高校に対する人材育成の視点や、地域の実情等を十分に考慮し、「生徒の希望する進路の実現」と「地域や地域産業を担う人づくり」を基本的な考え方として、県立高校の再編・整備を推進しました。

「県立高等学校教育の在り方検討会議」による検討

今般、令和 7 年度に現行計画（後期計画）が終期を迎えることから、今後 10 年、15 年先を見据え、本県の高等学校教育の在り方について検討を進めるべく、令和 5 年 6 月、検討会議を設置し、令和 6 年 9 月までの約 1 年 3 カ月の間、合計 6 回にわたり議論を重ねました。

「県立高等学校教育の在り方（中間まとめ）」の策定

検討会議においては、各界の有識者からなる構成員により、専門的な知見等を踏まえた議論が重ねられ、約一年間の検討の成果として令和 6 年 4 月に県立高等学校教育の在り方として「中間まとめ」を取りまとめました。

^{*1} いわて県民計画(2009～2018)：岩手県の長期ビジョンとアクションプランを示しており、県民、企業、NPO、行政などの地域社会の構成主体が、「ゆたかさ・つながり・ひと～いっしょに育む『希望郷いわて』～」実現の実現に向け、行動する際の指針となるもの。

^{*2} いわて県民計画(2019～2028)：岩手県の長期ビジョンとアクションプランを示しており、計画の理念として、県民一人ひとりがお互いに支えながら、幸福を追求していくことができる地域社会の実現を目指し、幸福を守り育てるための取組を進めること等としている。

「岩手県教育振興計画（2024～2028）」の策定

令和6年3月に策定された本計画は、本県の教育施策の方向性や具体的な取組方策などを定めており、教育振興の取組の指針となるものです。

また、教育基本法第17条第2項に基づき、令和5年6月に策定された国の新たな教育振興基本計画を参酌して策定する「本県における教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置付けるものです。

「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」の策定

上位計画となる「いわて県民計画(2019～2028)」、「岩手県教育振興計画(2024～2028)」及び「中間まとめ」に基づき、県内6地区8会場で懇談会を開催して各地区各界の方々から直接意見を伺い、こうした多様な視点から挙げられた意見も参考としながら、さらに議論を深め、「長期ビジョン」として以下のとおり取りまとめました。

第一に「**岩手の高等学校教育の基本的な考え方**」として、教育環境の構築等に関して、5つの柱を据えました。

第二に「**県立高校の学びの在り方**」として、①高校の特色化・魅力化、②普通高校、③専門高校、④総合学科高校及び⑤定時制・通信制高校についてまとめました。

第三に「**学びの環境整備（県立高校の配置の考え方）**」として、①学校規模、②小規模校の在り方、③地区割と学校配置、④通学区域（学区）及び⑤通学等に対する支援に分けて県立高校の配置の考え方を示しました。

第四に「**高等学校教育の充実に向けた方策**」として、①遠隔教育・学校間連携、②教育上特別な支援を必要とする生徒等への対応、③普通科改革、④普通科改革によらない新たな学科等の設置、⑤全日制高校への単位制導入、⑥県政課題等に対応した人材育成の取組、⑦中高一貫教育及び⑧いわて留学（県外募集）について示しました。

〔地域等からの意見聴取〕

今回の県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～の策定に当たり、地区別懇談会の実施（6地区8会場）に加え、パブリック・コメント*³、県民説明会及び子どもからの意見聴取等を行い、長期ビジョン策定の参考としました。

*³ パブリック・コメント：政府や自治体が政策や法案を策定する際に、県民や市民等から意見を募集する制度のことであり、政策決定の透明性を高め、県民及び市民等の参加を促進することを目的としている。

〔基本的方向と長期ビジョンの主な項目に関する対照表〕

項目	基本的方向（改訂）	長期ビジョン
位置付け	現行計画の土台	次期再編計画の土台
主な観点	<ol style="list-style-type: none"> 1 東日本大震災津波からの復興 2 今後の高校教育の方向性（8項目） <ol style="list-style-type: none"> (1) 生活面や学習面の基礎・基本の定着 (2) リーダーや担い手の育成 (3) 自立した社会人としての資質を有する人材の育成 (4) 生徒数減少の中、適切な教育環境の整備 (5) 普通科は、進学に対応する指導体制の充実と就職率の高い普通高校の在り方を検討 (6) 専門高校は、専門教育の充実を図り、進学できる仕組みづくりに取り組む。 (7) 総合学科は、進路実現に向け、系列や教育課程の充実 (8) 復興・発展を支え、ふるさとを守る人材の育成 	<ol style="list-style-type: none"> 1 高校の特色化・魅力化 2 岩手の高等学校教育の基本的な考え方（5つの柱） <ol style="list-style-type: none"> (1) 持続可能な社会の創り手となる人材の育成 (2) 高校の多様化に対応、各自の希望する進路の実現 (3) 教育の質の保証、教育の機会の保障 (4) 地域や地域産業を担う人材の育成 (5) 県政課題等に対応した専門的知識を持つ人材の育成
地区割	9ブロック	6地区
項目の特長	<p>「学びの環境整備」について方向性を記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級定員及び学校の規模 ・県立高校と私立高校の関係 ・学校（学科）の配置 <p>等</p>	<p>「学びの環境整備」に加え「高等学校教育の充実に向けた方策」について具体を記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔教育・学校間連携 ・全日制高校への単位制導入 ・県政課題等に対応した人材育成の取組 ・いわて留学（県外募集） <p>等</p>

〔次期再編計画の土台として〕

県教育委員会においては、当該ビジョンを土台として、全ての生徒が変化の激しい社会に主体的に対応する資質・能力を備えることとともに、持続可能な社会の構築につなげることを目指して、今後の県立高等学校における教育環境の構築等に取り組みます。

第1章 新たな県立高等学校再編計画（平成28年度～令和7年度）の取組 （中間まとめ）

1 概要

(1) 策定の経緯

県教育委員会においては、高校教育の現状と課題を踏まえ、魅力ある学校づくりに向けて適切な教育環境の整備の推進を図るため、「新たな県立高等学校再編計画」（平成28年度～令和7年度）及び「新たな県立高等学校再編計画後期計画」（令和3年度～令和7年度）を策定した。計画策定の経緯は、以下のとおりである。

平成20年 4月 「第二次県立高等学校長期構想検討委員会」設置
平成21年 9月 同委員会から「今後の県立高等学校の在り方について」報告書提出
平成22年 3月 「今後の高等学校教育の基本的方向」策定
平成26年 5月 「県立高等学校教育の在り方検討委員会」設置
平成26年 12月 同委員会から「今後の県立高等学校の在り方について」報告書提出
平成27年 4月 「今後の高等学校教育の基本的方向」改訂
平成28年 3月 「新たな県立高等学校再編計画」策定
令和3年 5月 「新たな県立高等学校再編計画後期計画」策定

(2) 再編計画の期間

本計画は、平成28年度から令和7年度までの10年間の計画である。

このうち、平成28年度から令和2年度までの5年間の前期、令和3年度から令和7年度までの5年間の後期として、統合、学級数調整、学科改編等について、それぞれ具体的な県立高校の再編を計画したものである。

(3) 基本的な考え方

ア 特色と魅力を持った学校の整備

生徒の学習ニーズ、興味・関心等に適切に対応し、進路希望の実現を図るため、生徒が意欲を持って主体的に学ぶことができる特色と魅力を持った学校づくりを推進することが重要であるとした。

イ 教育機会と教育環境の確保

生徒数の減少が続く状況の中、広大な県土と多くの中山間地域を抱える本県において、教育機会の確保は大きな課題となっていた。一方で、集団生活を通じて社会性や協調性を育むためには、一定規模の人数が必要であるとした。

ウ 様々な課題を抱えた生徒に対応した学校の充実

教育上特別な支援を必要とするなど、様々な課題を抱えた生徒への適切な指導や支援体制の充実が必要であるとした。

エ 地域や産業と高校教育の連携

地域の産業構造や人材のニーズを踏まえ、地域における就職の実態等を見据えた学科編制や教育課程の編成を行い、各地域において産学官が連携し、広域的に組織している人材育成の取組と連携しながら、地域や地域産業を担い、発展に貢献できる人材の育成を図ることとした。

(4) 後期計画における基本的な考え方

後期計画においては、県立高校の現状と課題を踏まえ、教育の機会の保障と教育の質の保証を柱としつつ、地域における学校の役割を重視した魅力ある学校づくりに向けて、次の2つの考え方を基本として再編を進めることとした。

ア 生徒の希望する進路の実現

生徒の進路実現に向けた学力及び専門技術の定着・向上など、高校教育の充実への期待が高まる中、各ブロックにおける学校規模をできる限り維持することで学びの選択肢を確保するとともに、進学や専門分野の深い学びを希望する生徒のために一定の学校規模の確保や、幅広い教科・科目の開設、教員の指導体制の充実等により、多様な進路希望を実現できる教育環境の整備を図ることとした。

イ 地域や地域産業を担う人づくり

地域人材の育成等について高校の持つ役割の重要性や地域からの期待が高まる中、各地域の学校をできる限り維持し、多様な分野の学びも確保しながら、生徒が自己の興味・関心に基づき、地域の社会情勢や産業振興の動向等を踏まえ、学ぶことができる教育環境の整備を図ることとした。

(5) 学校・学級の規模

ア 学校規模に対する考え方

平成28年に策定した「新たな県立高等学校再編計画」（平成28年度～令和7年度）においては、生徒の個性や進路希望の多様化への対応、多様な教育活動の展開、及び集団活動による社会性の育成等の観点から、学校規模に対する考え方を示した。

その後、「新たな県立高等学校再編計画後期計画」（令和3年度～令和7年度）の策定に向けた地域との意見交換等において、地域の小規模校^{*4}の存続を求める意見が多かったことや、地方創生に果たす高校の役割等を考慮し、後期計画においては、現状の学校規模をできる限り確保する等、柔軟に対応することとした。

^{*4} 小規模校：1学年の募集学級数による学校規模が3学級以下の学校。

イ 周辺の高校への通学が極端に困難な学校の取扱い

近隣に他の高校がなく、他地域への通学が極端に困難な場合、地域における学びの機会を保障するため、特例として1学年1学級を最低規模とする学校（以下「特例校」という。）を配置することとし、特例校として葛巻高校、西和賀高校、岩泉高校の3校を指定した。

なお、1学年1学級の学校（以下「1学級校」という。）については、入学者数が2年連続で20人以下となった場合には、原則として、翌年度から募集停止とし、統合することとした。

ウ 1学級の規模

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」の規定に基づき、1学級の定員は40人を標準とした。

(6) 通学等の支援

本計画による県立高校の統合により、公共交通機関による通学の費用が大幅に増加する場合や、通学が困難になる場合には、他の地域との公平性も考慮した上で、通学支援策を導入していくこととした。

なお、具体的な支援策については、各地域での状況等が異なることから、地域の意見を伺いながら検討・実施することとした。

2 進捗状況と評価

(1) 進捗状況

学級編制については、原則として再編計画に基づき実施することとし、県内各ブロック内の中学校卒業予定者数や、各学校の定員充足状況等に大きな変化があった場合については、実施時期等の変更を検討することとした。

また、入学志願者で1学級定員（40人）以上の欠員を生じた場合には「岩手県立高等学校の管理運営に関する規則」に基づき、学級減を検討する可能性があることとした。

このような考え方にに基づき、計画期間中の学級編制を検討し、全県で4地区の学校統合、43学級の学級減を行った。

なお、令和7年度の西和賀高校の募集学級数については、令和6年度の入学者数の実績44人と西和賀町が見込む令和7年度の志願者数をもって判断することとし、1学級の臨時増とした。

ア 平成 28 年度の取組

[平成 29 年度の学級編制]

学校名	平成 28 年度 学科・学級数	再編内容	平成 29 年度 学科・学級数
大 槌	普通 3	1 学級減	普通 2
伊 保 内	普通 2	1 学級減	普通 1

イ 平成 29 年度の取組

[平成 30 年度の学級編制]

学校名	平成 29 年度 学科・学級数	再編内容	平成 30 年度 学科・学級数
雫 石	普通 2	1 学級減	普通 1
西 和 賀	普通 2	1 学級減 コース見直し	普通 1
水沢農業	農業 3	1 学級減 学科改編	農業 2
一関第二	総合 6	1 学級減 系列見直し	総合 5
大 船 渡	普通 5	1 学級減	普通 4
釜石商工	工業 3 商業 2	2 学級減 学科改編	工業 2 商業 1
種 市	普通 2 工業 1	1 学級減	普通 1 工業 1

〔再編計画による学校再編〕

杜陵高校通信制課程宮古分室を宮古高校通信制課程に再編

〔再編計画の学級減を延期した学校〕

葛巻高校

ウ 平成 30 年度の取組

[令和元年度の学級編制]

学校名	平成 30 年度 学科・学級数	再編内容	令和元年度 学科・学級数
盛岡第四	普通 7	1 学級減	普通 6
平 舘	普通 2 家庭 1	1 学級減 コース見直し	普通 1 家庭 1
岩 谷 堂	総合 5	1 学級減	総合 4
大 東	普通 3 商業 1	1 学級減	普通 2 商業 1
大船渡東	農業 1 工業 2 商業 1 家庭 1	1 学級減 学科改編	農業 1 工業 1 商業 1 家庭 1
宮古水産	水産 2 家庭 1	1 学級減 学科改編	水産 1 家庭 1
久 慈	普通 5	1 学級減	普通 4
大 野	普通 2	1 学級減	普通 1
福 岡	普通 5	1 学級減	普通 4

〔令和2年度の再編計画の統合を実施することとした地区〕

宮古地区（宮古工業高校と宮古商業高校）

〔令和2年度の再編計画の統合を延期することとした地区〕

遠野地区（遠野高校と遠野緑峰高校）

久慈地区（久慈東高校と久慈工業高校）

〔再編計画の学級減を延期した学校〕

葛巻高校、花巻南高校、水沢工業高校、前沢高校、山田高校

〔再編計画の統合等を延期した学校〕

盛岡工業高校（定時制）

エ 令和元年度の取組

〔令和2年度の学級編制〕

学校名	令和元年度 学科・学級数	再編内容	令和2年度 学科・学級数
盛岡北	普通6	1学級減	普通5
紫波総合	総合5	1学級減	総合4
北上翔南	総合6	1学級減	総合5
金ヶ崎	普通3	1学級減	普通2
一関第一	普通5 理数1	1学級減	普通4 理数1
一関工業	工業4	1学級減 学科改編	工業3
高田	普通4 水産1	1学級減	普通3 水産1
釜石	普通4 理数1	1学級減	普通3 理数1
山田	普通2	1学級減	普通1
宮古	普通6	1学級減	普通5
宮古工業	工業3	統合（校舎制） 2学級減 学科改編	〔宮古商工高校〕 工業2 商業3
宮古商業	商業4		

〔再編計画の学級減を延期した学校〕

盛岡第三高校、不来方高校、盛岡工業高校、葛巻高校、花巻南高校、
花北青雲高校、水沢工業高校、前沢高校、一戸高校

〔再編計画の統合等を延期した学校〕

盛岡工業高校（定時制）

オ 令和2年度の取組

〔令和2年度の再編計画の統合を延期することとした地区〕

久慈地区（久慈東高校と久慈工業高校）

〔令和2年度の再編計画の統合を計画から除外した地区〕

遠野地区（遠野高校と遠野緑峰高校）

〔再編計画の学級減を計画から除外した学校〕

盛岡第三高校、不来方高校、盛岡工業高校、葛巻高校、花巻南高校、
花北青雲高校、水沢工業高校、前沢高校、一戸高校

〔再編計画の統合等を計画から除外した学校〕

盛岡工業高校（定時制）

カ 令和3年度の取組

〔令和4年度の学級編制〕

学校名	令和3年度 学科・学級数	再編内容	令和4年度 学科・学級数
岩谷堂	総合4	1学級減	総合3

〔令和3年度の再編計画の統合を延期することとした地区〕

久慈地区（久慈東高校と久慈工業高校）

キ 令和4年度の取組

〔令和5年度の学級編制〕

学校名	令和4年度 学科・学級数	再編内容	令和5年度 学科・学級数
盛岡南	普通5 体育1	1学級減	普通4 体育1
不来方	普通7	1学級減	普通6
沼宮内	普通2	1学級減	普通1
紫波総合	総合4	1学級減	総合3
遠野	普通4	1学級減	普通3

〔令和7年度の再編計画の統合を実施することとした地区〕

久慈地区（久慈東高校と久慈工業高校）

ク 令和5年度を取組

[令和6年度の学級編制]

学校名	令和5年度 学科・学級数	再編内容	令和6年度 学科・学級数
福岡工業	工業2	統合（校舎制）	[北桜高校] 工業2 総合3
一戸	総合3		
前沢	普通2	1学級減	普通1
大槌	普通2	学科改編	普通(地域探究科 [*])2

※普通科改革(普通教育を主とする学科の弾力化)により学科改編したもの。

ケ 令和6年度を取組

[令和7年度の学級編制]

学校名	令和6年度 学科・学級数	再編内容	令和7年度 学科・学級数
盛岡南	普通4 体育1	統合 3学級減 学科改編	[南昌みらい高校] 普通8
不来方	普通6		
久慈東	総合5	統合（校舎制） 1学級減 学科改編	[久慈翔北高校] 工業1 総合5
久慈工業	工業2		
北上翔南	総合5	1学級減	総合4
西和賀	普通1	1学級増	普通2

(2) 評価

ア 計画の推進

前期計画においては、4つの基本的な考え方^{*5}を基に再編を進め、後期計画においては、教育の機会の保障と教育の質の保証を柱としつつ、地域における学校の役割を重視した学校づくりに向けて、2つの基本的な考え方^{*6}を基に再編を進めた。

再編計画の推進に当たっては、計画の着実な実施が重要と考える一方で、中学校卒業予定者数や各学校の入学者の状況等を十分に把握したうえで、地方創生に向けた地域の取組状況を見極める等、地域の実情を踏まえた判断が必要であった。

このことから、県内各地域の地方創生に向けた取組の充実、工業等の人材確保に向けた産業界のニーズの高まり、入学志願者の増加など、計画策定後の状況の変化を十分に勘案したことにより、再編の実施時期を延期及び除外した学校があった。また、社会情勢等の変化による校舎等の施設整備の工期遅延はあるものの、

*5 基本的な考え方(前期計画)：1p参照。

*6 基本的な考え方(後期計画)：2p参照。

より良い教育環境の整備に向けて、概ね計画の考え方に沿った再編を進めたところである。

具体的な取組の例として、統合を行った4校のうち3校においては、独立校舎型校舎制^{*7}を採用し、既存の校舎及び施設等を有効に活用することとしており、学校規模の拡大により合同行事や部活動等、教育活動の活性化を図ることができたが、生徒交流や教員業務で校舎間の移動に起因する課題が生じた。

なお、通学支援策については、公共交通機関による通学の費用が大幅に増加する場合や、通学が困難になる場合には、他の地域との公平性も考慮した上で導入することとしていたが、統合を行った4校のうち3校が独立校舎型校舎制による統合、1校が近隣に所在する2校の統合であったことから、検討を必要としなかった。

[推進状況]

年度	中学校 卒業生数	県立高校（全日制）の編制			
		学校数	募集学級数	学科種別	
平成28年度 〔前期計画〕 〔初年度〕	12,081人 ^{※2}	63校	255学級	普通科 ^{※5}	148学級
				専門学科	77学級
				総合学科	30学級
令和3年度 〔後期計画〕 〔初年度〕	10,092人 ^{※2}	62校	224学級	普通科 ^{※5}	129学級
				専門学科	69学級
				総合学科	26学級
令和6年度 (現時点)	9,954人 ^{※3}	61校	217学級	普通科 ^{※5}	124学級
				専門学科	69学級
				総合学科	24学級
令和7年度 ^{※1} 〔現行計画〕 〔最終年度〕	9,729人 ^{※4}	59校	213学級	普通科 ^{※5}	122学級
				専門学科	68学級
				総合学科	23学級

※1 令和7年度の県立高校（全日制）の編制は、再編計画に基づく統合による学校数減等を反映させたもの。

※2 平成28年3月及び令和3年3月の中学校卒業生数であり、学校基本調査による。

※3 令和6年3月の中学校卒業生数であり、令和6年5月時点の学校教育室調査による。

※4 令和7年3月の中学校卒業生数であり、令和6年5月時点の学校教育室調査による推計値である。

※5 普通科には、理数科及び体育科を含む。

^{*7} 校舎制：学校運営において、統一した基本方針のもとに、複数の校舎を使用し、一つの学校として機能させるものであり、従来の本校、分校とは異なり、大学のキャンパス制のイメージである。

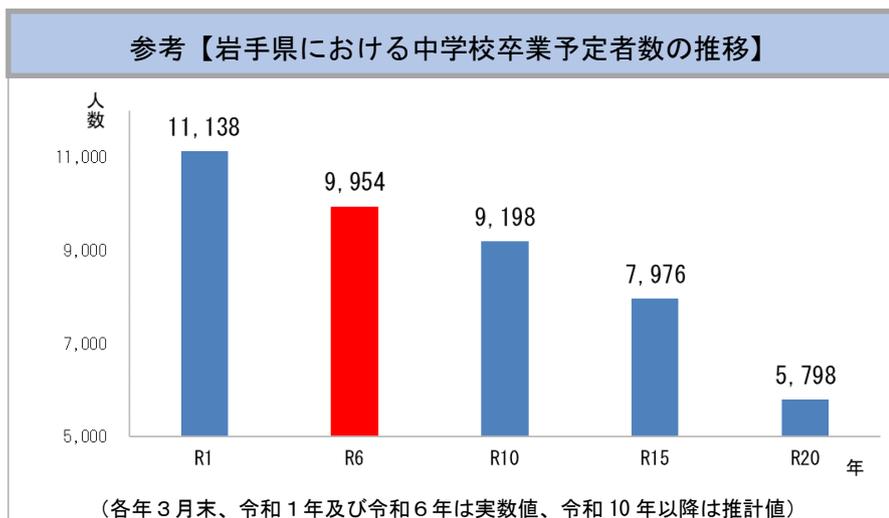
イ 実施後の状況

計画期間の最終年度となる令和7年度には、1学年4学級以上の学校は30校（H28年度比▲6校）であり、1学級校は10校（同+6校）となる見込みである。

今後も中学校卒業者数の減少が見込まれるため、県内全域における学校規模の縮小に伴う教育の質の確保が難しくなることが懸念されることから、生徒一人一人の多様な学びの実現に支えていくための教育環境の整備について、全県的な視野で検討を進める必要があるものとする。

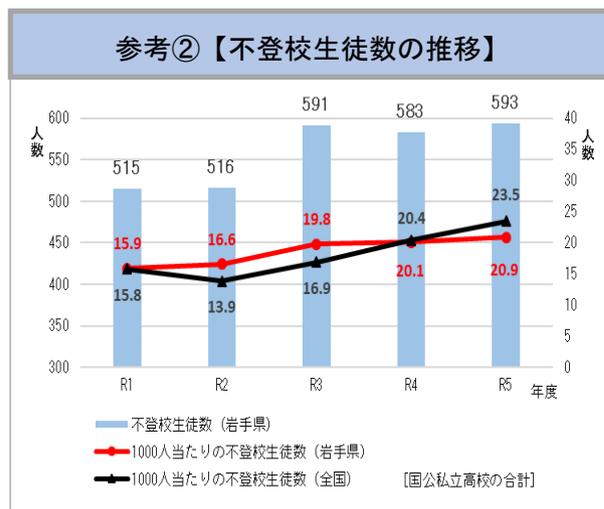
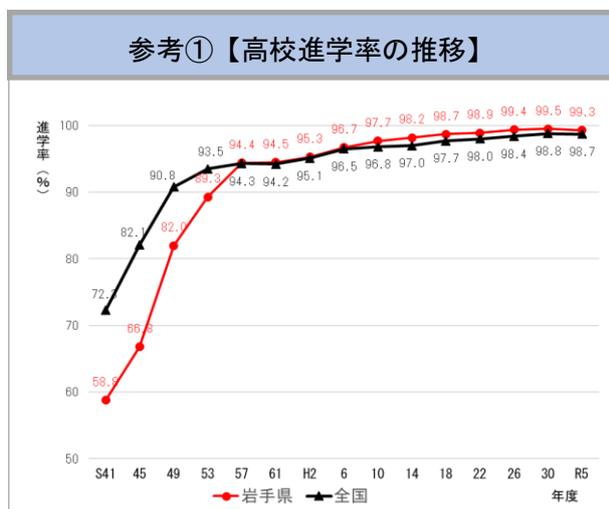
第2章 岩手の高等学校教育の基本的な考え方

変化の激しい時代に、少子化・人口減少が進む一方で、ふるさと振興の願いが強まる中、郷土を愛し、復興を支え、未来の岩手をつくるのは、未来を生きる今の子どもたちである。その子どもたちを、広大な県土を有する本県の地理的要因によって教育の機会を損なうことなく、様々な社会的変化を乗り越えて豊かな人生を切り拓く力を身に付けさせ、**持続可能な社会の創り手、地域や地域産業を担う人材**として育成していくことが、これからの岩手の未来を切り拓く礎になると考える。



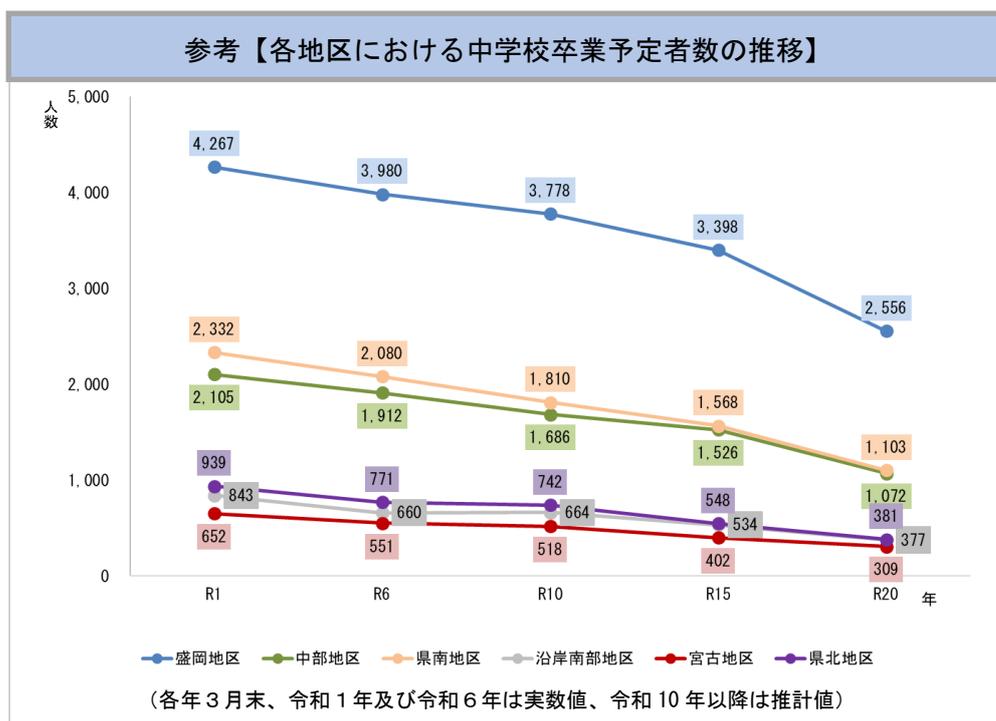
そのためには、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や、地域等との協働による多様な人間関係の中で得られる学びにより、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力・人間性等」を向上させ、岩手の子どもたち一人一人が「**確かな学力**」「**豊かな心**」「**健やかな体**」をバランスよく兼ね備え、自立した人間として生涯にわたり学習する基盤を培う必要がある。

高等学校は義務教育機関ではないが、本県においても既に進学率が99%を超え、中学校を卒業したほぼ全ての生徒が進学する教育機関となっており、多様な入学動機や進路希望、学習経験、不登校傾向など、様々な背景を持つ生徒や教育上特別な支援を必要とする生徒が在籍しており、高等学校の実態も多様化している。

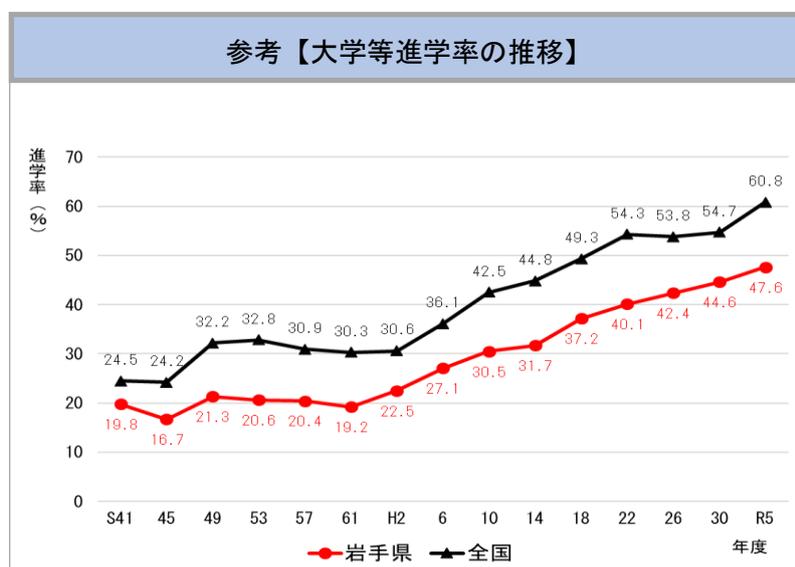


こうした実態を踏まえつつ、高等学校教育においては、義務教育で育成された資質・能力を更に発展させながら、生徒が高等学校在学中に成年に達することを踏まえ、社会で必要となる資質・能力を共通して身に付けられるよう「**共通性の確保**」を図りつつ、生徒一人一人の特性に応じた多様な可能性や能力を伸ばし、各自が希望する進路の実現に必要な多様な学習機会を提供できるよう「**多様性への対応**」を併せて進める必要がある。

また、県内全ての地域で少子化が加速する中、地域の高等学校の在り方を考えるに当たり、**教育の機会の保障と教育の質の保証**を図りつつ、生徒が進学したいと思える学校づくり、**特色化・魅力化**を進め、生徒の学習意欲を高めていくことも必要である。



さらに、大学進学率の向上や、県政課題である医師確保をはじめ、研究者・技術者・IT等の専門的知識を持つ人材の育成に向けた**学力向上への対応**が求められている。



以上のような状況を踏まえ、今後の本県における高等学校教育の基本的な考え方として以下の**5つ**を柱に据え、各県立高校の役割や特色等に応じた教育環境の構築に取り組むことが適切ではないかと考える。

- 変化の激しい社会の中で豊かな人生を切り拓くために必要な資質・能力を備え、多様な人々と協働しながら、これからの社会を維持・発展させていく**持続可能な社会の創り手**となる人材の育成に向けた教育環境の構築に取り組む。
- 様々な背景を持つ生徒や、教育上特別な支援を必要とする生徒が在籍する等、高等学校の実態が多様化する中、よりインクルーシブな教育*⁸ 環境の構築や、生徒一人一人の特性に応じた多様な可能性や能力を最大限に伸ばし、各自の**希望する進路の実現**を可能とする生徒を主語とした教育環境の構築に取り組む。
- 今後も見込まれている生徒数減少により、更なる学校の小規模化が懸念される中、**教育の質の保証**に向け、ICT*⁹ の利活用も含めた教育環境の構築に取り組む。また、広い県土と多くの中山間地を抱える本県の地理的状况を踏まえ、生徒の**教育の機会の保障**に向けた学校の配置に取り組む。
- 地域社会や地元企業等と連携・協働し、**高等学校の特色化・魅力化***¹⁰ を進めながら、地域への理解を深め、**地域や地域産業を担う人材の育成**に向けた教育環境の構築に取り組む。
- 大学進学率の向上や、県政課題等に対応した専門的知識を持つ人材の育成に向けた**学力向上やキャリア形成支援**に資する教育環境の構築に取り組む。

*⁸ **インクルーシブ教育**：障がいの有無にかかわらず、可能な限り共に学ぶ、共に育つ教育を進めるもの。いわて特別支援教育推進プラン(2024～2028)では、基本理念を「共に学び、共に育つ教育」を基本理念とし、共生社会の実現を目指している。

*⁹ **ICT**：情報や通信に関連する科学技術の総称であり、インターネットやパソコンなどの情報通信機器を用いて人と人とのコミュニケーションを実現する技術。

*¹⁰ **高校の特色化・魅力化**：県教育委員会が令和3年10月に定めた「いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031」に基づき、各校が策定した「スクール・ポリシー」の実現に向け、独自の特色や魅力を持たせる取組。

第3章 県立高校の学びの在り方

1 高校の特色化・魅力化

【現状】

- ・ 本県で独自に培われてきた「教育振興運動^{*11}」や「いわての復興教育^{*12}」により、学校と地域等との連携や幼保小中高まで一体となった取組が推進されている。
- ・ 県教育委員会では、令和3年に「いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031」を策定し、各高校の存在意義・社会的役割の明確化（スクール・ミッションの再定義）を行った。
- ・ これに基づき、すべての県立高校は令和4年度中に、地域等関係機関との協働により、スクール・ポリシー^{*13}を策定した。
- ・ スクール・ポリシーに基づいた特色・魅力ある学校づくりの取組は、令和4年度から国の交付金を活用した「いわて高校魅力化・ふるさと創生推進事業」（事業期間：令和4～6年度）により実施している。
- ・ この事業により、生徒の資質・能力の育成と地域等のコミュニティの持続的な発展を図る「高校魅力化」の取組を深化させるとともに、全県立高校に横展開することによって県内全域における中長期的な「高校と地域等との共創による地域を担う人づくり」を推進している。
- ・ これにより、各校において地域等との協働による生徒の探究的な活動等が充実・発展するとともに、各校・各地域における特色化・魅力化の取組も進んでいる。
- ・ 全国規模で実施されるアンケート調査によれば、地域等への当事者意識に関する項目において県平均が全国平均を上回る結果となるなど、「高校魅力化」の取組の成果が現れてきている。
- ・ 現在、国において、小規模校の教育条件の改善等に関する議論が行われており、地域との協働や他校との連携において、コミュニティ・スクール^{*14}の導入やコーディネーター等の専門的な人材の配置等、体制・環境の整備を進めるべきとの方向性が示されている。

*11 教育振興運動：岩手県において昭和40年から始まり、全ての市町村に推進組織が置かれ、学校区や公民館区などの実践区において、子ども、家庭、学校、地域、行政の5者が一体となり、地域の教育課題を解決するために自主的に行われている実践活動の総称。

*12 いわての復興教育：郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するために、各学校の教育活動を通して、3つの教育的価値（いきる・かかわる・そなえる）を育てることであり、県内全ての学校で実践している取組のこと。

*13 スクール・ポリシー：各校で定める3つの方針「育成を目指す資質・能力に関する方針」、「教育課程に関する編成・実施に関する方針」、「入学者の受入れに関する方針」のこと。

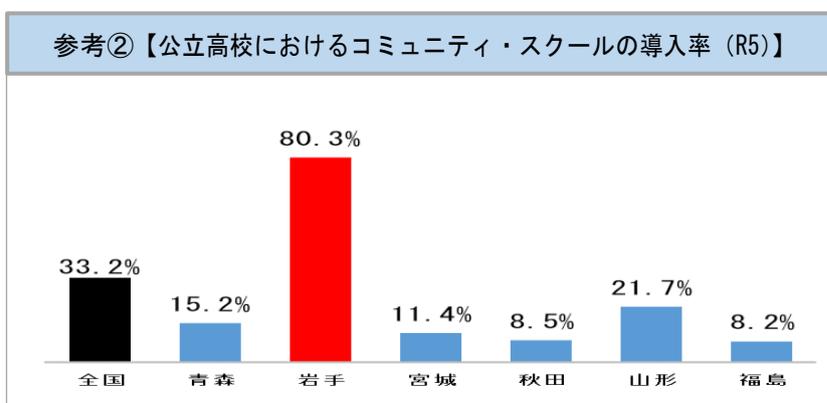
*14 コミュニティ・スクール：学校運営協議会を設置する学校のこと。学校と保護者や地域の人々がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることにより、連携・協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える仕組み。

- 「高校魅力化」の取組の成果の一つとして、令和5年度末までに全県立高校63校中51校においてコンソーシアム^{*15}（学校運営協議会含む）が設置されるとともに、学校運営協議会に生徒がオブザーバーとして参加する事例や、他の関係団体、個人とコンソーシアムを構築する事例があるなど、県立高校と地域等との協働が進められている。

参考①【地域等への当事者意識に関する項目の全国平均との比較】			
質問項目	県平均	全国平均	差(pt)
地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	62.5%	59.8%	2.7
将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	68.2%	66.5%	1.7

数値は各質問項目に対して「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の肯定的回答数の割合を示す。

出展：高校魅力化評価システムによる調査分析（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）



【課題】

- 県立高校と地域等との連携・協働の深化に向け、各校の取組を一層推進する必要がある。
- 地域等との連携・協働の企画・推進を中心的に担うコーディネーター等の専門的な人材の育成や確保に課題がある。

【ビジョン】

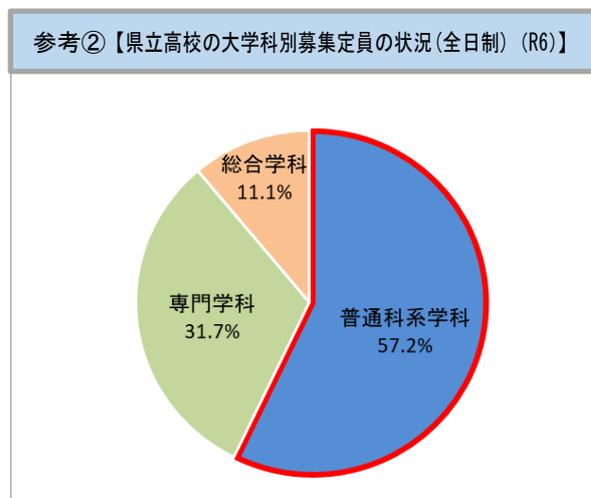
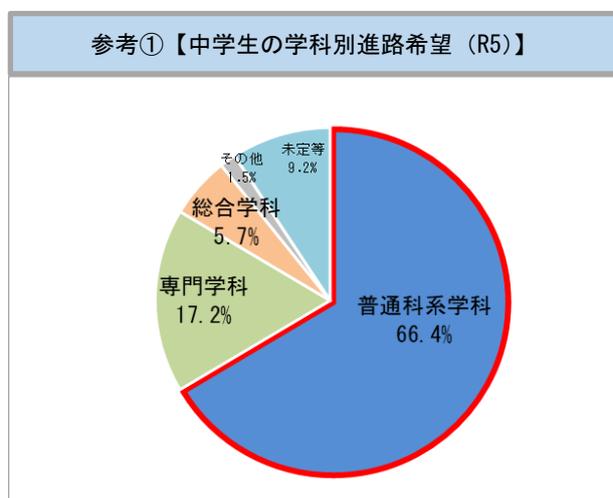
- 生徒の学習意欲を喚起し、一人一人の可能性や能力を最大限に伸ばすため、高校の特色化・魅力化を推進し、各高校によるスクール・ポリシーを踏まえた教育活動を支援する。
- 本県でこれまで培われてきた各県立高校と地域・企業・大学等との連携・協働を深化させるとともに、取組の持続可能性を高める環境づくりに取り組む。
- 高校の特色化・魅力化に当たり、地域人材等の有効な資源との連携・協働の推進に向けたコーディネーター等の専門人材の配置については、現在、国において検討が進められていることから、今後の国の動向や他県の状況等を踏まえたうえで検討し、取り組む。

*15 コンソーシアム：2つ以上の個人、企業、団体、政府等（あるいはこれらの任意の組合せ）からなる団体で、共同で何らかの目的に沿った活動を行うために結成されるもの。

2 普通高校（普通科、理数科又は体育科を置く県立高校）

【現状】

- 普通科は、普通教育を通して幅広い教養と社会性の育成、適切な進路選択ができる能力や態度を育成することを目的としており、将来の進路を見極め、その進路に向かうための準備教育としての役割を担っている。
- 理数科や体育科は、共通科目の履修を基本としながら、理科・数学、体育等の特定の専門分野を重点的に学ぶことを目的としており、本県では普通科と併置している状況にある。
- 中学生の進路意識調査（R5 実施）^{*16}では、普通科（理数科、体育科を含む。以下同じ。）を志望する生徒の割合は6割を超えており、令和6年度入試における全日制課程普通科の募集定員は4,960人と、県全体の57.2%を占めており、中学生の志望動向に近い状況となっている。



- 令和3年の中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」において、STEAM教育^{*17}等の教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成の必要性が提言されている。
- 現在、国においては、情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的で探究的な学びを強化する学校などに対して、取組に必要な環境整備の経費を支援する「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）^{*18}」を推進することとしている。

^{*16} 中学生の進路意識調査(R5)：県内すべての国公立中学校第3学年及び義務教育学校第9学年の生徒及び生徒の保護者を対象とし、中学校等を卒業後の進路等に対する希望や考え方について、全県的な規模で把握するため令和5年7月に実施したアンケート調査。対象校数145校、対象生徒数9,888人、対象保護者数9,888人、回答生徒数8,960人(90.6%)、回答保護者数4,935人(49.9%)。

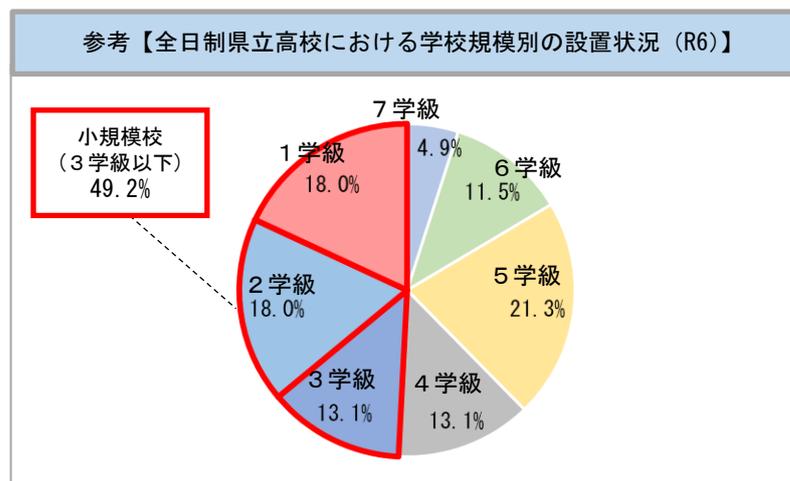
^{*17} STEAM教育：教育再生実行会議第11次提言において、「各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育」とされているもの。Science、Technology、Engineering、Art、Mathematics等、各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育(ある教科の学びを他の教科等の学びで活用したり関連づけたりすることで、学びが深まり、活用できることを実感できる教育)。

^{*18} 高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)：情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的な探究的な学びを強化する事業。

- 令和6年度における理数科を置く県立高校は4校で、いずれも普通科とのくくり募集を行っている。理数科、普通科の選択は2学年進級時に行われており、難関大学を志望する生徒が理数科を選択する傾向が見られる。
- 令和6年度における体育科を置く県立高校は1校である。後期計画における盛岡ブロック^{*19}の学校統合により、再編することとしている。
- 令和6年度における総合選択制の県立高校は2校で、普通科に人文・理数、芸術、体育などの学びの分野（学系）を設け、多様な進路希望に対応した教科・科目を開設している。

【課題】

- 令和6年度における普通科を置く県立高校39校のうち、募集学級数が3学級以下の小規模校は20校である（うち11校は1学級校）。小規模校における教育の質の確保等に向けた方策について検討する必要がある。



- 進学を希望する生徒が多い普通高校においては、大学進学を中心とした学習指導が行われているが、進路希望を叶えるために必要となる学力を如何にして身に付けさせるかに課題がある。
- 現在、国による普通教育を主とする学科の弾力化、いわゆる「普通科改革^{*20}」が進められていることから、本県においても普通科の特色化・魅力化について検討する必要がある。

*19 ブロック：本文34p参照。

*20 普通科改革：本文44p参照。

【ビジョン】

- ・ 普通高校に学ぶ生徒の進路は、大学、専修学校等への進学や就職等、多岐にわたっており、生徒・保護者のニーズや社会の変化に対応した学びの保障や、生徒の資質・能力の向上を図るため、教育課程の見直しや、教育活動の特色化・魅力化等の取組を更に進める。
- ・ 学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実していく必要があることから、探究的な学び^{*21}、文理横断的な学び^{*22}の充実を図りながら、DXハイスクールの取組を進め、新たな学科やコース等の設置について検討し、取り組む。
- ・ 理数科等、普通科系の専門学科については、県全体のニーズや卒業後の進路状況を見据え、学科や学系の構成、その内容について検討し、取り組む。
- ・ 小規模の普通高校においては、将来的な生徒数減少の状況や、教育の機会の保障と質の保証の観点から踏まえつつ、より良い教育環境の整備を図るため、他の高校との再編等を検討し、進める。

[令和6年度の設置状況]

学校規模 ^{*1}	学校（設置学科）
7 学級	盛岡第一（普通科6 ^{*2} 、理数科 ^{*3} ）、盛岡第三（普通科）
6 学級	盛岡第四（普通科）、不来方（普通科・総合選択制）、花巻北（普通科）、黒沢尻北（普通科）、水沢（普通科5、理数科）
5 学級	盛岡第二（普通科）、盛岡北（普通科）、盛岡南（普通科4（体育コース含む）、体育科）、花巻南（普通科・総合選択制）、一関第一（普通科4、理数科）、千厩（普通科3、[生産技術科、産業技術科]）宮古（普通科）
4 学級	高田（普通科3、[海洋システム科]）、大船渡（普通科）、釜石（普通科3、理数科）、久慈（普通科）、福岡（普通科）
3 学級	大東（普通科2、[情報ビジネス科]）、遠野（普通科）
2 学級	葛巻（普通科）、平舘（普通科1、[家政科学科]）、金ヶ崎（普通科）、大槌（普通科（地域探究科 ^{*4} ））、岩泉（普通科）、種市（普通科1、[海洋開発科]）、軽米（普通科）
1 学級	沼宮内（普通科）、雫石（普通科）、大迫（普通科）、西和賀（普通科）、前沢（普通科）、花泉（普通科）、住田（普通科）、山田（普通科）、宮古北（普通科）、大野（普通科）、伊保内（普通科）

※1 1 学年の募集学級数を表す。複数の学科を併置する学校においては、普通科の募集学級数と異なる。なお、併置校における普通科以外の学科を [] 内に示している。

※2 上記※1 に該当する学校における普通科の募集学級数を表す。

※3 理数科を設置する学校では、普通科とのくくり募集を行っている。

※4 普通科改革(普通教育を主とする学科の弾力化)により R6 年度学科改編したもの。

※21 探究的な学び：身に付けた知識・技能を活用し、自らの課題を発見する力、他者と協働しながら主体的に課題解決を図ろうとする力、定まった答えのない課題に対しても最善解を導き新たな価値を創造していく力などの育成を目指す学び。

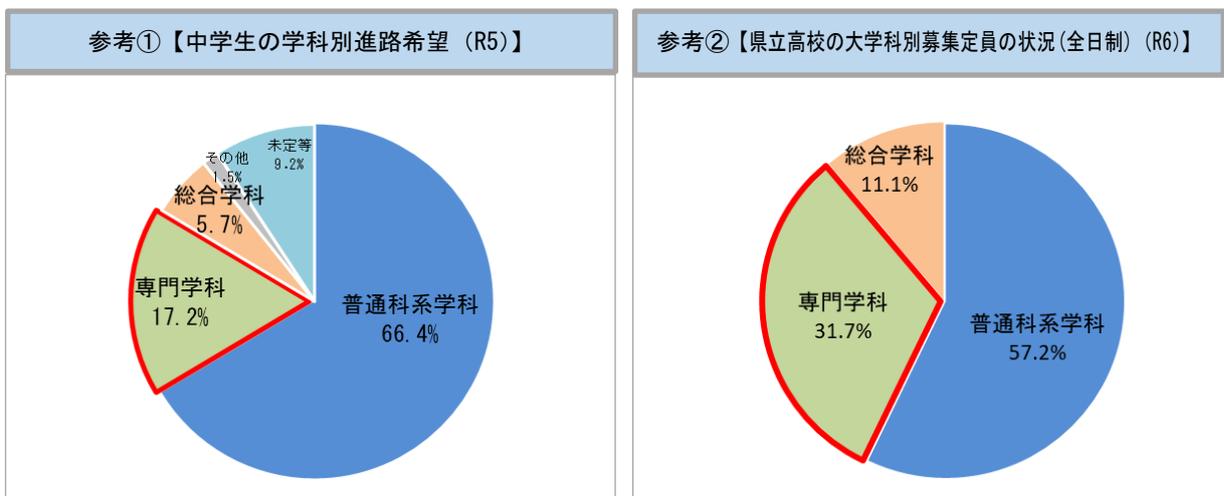
※22 文理横断的な学び：文系・理系の学問分野を横断的に学ぶことであり、広い視野を養い、多角的に物事を捉える能力の育成を目指す学び。

3 専門高校（農業、工業、商業、水産、家庭など、職業教育を主とする学科（以下「職業学科」という。）を置く県立高校）

(1) 全体

【現状】

- ・ 専門高校においては、地域産業や社会が求める人材像を把握し、そのニーズに応えるよう人材育成に取り組んでいる。
- ・ 中学生の進路意識調査（R5 実施）では、専門学科を志望する生徒の割合は 17.2% であり、令和 6 年度入試における全日制課程の募集定員は 2,760 人と、県全体の 31.7% を占めており、中学生の志望動向との間に開きがある状況である。



- ・ 令和 6 年度における専門高校 22 校のうち、募集学級数が 3 学級以下の小規模校は 11 校である。また、22 校のうち、職業学科 1 種類当たりの募集学級数が 1 学級の学校は 10 校あり、学科の中にコースを設置すること等により、専門的な学びの選択の幅を確保している。
- ・ 現在、国においては、高校段階におけるデジタル人材の育成の強化に向け、ICT を活用した探究的な学び等を強化する学校などを支援する「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」を推進することとしている。

【課題】

- ・ 定員充足率が低い学科もある中、地域の産業構造やニーズに合った学科編制及び学びの内容となっているか等、状況を精査しながら今後の在り方について検討を進める必要がある。

【ビジョン】

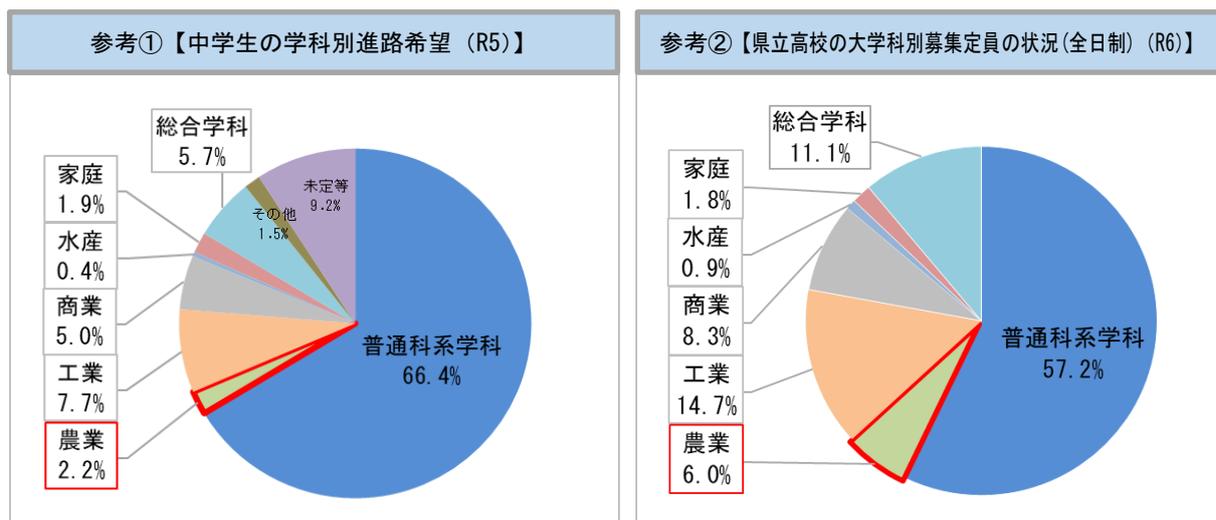
- ・ 専門高校については、産業振興の方向性や、地域が必要とする産業の人材育成を見据えた学科編制や学びの在り方について、国の動向も注視しながら検討し、取り組む。

- ・ 地域産業を担う人材の育成や課題の解決に向け、必要に応じて知事部局等と連携しながら、地域や産業界と学校との連携・協働の推進に取り組む。
- ・ 学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のため、探究的な学び、実践的な学びの充実を図りながら、DXハイスクールの取組を進める。
- ・ 各専門分野の中心的役割を担う専門高校については、学校規模を維持することにより、職業教育のセンター・スクールとしての機能を維持する。
- ・ 小規模の専門高校においては、各分野の専門性を維持しながらより良い教育環境の整備を図るため、より広域での再編も視野に入れながら、総合的な専門高校*23への再編や他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

(2) 農業に関する学科

【現状】

- ・ 中学生の進路意識調査（R5 実施）では、農業に関する学科を志望する生徒の割合は2.2%であり、令和6年度入試における全日制課程の募集定員は520人と、県全体の6.0%を占めている。



- ・ 令和6年度における農業に関する学科の設置状況は、6校13学級となっており、このうち、3校（10学級）は農業に関する学科のみを設置する学校で、3校（3学級）は他の学科を併置する学校である。
- ・ 総合学科*24を置く県立高校6校においても、農業に関する系列*25を設置しており、選択者数は少ない傾向にある。

*23 総合的な専門高校：本文26p参照。

*24 総合学科：本文27p参照。

*25 系列：総合学科高校において、生徒の科目選択の参考となるように関連する科目をまとめたもの。

【課題】

- ・ 定員充足率が低い学科もある中、地域や生徒のニーズに合った学科編制や学びの内容となっているか等、状況を精査しながら今後の在り方について検討を進める必要がある。

【ビジョン】

- ・ 地域の農業形態や産業構造及び地域のニーズ等を考慮しながら、農産品を活用した商品開発等、6次産業化^{*26}へ対応した教育課程の見直しや学科改編等を検討し、取り組む。
- ・ 小規模な農業高校（科）においては、専門性を維持しながらより良い教育環境の整備を図るため、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

〔令和6年度の設置状況〕

学校名(学校規模) ^{※1}	設置学科等
盛岡農業（5）	動物科学科、植物科学科、食品科学科、人間科学科、環境科学科
花巻農業（3）	生物科学科、環境科学科、食農科学科
水沢農業（2）	農業科学科、食品科学科
千厩（5）	生産技術科1 ^{※2} 、[普通科、産業技術科]
大船渡東（4）	農芸科学科1、[機械電気科、情報処理科、食物文化科]
遠野緑峰（2）	生産技術科1、[情報処理科]
紫波総合（3）	総合学科（エコロジー・フード系列）、[他4系列]
北上翔南（5）	総合学科（環境系列）、[他3系列]
岩谷堂（3）	総合学科（生物生産系列）、[他5系列]
一関第二（5）	総合学科（環境・生活系列）、[他4系列]
久慈東（5）	総合学科（環境緑化系列）、[他6系列]
北桜（5）	総合学科（生活・文化系列）、[他3系列]、[機械システム科、電気情報システム科]

※1 1学年の募集学級数を表す。複数の学科を併置する学校においては、農業に関する学科の募集学級数と異なる。また、総合学科高校においては、1年次は共通の教育課程で学び、2年次から各系列に分かれる。なお、併置校や総合学科高校における他の学科等を〔 〕内に示している。

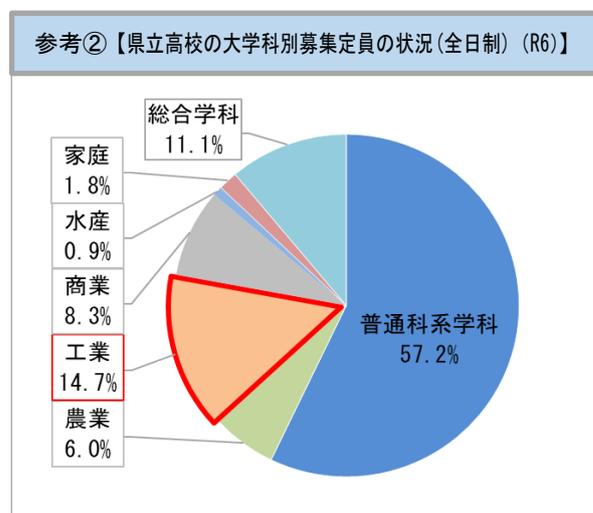
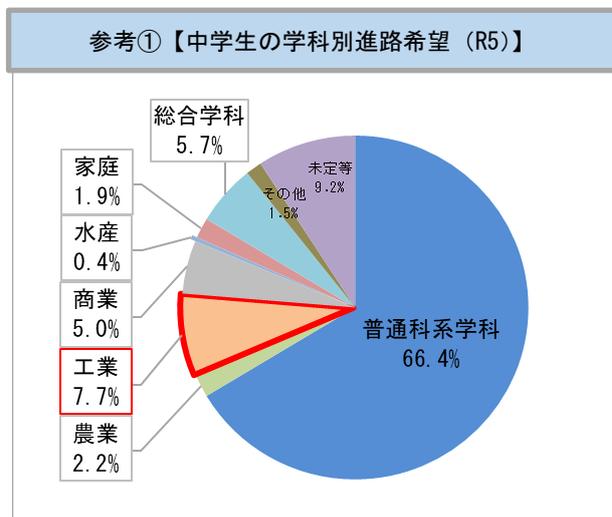
※2 上記※1に該当する学校における農業に関する学科の募集学級数を表す。

*26 6次産業化：1次産業（農林漁業）、2次産業（製造業）、3次産業（小売業等の事業）の総合的かつ一体的な推進を図り、新たな付加価値を生み出す取組。

(3) 工業に関する学科

【現状】

- 中学生の進路意識調査（R5 実施）では、工業に関する学科を志望する生徒の割合は7.7%であり、令和6年度入試における全日制課程の募集定員は1,280人と、県全体の14.7%を占めている。



- 令和6年度における工業に関する学科の設置状況は、12校32学級となっており、このうち、5校（22学級）は工業に関する学科のみを設置する学校で、7校（10学級）は他の学科を併置する学校である。
- 後期計画において、県南地域に工業高校を新設することとしている。
- 総合学科を置く県立高校1校においても、工業に関する系列を設置しており、選択者数は少ない傾向にある。

【課題】

- 定員充足率が低い学科もある中、地域や生徒のニーズに合った学科編制や学びの内容となっているか等、状況を精査しながら今後の在り方について検討を進める必要がある。
- 土木の学びを設置している学校が、内陸部及び沿岸北部に偏在していることから、配置バランスについて検討を進める必要がある。

【ビジョン】

- 地域の産業構造やニーズを踏まえながら、工業に関する専門教育の充実と卒業後の進路を見据えるとともに、関連する幅広い分野について学習できるよう他の職業学科との連携を図りながら、教育課程の見直しや学科改編等を検討し、取り組む。
- 小規模な工業高校（科）においては、専門性を維持しながらより良い教育環境の整備を図るため、学びの配置バランスを考慮するとともに、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

[令和6年度の設置状況]

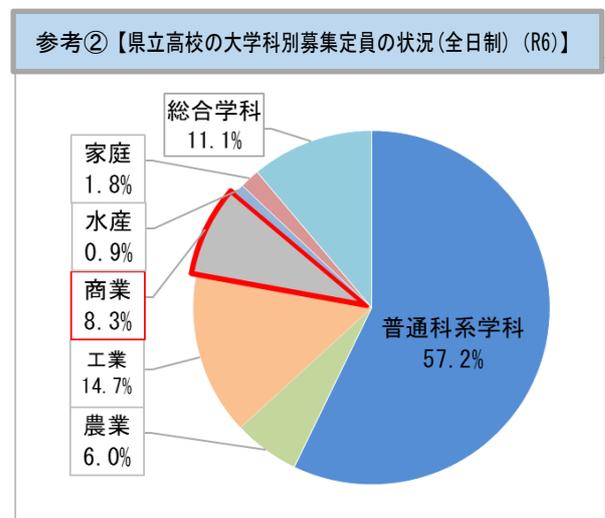
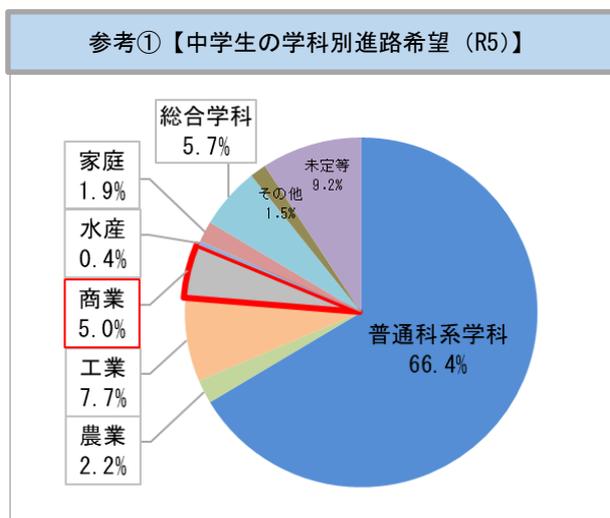
学校名(学校規模) ^{※1}	設置学科等
盛岡工業(7)	機械科、電気科、電子情報科、電子機械科、工業化学科、土木科、建築・デザイン科
黒沢尻工業(6)	機械科、電気科、電子科、電子機械科、土木科、材料技術科
水沢工業(4)	機械科、電気科、設備システム科、インテリア科
一関工業(3)	電気電子科、電子機械科、土木科
久慈工業(2)	電子機械科、建設環境科 ^{※3}
北桜(5)	機械システム科1 ^{※2} 、電気情報システム科1、[総合学科4系列]
花北青雲(4)	情報工学科1、[ビジネス情報科、総合生活科]
千厩(5)	産業技術科1、[普通科、生産技術科]
大船渡東(4)	機械電気科1、[農芸科学科、情報処理科、食物文化科]
釜石商工(3)	機械科1、電気電子科1、[総合情報科]
宮古商工(5)	機械システム科1、電気システム科1、[総合ビジネス科、流通ビジネス科、情報ビジネス科]
種市(2)	海洋開発科 ^{※3} 1、[普通科]
岩谷堂(3)	総合学科(産業工学系列)、[他5系列]

- ※1 1学年の募集学級数を表す。複数の学科を併置する学校においては、工業に関する学科の募集学級数と異なる。また、総合学科高校においては、1年次は共通の教育課程で学び、2年次から各系列に分かれる。なお、併置校や総合学科高校における他の学科等を [] 内に示している。
- ※2 上記※1に該当する学校における工業に関する学科の募集学級数を表す。
- ※3 土木系の学科

(4) 商業に関する学科

【現状】

- ・ 中学生の進路意識調査(R5実施)では、商業に関する学科を志望する生徒の割合は5.0%であり、令和6年度入試における全日制課程の募集定員は720人と、県全体の8.3%を占めている。



- ・ 令和6年度における商業に関する学科の設置状況は、8校18学級となっており、こ

のうち、2校（9学級）は商業に関する学科のみを設置する学校で、6校（9学級）は他の学科を併置する学校である。

- ・ 総合学科を置く県立高校6校においても、商業に関する系列を設置しており、選択者数は多い傾向にある。

【課題】

- ・ 定員充足率が低い学科もある中、地域や生徒のニーズに合った学科編制や学びの内容となっているか等、状況を精査しながら今後の在り方について検討を進める必要がある。

【ビジョン】

- ・ 他の学科においても、6次産業化へ対応した商業に関する学びが求められていることから、学校や学科を超えた連携を図るとともに、地域の産業構造やニーズを踏まえながら、教育課程の見直しや学科改編等を検討し、取り組む。
- ・ 小規模な商業高校（科）においては、専門性を維持しながらより良い教育環境の整備を図るため、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

〔令和6年度の設置状況〕

学校名(学校規模) ^{※1}	設置学科等
盛岡商業（6）	流通ビジネス科、会計ビジネス科、情報ビジネス科
水沢商業（3）	商業科、会計ビジネス科、情報システム科
花北青雲（4）	ビジネス情報科 ^{※2} 、[情報工学科、総合生活科]
大東（3）	情報ビジネス科1、[普通科]
大船渡東（4）	情報処理科1、[農芸科学科、機械電気科、食物文化科]
釜石商工（3）	総合情報科1、[機械科、電気電子科]
遠野緑峰（2）	情報処理科1、[生産技術科]
宮古商工（5）	総合ビジネス科1、流通ビジネス科1、情報ビジネス科1、[機械システム科、電気システム科]
紫波総合（3）	総合学科（情報・経済系列）、[他4系列]
北上翔南（5）	総合学科（情報系列）、[他3系列]
岩谷堂（3）	総合学科（流通情報系列）、[他5系列]
一関第二（5）	総合学科（ビジネス系列）、[他4系列]
久慈東（5）	総合学科（情報ビジネス系列）、[他6系列]
北桜（5）	総合学科（情報ビジネス系列）、[他3系列、機械システム科、電気情報システム科]

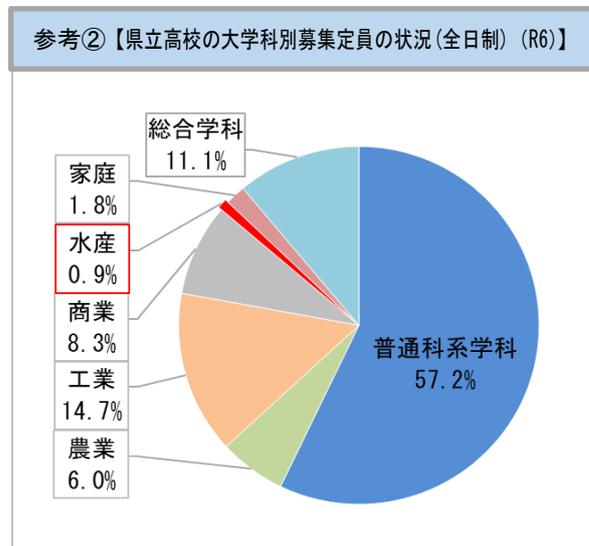
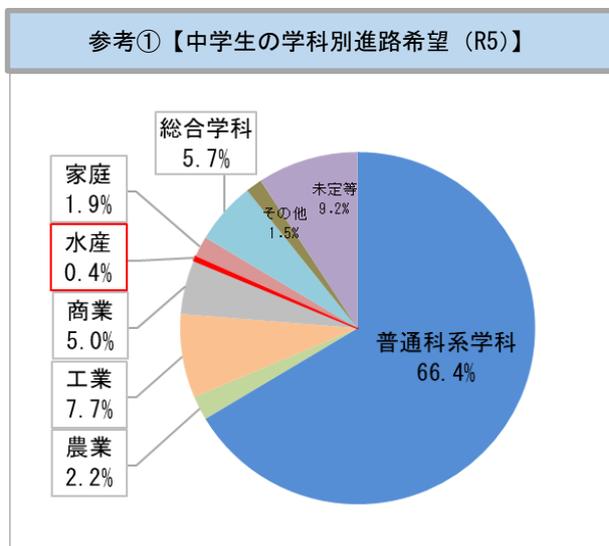
※1 1学年の募集学級数を表す。複数の学科を併置する学校においては、商業に関する学科の募集学級数と異なる。また、総合学科高校においては、1年次は共通の教育課程で学び、2年次から各系列に分かれる。なお、併置校や総合学科高校における他の学科等を〔 〕内に示している。

※2 上記※1に該当する学校における商業に関する学科の募集学級数を表す。

(5) 水産に関する学科

【現状】

- ・ 中学生の進路意識調査（R5 実施）では、水産に関する学科を志望する生徒の割合は 0.4%であり、令和 6 年度入試における全日制課程の募集定員は 80 人と、県全体の 0.9%を占めている。



- ・ 令和 6 年度における水産に関する学科の設置状況は、2 校 2 学級となっており、いずれも他の学科を併置する学校である。
- ・ 総合学科を置く県立高校 1 校においても、水産に関する系列を設置しており、選択者数は少ない傾向にある。

【課題】

- ・ 水産に関する学科の入学者数が少ない状況が継続しているうえ、水産教員の確保が難しい状況にある等、教育環境の先細りが危惧される。

【ビジョン】

- ・ 水産業界の動向やニーズを踏まえながら、地域や生徒の実態に合わせた教育課程の見直しや、学校や学科を超えた連携、地域等との連携・協働等、入学者確保に向けた方策を検討し、取り組む。
- ・ 将来的にも水産の学びを確保できるよう、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等、教育環境の整備の在り方について検討し、進める。

[令和6年度の設置状況]

学校名(学校規模) ^{※1}	設置学科等
高田(4)	海洋システム科1 ^{※2} 、[普通科]
宮古水産(2)	海洋生産科1、[食物科]
久慈東(5)	総合学科(海洋科学系列)、[他6系列]

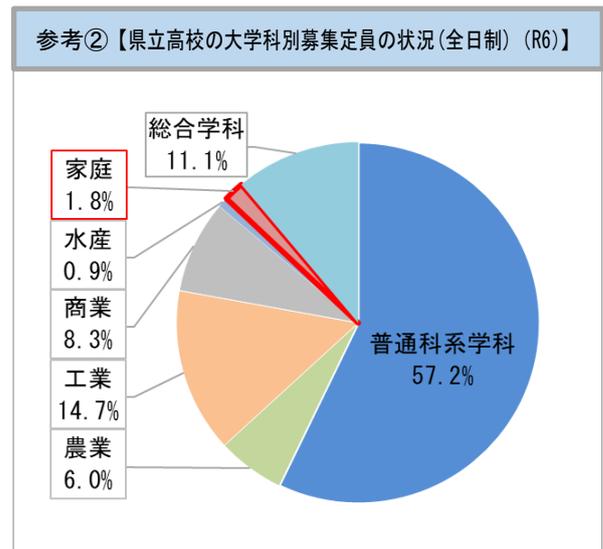
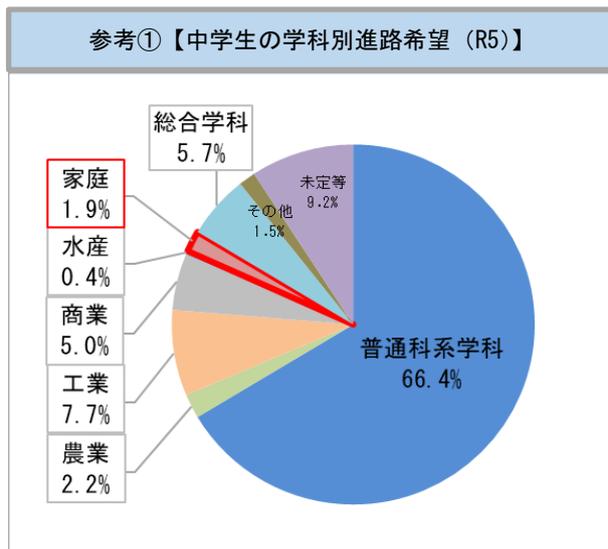
※1 1学年の募集学級数を表す。複数の学科を併置する学校においては、水産に関する学科の募集学級数と異なる。また、総合学科高校においては、1年次は共通の教育課程で学び、2年次から各系列に分かれる。なお、併置校や総合学科高校における他の学科等を[]内に示している。

※2 上記※1に該当する学校における水産に関する学科の募集学級数を表す。

(6) 家庭に関する学科

【現状】

- ・ 中学生の進路意識調査(R5実施)では、家庭に関する学科を志望する生徒の割合は1.9%であり、令和6年度入試における全日制課程の募集定員は160人と、県全体の1.8%を占めている。



- ・ 令和6年度における家庭に関する学科の設置状況は、4校4学級となっており、いずれも他の学科を併置する学校である。
- ・ 総合学科を置く県立高校6校においても、家庭に関する系列を設置しており、選択者は少ない傾向にある。

【課題】

- ・ 定員充足率が低い学科もある中、地域や生徒のニーズに合った学科編制や学びの内容となっているか等、状況を精査しながら今後の在り方について検討を進める必要がある。
- ・ 調理師養成施設を設置している学校が、沿岸部に偏在していることから、配置バランスについて検討を進める必要がある。

【ビジョン】

- ・ 地域の産業構造やニーズを踏まえ、卒業後の進路を見据えるとともに、関連する幅広い分野について学習できるよう他の職業学科との連携を図りながら、教育課程の見直しや学科改編等を検討し、取り組む。
- ・ 専門性を維持しながら学校の活力を向上させ、より良い教育環境の整備を図るため、学びの配置バランスを考慮するとともに、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

〔令和6年度の設置状況〕

学校名(学校規模) ^{※1}	設置学科等
平館(2)	家政科学科1 ^{※2} 、[普通科]
花北青雲(4)	総合生活科1、[情報工学科、ビジネス情報科]
大船渡東(4)	食物文化科1、[農芸科学科、機械電気科、情報処理科]
宮古水産(2)	食物科1、[海洋生産]
紫波総合(3)	総合学科(ライフデザイン系列)、[他4系列]
北上翔南(5)	総合学科(環境系列)、[他3系列]
岩谷堂(3)	総合学科(生活・福祉系列)、[他5系列]
一関第二(5)	総合学科(環境・生活系列)、[他4系列]
久慈東(5)	総合学科(食物系列)、[他6系列]
北桜(5)	総合学科(生活・文化系列)、[他3系列、機械システム科、電気情報システム科]

- ※1 1学年の募集学級数を表す。複数の学科を併置する学校においては、家庭に関する学科の募集学級数と異なる。また、総合学科高校においては、1年次は共通の教育課程で学び、2年次から各系列に分かれる。なお、併置校や総合学科高校における他の学科等を〔 〕内に示している。
- ※2 上記※1に該当する学校における家庭に関する学科の募集学級数を表す。

(7) 総合的な専門高校

【現状】

- ・ 総合的な専門高校は、専門分野の専門性を確保するとともに、複数の専門学科を併設して、所属する学科の科目以外に、他の専門分野の科目を履修することによって、複合化する産業動向にも対応できるよう設置したものである。
- ・ 平成15年度に花北青雲高校、平成20年度に大船渡東高校、平成21年度に釜石商工高校を設置している。

【課題】

- ・ 定員充足率が低い学科もある中、地域や生徒のニーズに合った学科編制や学びの内容となっているか等、状況を精査しながら今後の在り方について検討を進める必要がある。
- ・ 入学志願者数が極めて少ない学科もあり、入学者確保に課題がある。

【ビジョン】

- 地域の産業構造やニーズを踏まえた学科構成としながら、より良い教育環境の整備を図るため、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

〔令和6年度の設置状況〕

学校名(学校規模)※1	設置学科
花北青雲(4)	情報工学科1※2、ビジネス情報科2、総合生活科1
大船渡東(4)	農芸科学科1、機械電気科1、情報処理科1、食物文化科1
釜石商工(3)	機械科1、電気電子科1、総合情報科1

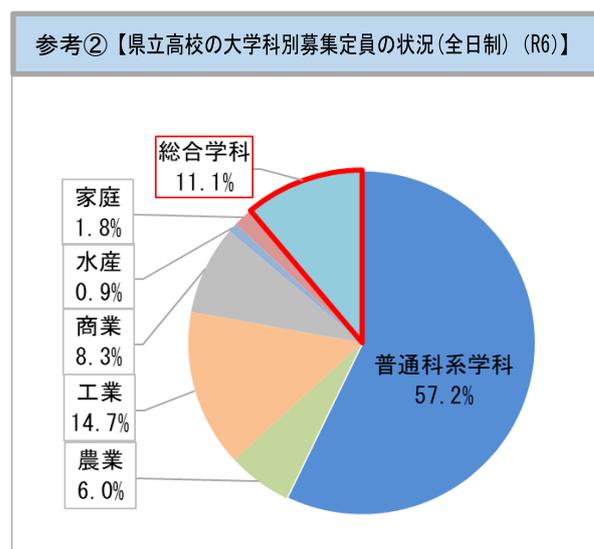
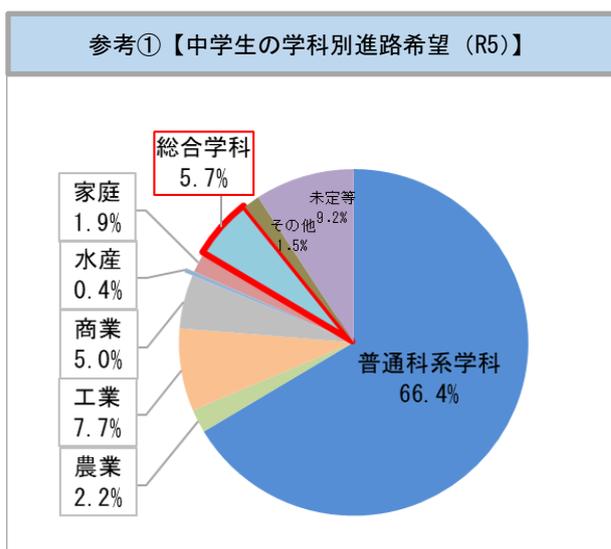
※1 1学年の募集学級数を表す。

※2 各学科の募集学級数を表す。

4 総合学科高校

【現状】

- 総合学科高校は、共通教科や専門教科にわたる幅広い科目の中から生徒が自己の興味・関心や進路希望に基づいて主体的に科目を選択し、系統立てて学ぶことにより、個性を伸ばしながら進路実現を可能とする能力を育てることができるよう、普通科、専門学科に次いで第三の学科として位置付けられている。
- 中学生の進路意識調査(R5実施)では、総合学科を志望する生徒の割合は5.7%であり、令和6年度入試における全日制課程の募集定員は960人と、県全体の11.1%を占めており、中学生の志望動向との間に開きがある状況である。



- 令和6年度における総合学科の設置状況は、6校24学級となっており、このうち、5校(21学級)は総合学科のみを設置する学校で、1校(3学級)は他の学科を併置する学校である。

- ・ 福祉の学びは、希望する生徒の減少に伴い専門学科としては減少したが、総合学科の系列の中で維持されている。
- ・ 現在、国においては、高校段階におけるデジタル人材の育成の強化に向け、ICTを活用した探究的な学び等を強化する学校などを支援する「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」を推進することとしている。

【課題】

- ・ 志願者数が多く、一定規模を確保できている学校がある一方で、現行の再編計画で総合学科の最低規模としている3学級規模の学校もある。
- ・ 選択者数が極めて少ないため、対話的な学びや協働的な学び等の実施に課題がある系列もある。
- ・ 選択者数が少ない系列もある中、地域や生徒のニーズに合った系列の編制や学びの内容となっているか等、状況を精査しながら今後の在り方について検討を進める必要がある。
- ・ 入学者数の減少により、系列の維持が難しくなっている学校もある。

【ビジョン】

- ・ 地域の産業構造やニーズを踏まえた系列構成や学びの内容となるよう、国の動向も注視しながら、系列の見直しや学びの在り方等について検討し、取り組む。
- ・ 小規模な総合学科高校においては、より良い教育環境の整備を図るため、総合学科高校に改編した成り立ちを踏まえつつ、より広域での再編も視野に入れながら、総合的な専門高校への再編や他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

[令和6年度の設置状況]

学校名(学校規模) ^{※1}	設置系列 ^{※2}
紫波総合(3)	人文・自然系列、福祉・健康系列、情報・経済系列、ライフデザイン系列、エコロジー・フード系列
北上翔南(5)	人文系列、自然系列、情報系列、環境系列
岩谷堂(3)	生活・福祉系列、生物生産系列、産業工学系列、流通情報系列、人文科学系列、自然科学系列
一関第二(5)	人文系列、自然系列、福祉系列、環境・生活系列、ビジネス系列
久慈東(5)	人文科学系列、自然科学系列、食物系列、介護福祉系列、環境緑化系列、海洋科学系列、情報ビジネス系列
北桜(5)	人文・自然系列、情報ビジネス系列、生活・文化系列、介護・福祉系列、[機械システム科、電気情報システム科]

※1 1学年の募集学級数を表す。複数の学科を併置する学校においては、総合学科の募集学級数と異なる。なお、総合学科高校においては、1年次は共通の教育課程で学び、2年次から各系列に分かれる。また、他の学科等を[]内に示している。

※2 総合学科高校においては、1年次は共通の教育課程で学び、2年次から各系列に分かれて学ぶ。

5 定時制・通信制高校

【現状】

- ・ 定時制・通信制高校は、高校に学びながら学校生活以外の時間を有効に活用したいとの希望や、学び直しなど生徒や県民の高校教育に対する多様なニーズに適切に対応していく役割を担っている。
- ・ 近年は、不登校や教育上特別な支援を必要とする生徒、中途退学者などを受け入れる等、新たな意義も生じている。
- ・ このような状況の中、定時制高校については、生徒のライフスタイルや心身の状況に合わせた授業時間帯を選択することができる多部制や単位制の導入について、杜陵高校の他、久慈高校長内校、杜陵高校奥州校への整備を進めてきた。
- ・ 中学校等において出席状況等に事情があり、高等学校での学習に意欲がある者を対象とした入試（チャレンジ枠^{*27}）を行っている。
- ・ 県立高校の全日制課程から転学した生徒の約9割が、異動先として通信制課程を選択している。（令和5年度）



- ・ 中学生の進路意識調査（R5 実施）では、定時制・通信制高校を志望する生徒の割合は、定時制高校 0.6%、通信制高校 0.4%であり、令和6年度入試における入学者数は、定時制高校 104人、通信制高校 103人である。
- ・ 現在、国において、定時制・通信制の望ましい在り方等に関する議論が行われている。

【課題】

- ・ 不登校や教育上特別な支援を必要とする生徒の増加等に伴う定時制・通信制高校に求められる役割の変化等を考慮した機能強化等に取り組む必要がある。
- ・ 通信制課程の設置について、生徒のニーズの変化等を踏まえ、既存の定時制高校に併設する等、今後の在り方について検討する必要がある。

【ビジョン】

- ・ 定時制・通信制高校への入学者数の推移や国の動向等を注視するとともに、不登校や教育上特別な支援を必要とする生徒の増加等に伴う定時制・通信制高校に求められる役割の変化や、全日制高校の再編整備の動きも考慮しながら、定時制・通信制高校の機能強化等に取り組む。
- ・ 通信制課程の設置について、生徒のニーズの変化等を踏まえ、既存の定時制高校に併設する等、検討する。

*27 チャレンジ枠：令和7年度入学者選抜から、杜陵高等学校定時制課程入学者選抜後期日程で実施。

[令和6年度の設置状況]

◆定時制高校

学校名	設置学科	多部制	単位制	募集定員等
杜陵	普通科	○	○	1・2部(120人)、3部(40人)
杜陵奥州校	普通科	○	○	昼間部(40人)、夜間部(40人)
盛岡工業	工業科			40人
一関第一	普通科			40人
大船渡	普通科			40人
釜石	普通科			40人
宮古	普通科			40人
久慈長内校	普通科	○	○	昼間部(40人)、夜間部(40人)
福岡	普通科			40人

◆通信制高校

学校名	設置学科	募集定員
杜陵	普通科	220人
杜陵奥州校	普通科	
宮古	普通科	80人

第4章 学びの環境整備（県立高校の配置の考え方）

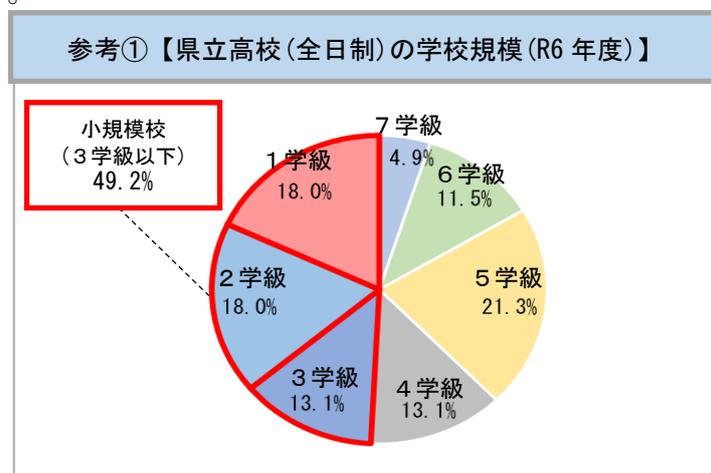
1 学校規模

【現状】

- 平成28年に策定した「新たな県立高等学校再編計画」（平成28年度～令和7年度）においては、生徒の能力を最大限に伸ばすための教育課程の編成や多様な部活動など活力ある教育活動の展開等のために、県立高校の望ましい学校規模を1学年4～6学級程度、最低規模を1学年2学級としている（総合学科高校においては、学科の特長を生かした教育活動の充実を図るため、原則、1学年3学級以上の規模を確保することとしている）。
- また、地域における学びの機会を保障するため、近隣に他の高校がなく、他地域への通学が困難な場合、「特例校」を配置することとしており、葛巻高校、西和賀高校、岩泉高校の3校を指定している。
- なお、1学級校については、入学者数が2年連続で20人以下となった場合には、原則として、翌年度から募集停止とし、統合することとしている。
- 令和3年に策定した「新たな県立高等学校再編計画後期計画」（令和3年度～令和7年度）においては、「第2期岩手県ふるさと振興総合戦略^{*28}」等を踏まえた地方創生が各自治体で進められている状況や、地域人材の育成等について高校の持つ役割の重要性や地域からの期待が高まる状況等に鑑み、1学級校も含めた各地域の学校をできる限り維持することとしている。
- 全日制県立高校61校の平均募集学級数は3.55学級であり、30校（49.2%）が1学年3学級以下の小規模校、11校（18.0%）が1学級校となっている（令和6年度）。

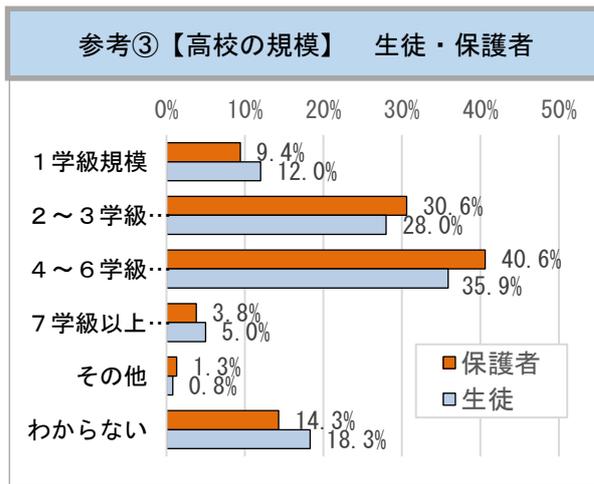
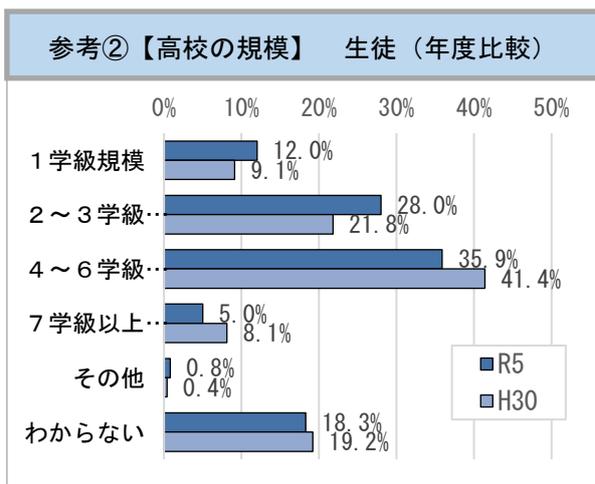
【課題】

- 今後一層進む中学校卒業予定者数の減少に伴い、さらなる学校の小規模化が見込まれる。
- 本県における地理的条件や生徒数の減少の状況等を踏まえ、より良い教育環境の整備に向けた学校規模の在り方について検討する必要がある。
- 学校の規模が小さいことにより、学びの選択の幅が狭まる等、教育活動に制約が生じることもある。



^{*28} 第2期岩手県ふるさと振興総合戦略：岩手県人口ビジョンを踏まえ、ふるさとを振興し、人口減少に立ち向かうための基本目標を定めるとともに、令和8年度までの取組方向や具体的な施策、目標数値等を示すもの。

【中学生の進路希望等に関するアンケート(R5年度)】



【ビジョン】

- ・ 高校時代は社会に羽ばたこうとする段階の人間形成期にあつて、生徒同士の切磋琢磨による学力の向上、社会性や協調性の育成や生徒の希望する多様な学びの提供を図るには、学校規模を確保することが重要である。
- ・ 一方で、本県の広大な県土という地理的な条件、地域の実情、適切な教育の質の確保、県立高校が担う役割の多様化及び少子化の状況等を勘案すると、本県における学校の最低規模は1 学年 2 学級（総合学科高校においては、学科の特長を生かした教育活動の充実を図るため、原則、1 学年 3 学級）とする。
- ・ 地域における学びの機会を保障するため、例えば、近隣に他の高校がなく、他地域への通学が困難な場合における最低規模を1 学年 1 学級とする学校の配置を検討する。
- ・ これらを総合的に勘案し、学校規模の大小に関わらず、各校が特色・魅力ある教育活動を展開し、生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことのできる環境を構築することが重要である。

2 小規模校の在り方

【現状】

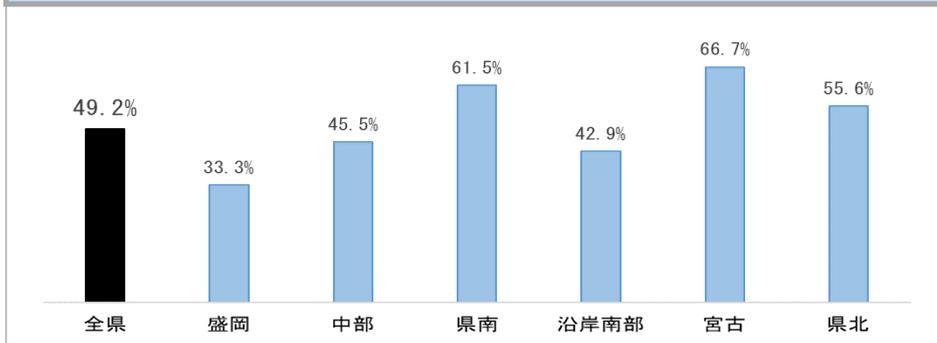
- ・ 全日制県立高校 61 校のうち、30 校（49.2%）が1 学年 3 学級以下の小規模校であり、11 校（18.0%）が1 学級校となっている（令和6年度）。

参考【県立高校における小規模校 (R6 年度)】

	普通高校	普専併置校	専門高校	総合学科高校	計
1 学年 3 学級	1	1	4	2	8
2 学級	5	2	4	—	11
1 学級	11	—	—	—	11
計	17	3	8	2	30

- ・ 小規模校は、各地区に3～8校あり、県南、宮古、県北地区における小規模校の占有率が高い状況にある。

参考【全県及び各地区における県立高校の小規模校の占有率(R6年度)】



- ・ 小規模校では、学習科目や部活動等における選択肢が狭まることのあるほか、教育上特別な支援を必要とする生徒への対応が増加している傾向にある。
- ・ 小規模であっても高校が存在する地域の生徒にとっては、近くの高校で学ぶ機会が得られている。
- ・ 小規模校の中には、地域等との連携・協働体制を構築することにより、地域資源を活用した探究的な学び等、特色ある教育活動が行われている学校もある。
- ・ 現在、国において、小規模校の教育条件の改善等に関する議論が行われている。

【課題】

- ・ 今後一層進む中学校卒業予定者数の減少に伴い、さらなる学校の小規模化が見込まれる。
- ・ 学校の規模が小さいことにより、学びの選択の幅が狭まる等、教育活動に制約が生じることもある。
- ・ 小規模校における教育活動の充実に向け、引き続き遠隔教育^{*29}の検証と実証に取り組む必要がある。
- ・ 高校と特別支援学校との連携等により、不登校や教育上特別な支援を必要とする生徒等に応じた適切な指導及び必要な支援を行うことが必要である。

【ビジョン】

- ・ (再掲) 本県の広大な県土という地理的な条件や、地域の実情、適切な教育の質の確保や県立高校が担う役割の多様化、少子化の状況等を勘案すると、本県における学校の最低規模は1学年2学級(総合学科高校においては、学科の特長を生かした教育活動の充実を図るため、原則、1学年3学級)とする。
- ・ 小規模校における教育の充実にあたり、人口減少社会を見据え、遠隔教育や学校間連携^{*30}、地元市町村や特別支援学校との連携・協働、及び遠隔教育を併用した校舎制等の導入等について検討し、取り組む。
- ・ 将来的な生徒数減少の状況や、教育の機会の保障と質の保証の観点から踏まえた小規模校における教育条件の改善について、国の動向を注視しながら検討し、取り組む。

*29 遠隔教育:本文 43p 参照。

*30 学校間連携:本文 43p 参照。

3 地区割と学校配置

【現状】

- ・ 平成 22 年に策定し、平成 27 年に改訂した「今後の高等学校教育の基本的方向」では、高校教育においては、一定の圏域（ブロック）の中で中学生が多様な学校や学科を選択でき、どのブロックにおいても進路希望を実現できることが望ましいとしており、県立高校の配置に関する地区割の基本単位をブロックとしており、当面、現在の 9 ブロックとすることとしている。
- ・ 現在の高校再編においても、各ブロック内で、中学生が希望に応じて普通科、専門学科等を選択できるよう学校配置を検討している。（県南地域に新設する工業高校を除く。）
- ・ 将来的な生徒数減少の状況を踏まえながら、専門的な学びの多様性を確保するため、専門高校の再編に当たっては、県南地域においてブロックを越えた工業高校の統合を計画している。
- ・ 宮古、久慈及び二戸ブロックにおける学校統合においては、統合対象校の校舎及び施設を有効に活用するため、校舎制の形態としている。
- ・ 現行計画においては、専門学科及び総合学科については、多様な専門分野の学びを維持したうえで、教育内容の充実を図るためには、ブロックを越えて専門分野を集約する大規模な統合の検討を進めていくことも必要であるとしている。
- ・ 他県においても、通学区域（学区）^{*31}の有無にかかわらず、再編整備の検討においては地区割を設けている例が多く、東北地方においては、通学区域（学区）を設定していない青森県、秋田県、宮城県を含め、全ての県で地区割を設けている。

【課題】

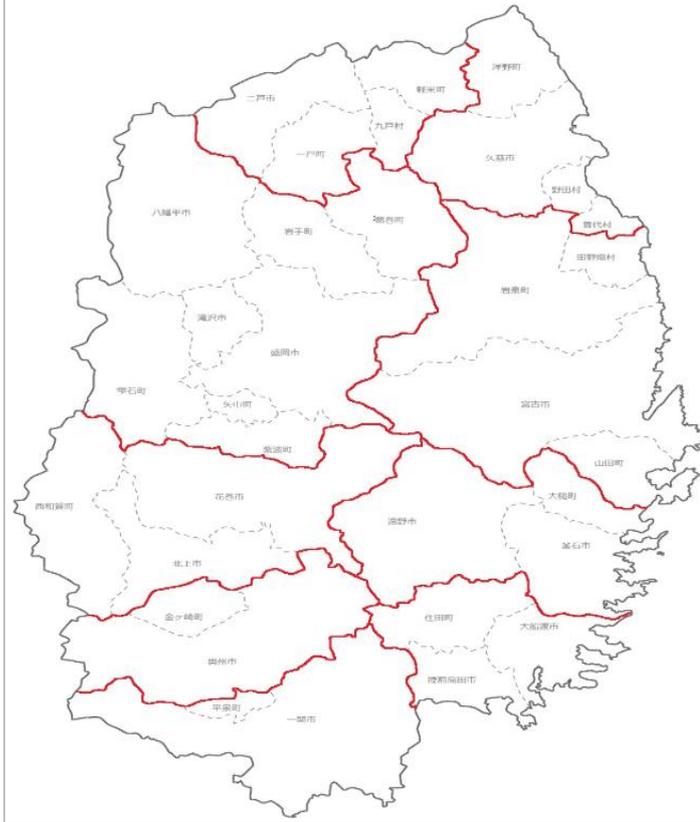
- ・ 交通網の発達等を考慮し、地区割の広域化が必要である。
- ・ 将来的な生徒数減少の状況に対応しながら専門分野の学びの多様性を確保するため、全県における学校配置を検討する必要がある。
- ・ 本県においては、県立高校の学級減等により、全日制高校の空き教室が増えている一方で、特別支援学校では、生徒の増加による教室不足が課題となっている地域が見られる。

【ビジョン】

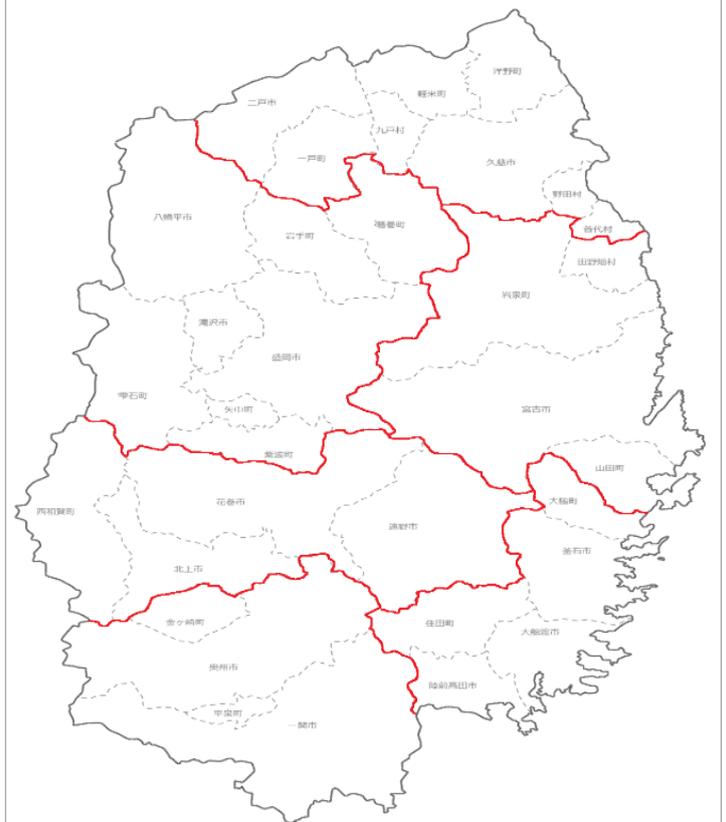
- ・ 交通網の発達や生徒の通学の利便性、産業振興の動向、義務教育との接続等を考慮し、県立高校の配置に関する地区割の基本単位を地区とし、新たに 6 地区（盛岡、中部、県南、沿岸南部、宮古、県北）とする。
- ・ 専門学科及び総合学科については、将来的な生徒数減少の状況に対応しながら専門分野の学びの多様性を確保するため、全県における学校配置バランスを考慮しつつ、広域での再編を検討し、進める。
- ・ 県立高校の学校統合においては、教育の質を確保しながら地域に学びの場を残す方策として、遠隔教育を併用した校舎制等、新たな方策を検討し、取り組む。
- ・ 施設の有効活用等の観点から、特別支援学校や中学校との連携等、校種に捉われない配置の在り方を検討し、進める。

*31 通学区域（学区）：本文 38p 参照。

参考①【地区割（9ブロック）】



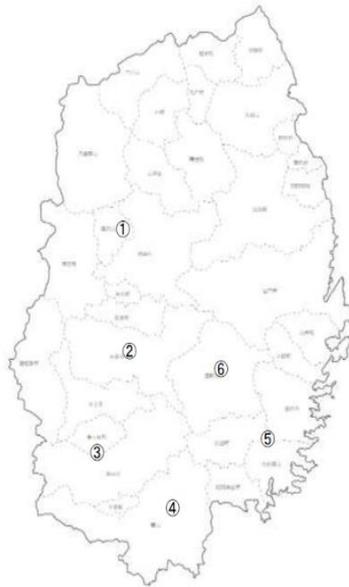
参考②【地区割（6地区）】



参考③【専門高校の学校配置(R6年度)】農業系の学科

■ 該当校及び地図表示

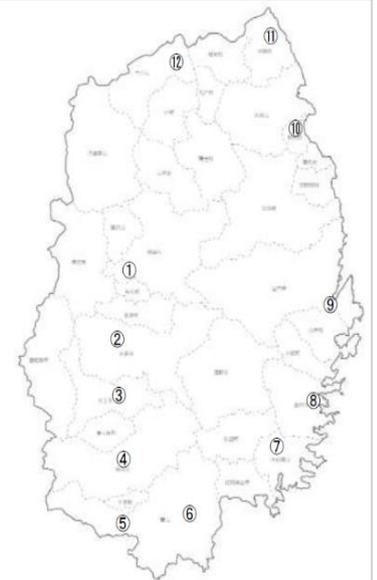
学校名	設置学科
①盛岡農業	動物科学
	植物科学
	食品科学
	人間科学
②花巻農業	環境科学
	生物科学
	食農科学
③水沢農業	農業科学
④千 厩	食品科学
⑤大船渡東	生産技術
⑥遠野緑峰	農芸科学
	生産技術



参考④【専門高校の学校配置(R6年度)】工業系の学科

■ 該当校及び地図表示

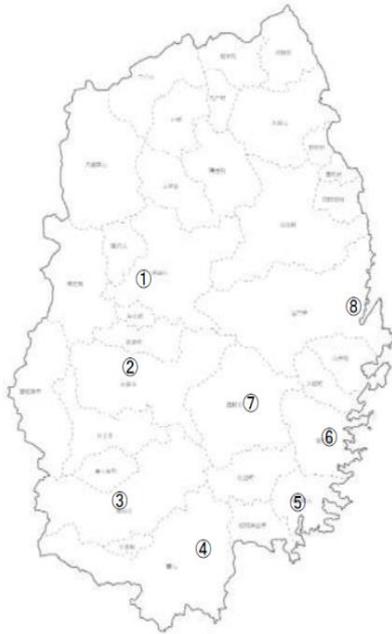
学校名	設置学科
①盛岡工業	機 械
	電 子 機 械
	電 気
	電 子 情 報
	土 木
	工 業 化 学
②花北青雲	建 築・デザイン
	情 報 工 学
③黒沢尻工業	機 械
	電 子
	電 気
	土 木
④水沢工業	材 料 技 術
	機 械
	電 気
	設 備 シ ス テ ム
⑤一関工業	イ ン テ リ ア
	電 気 電 子
	電 子 機 械
⑥千 厩	土 木
	産 業 技 術
⑦大船渡東	機 械 電 気
⑧釜石商工	機 械
⑨宮古商工 (工業校舎)	電 気 電 子
	機 械 シ ス テ ム
⑩久慈工業	電 子 機 械
⑪種 市	建 設 環 境
	海 洋 開 発
⑫北 桜 (工業校舎)	機 械 シ ス テ ム
	電 気 情 報 シ ス テ ム



参考⑤【専門高校の学校配置(R6年度)】商業系の学科

■ 該当校及び地図表示

学校名	設置学科
①盛岡商業	流通ビジネス
	会計ビジネス
	情報ビジネス
②花北青雲	ビジネス情報
③水沢商業	商 業
	会計ビジネス
	情報システム
④大 東	情報ビジネス
⑤大船渡東	情 報 処 理
⑥釜石商工	総 合 情 報
⑦遠野緑峰	情 報 処 理
⑧宮古商工 (商業校舎)	総合ビジネス
	流通ビジネス
	情報ビジネス



参考⑥【専門高校の学校配置(R6年度)】水産系の学科

■ 該当校及び地図表示

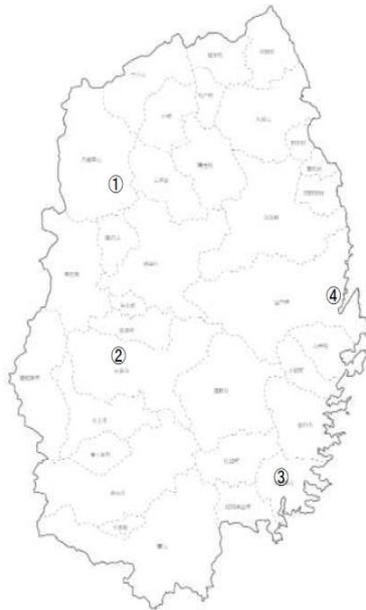
学校名	設置学科
①高 田	海洋システム
②宮古水産	海 洋 生 産



参考⑦【専門高校の学校配置(R6年度)】家庭系の学科

■ 該当校及び地図表示

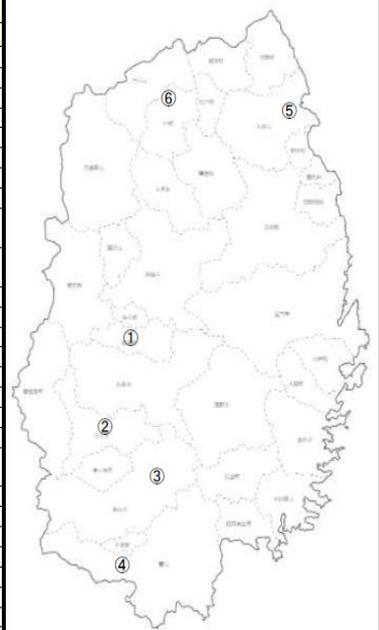
学校名	設置学科
①平 館	家政科学
②花北青雲	総合生活
③大船渡東	食物文化
④宮古水産	食 物



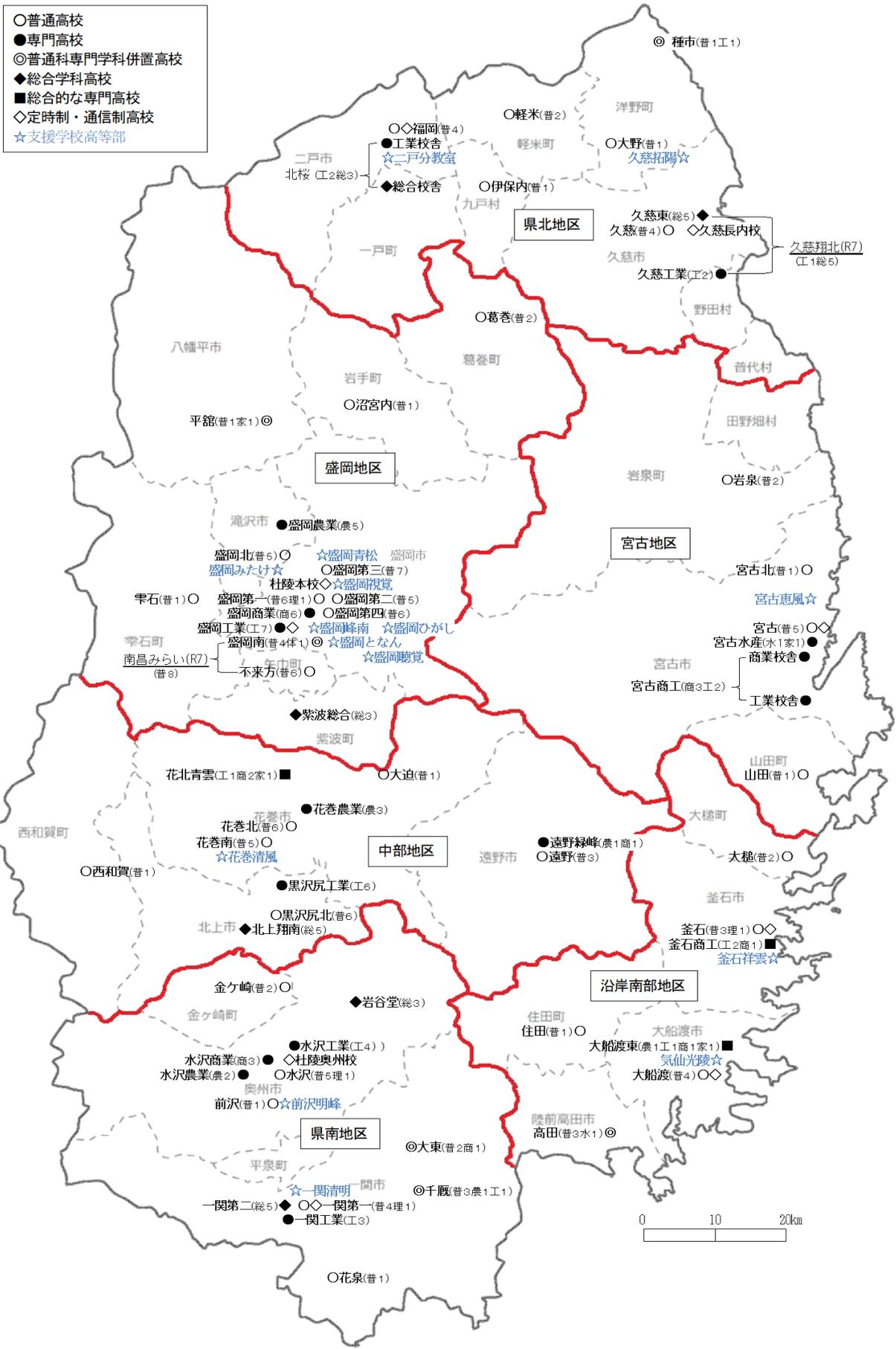
参考⑧【総合学科高校の学校配置(R6年度)】

■ 該当校及び地図表示

学校名	設置学科		
	系列	主な学び	
①紫波総合	総合	人文・自然	普通
		福祉・健康	福祉
		情報・経済	商業
		ライフデザイン	家庭
		エコソ・フード	農業
		人 文	普通
②北上翔南	総合	自 然	普通
		情 報	商業
		環 境	農業
③岩谷堂	総合	生活・福祉	家庭福祉
		生物生産	農業
		産業工学	工業
		流通情報	商業
		人文科学	普通
		自然科学	普通
④一関第二	総合	自 然	普通
		福 祉	福祉
		環境・生活	農業家庭
⑤久慈東	総合	ビジネス	商業
		人文科学	普通
		自然科学	普通
		食 物	家庭
		介護福祉	福祉
		環境緑化	農業
⑥北 桜 (総合校舎)	総合	海洋科学	水産
		情報ビジネス	商業
		人文・自然	普通
		情報ビジネス	商業
		生活・文化	家庭芸術
		介護・福祉	福祉



参考⑨【令和6年度県立学校の配置（6地区）】



4 通学区域（学区）

【現状】

- ・ 特定の高校への入学者の過度の集中を避け、高校教育の機会均等を図り、生徒の就学や通学の適正を図るため、岩手県立高等学校の通学区域に関する規則により8学区が定められており、高等学校に就学しようとする者は、学区内の高等学校に出願することとしている。
- ・ 学区の制限を受ける者は、全日制課程の普通科に出願する者のみとなっている。ただし、出願の特例として、普通科の中でも不来方高校の芸術、外国語、体育の各学系及び花巻南高校のスポーツ健康科学、国際科学の各学系並びに専門学科や総合学科へ出願する者は学区の制限を受けない（全県一区）。
- ・ 全日制課程の普通科においても、募集定員の10%以内で学区外からの入学を認めている（学区外許容率）うえ、志願者数が定員に満たない場合は、学区の制限を受けないこととしている。
- ・ 各校では、地元自治体等と連携・協働した教育活動の実践等による高校の特色化・魅力化をとおして、生徒数の確保に向けた取組が行われている。
- ・ 中学校卒業生数の減少により、令和6年度入学者選抜における全日制課程県立高校の倍率が0.80倍となる中、学区外許容率を上回る学校は極めて限定的である。
- ・ 中学生の進路意識調査(R5)において、「学区制」に対する中学生の回答では、「現在のままがよい」が28.2%（2,291人）、「拡大または廃止するのがよい」が25.3%（2,084人）、保護者の回答では、「現在のままがよい」が22.9%（1,107人）、「拡大または廃止するのがよい」が47.5%（2,291人）であった。
- ・ 同調査において、「進学したい学校（普通科・理数科）」に対する中学生の回答では、「学区外にある」が釜石・遠野ブロック、二戸ブロックで高く、「学区制」に対する保護者の回答では、「廃止するのがよい」が釜石・遠野ブロック、二戸ブロックで高かった。

【課題】

- ・ 同調査の結果から、学区を廃止した場合、県北や沿岸等から内陸部への中学校卒業生の移動の増加が懸念される。

【ビジョン】

- ・ 通学区域が設定されている趣旨や、入学者選抜における学区制限の状況、特定の地域への志願者の集中を招く懸念等を考慮し、学区の在り方については、次期高校再編計画における高校の配置を踏まえたうえで検討する。

参考①【普通高校(全日制)及び総合選択制高校の通学区域及び学校配置 (R6 年度)】

■盛岡学区

①盛岡第一	②盛岡第二	③盛岡第三	④盛岡第四	⑤盛岡北	⑥盛岡南
⑦不来方	⑧沼宮内	⑨葛巻	⑩平舘	⑪雫石	

■岩手中部学区

⑫花巻北	⑬花巻南	⑭大迫	⑮黒沢尻北	⑯西和賀
------	------	-----	-------	------

■胆江学区

⑰水沢	⑱前沢	⑲金ヶ崎
-----	-----	------

■両磐学区

⑳一関第一	㉑花泉	㉒大東	㉓千厩
-------	-----	-----	-----

■気仙・釜石学区

㉔高田	㉕大船渡	㉖住田	㉗釜石	㉘遠野	㉙大槌
-----	------	-----	-----	-----	-----

■宮古学区

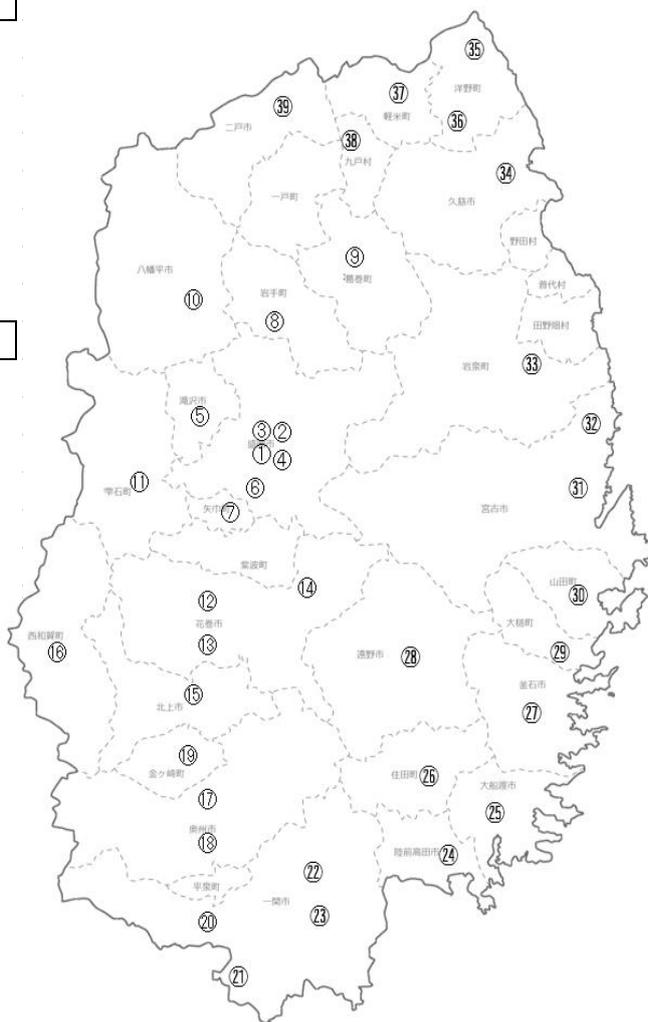
㉚山田	㉛宮古	㉜宮古北	㉝岩泉
-----	-----	------	-----

■久慈学区

㉞久慈	㉟種市	㊱大野
-----	-----	-----

■二戸学区

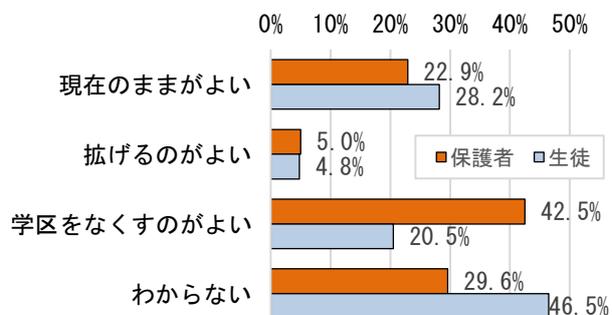
㊲軽米	㊳伊保内	㊴福岡
-----	------	-----



学区の制限は、普通高校の他、総合選択制高校の不来方の人文・理数学系及び花巻南の人文・自然科学学系に出願する者が該当する。

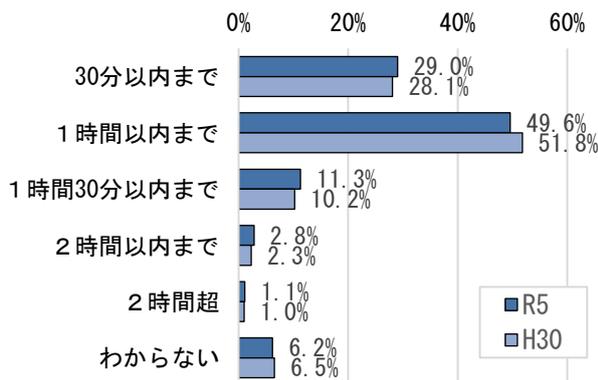
参考②【中学生の進路意識調査 (R5)】

[通学区域] 生徒・保護者



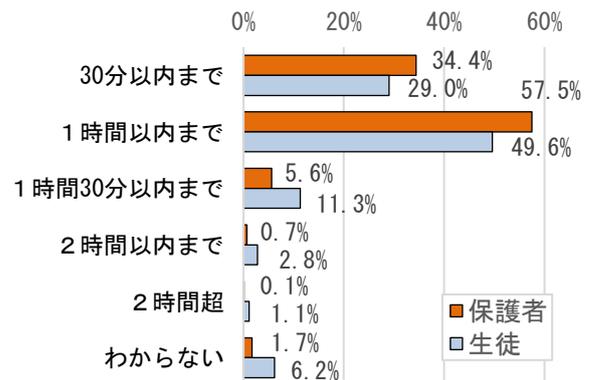
参考③【中学生の進路意識調査 (R5)】

[通学時間] 生徒 (年度比較)

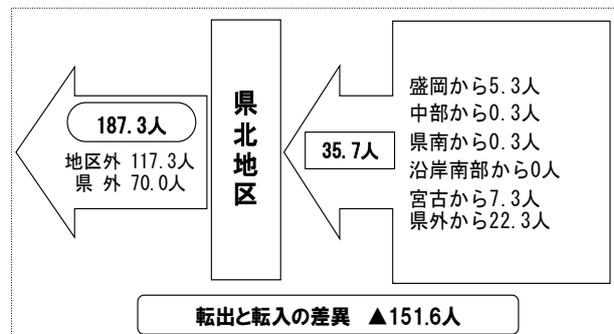
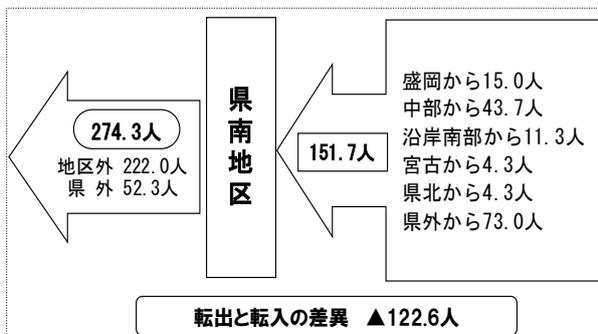
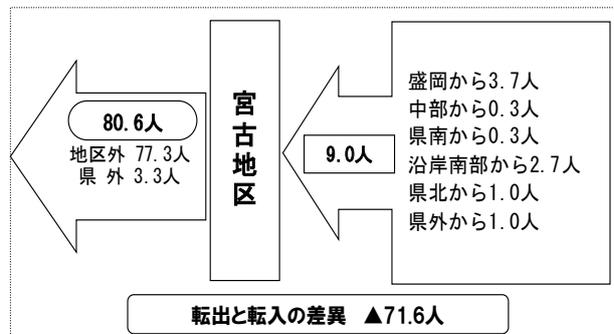
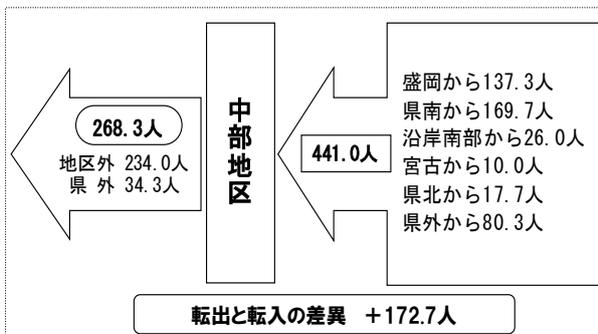
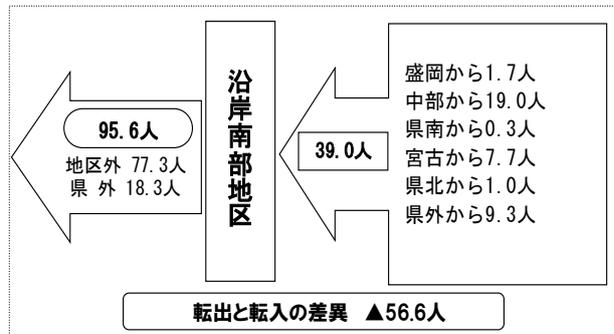
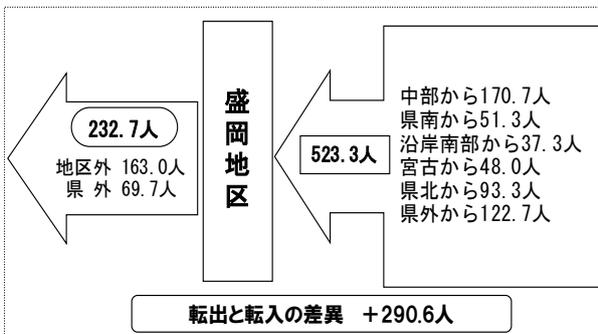


参考④【中学生の進路意識調査 (R5)】

[通学時間] 生徒・保護者



参考⑤【6地区間交流 (3年間 <R4・R5・R6年度> の平均)】

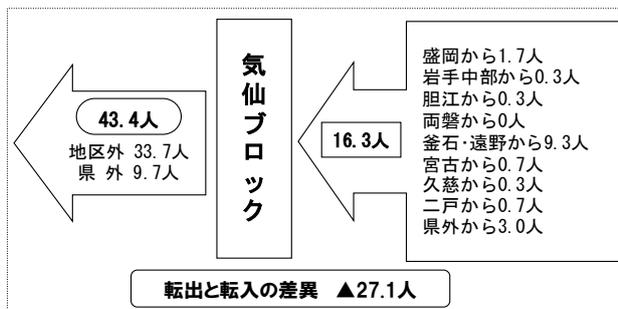
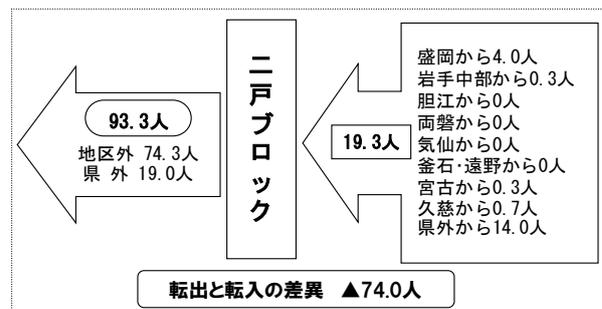
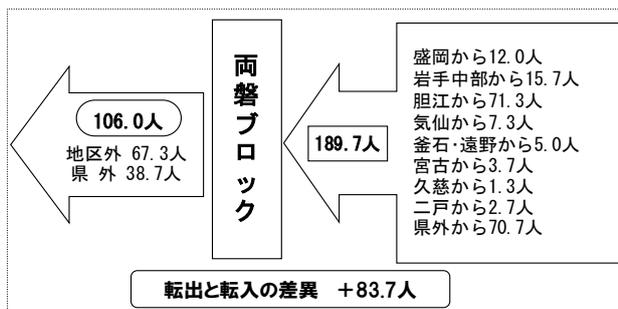
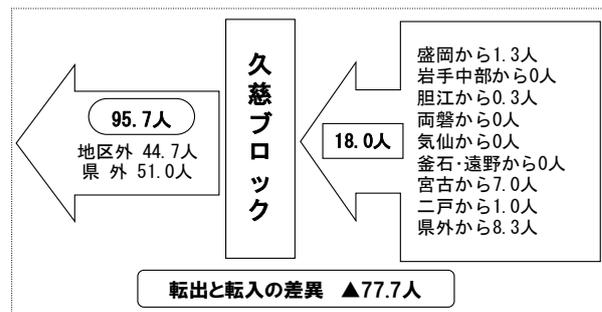
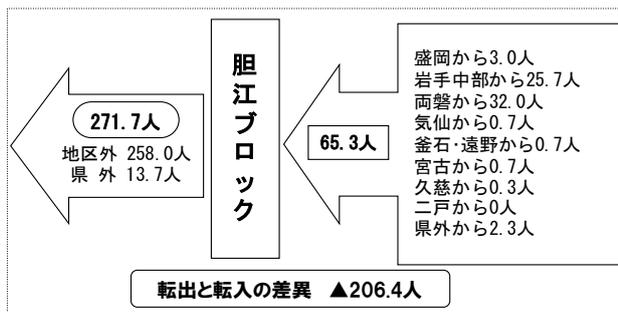
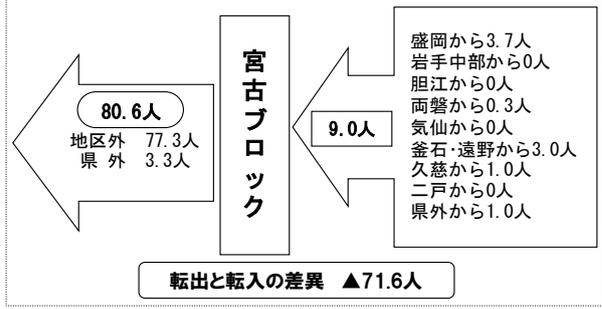
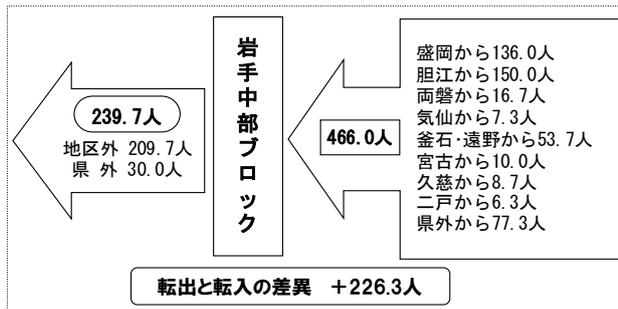
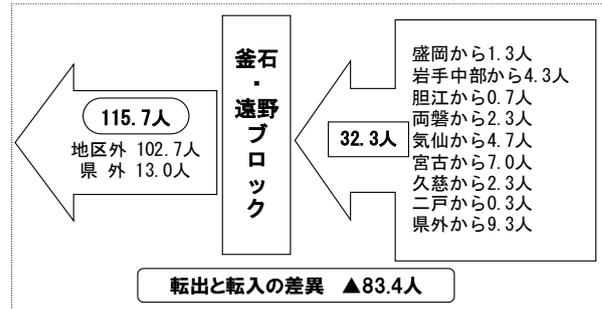
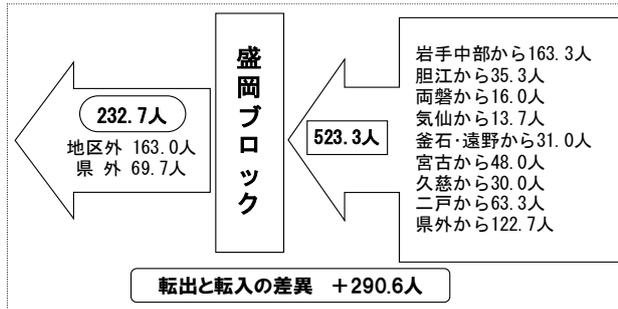


※公立高校の全日制・定時制及び私立高校を対象 (過年度卒を含む)

※転入⇒他の地区及び県外からの転入者数

※転出⇒他の地区への転出者数 (県外転出 (公立高の全・定、私立高) を含む)

参考⑥【9ブロック間交流（3年間〈R4・R5・R6年度〉の平均）】



※公立高校の全日制・定時制及び私立高校を対象（過年度卒を含む）
 ※転入⇒他の地区及び県外からの転入者数
 ※転出⇒他の地区への転出者数（県外転出（公立高の全・定、私立高）を含む）

5 通学等に対する支援

【現状】

- ・ 新たな県立高等学校再編計画（平成 28 年度～令和 3 年度）においては、計画に基づく県立高校の統合により、公共交通機関による通学の費用が大幅に増加する場合や、通学が困難になる場合には、他の地域との公平性も考慮したうえで、通学支援策を導入することとしている。
- ・ 計画期間中において、県立高校の統合を理由として通学支援を実施した例はない。

【課題】

- ・ 公共交通機関の利便性が地域によって異なること等から、学校統合により通学が困難になる場合には、状況に応じた通学支援等を検討する必要がある。

【ビジョン】

- ・ 将来的な生徒数の減少や、広大な県土を有する本県の通学事情等を考慮し、学校統合を行う場合で、かつ、通学が困難となる場合には、地元市町村と連携した通学支援等の在り方について検討する。

第5章 高等学校教育の充実に向けた方策

1 遠隔教育・学校間連携

【現状】

- ・ 本県においても、新型コロナウイルス感染症への対応により、ICT機器の導入を進めた結果、ICT機器等を活用した授業やオンライン授業等が広まった。
- ・ 令和3～5年度において、文部科学省コアハイスクール・ネットワーク事業を活用し、令和4年度からは、小規模校5校に対して、教育課程内における遠隔授業を実施した。
- ・ 令和6～8年度については、文部科学省「各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業」を活用し、小規模校に対する遠隔授業を引き続き実施する。現在の取組においては、特定の教科及び科目に限定したものとなっている。
- ・ 現在、国において、小規模校の教育条件の改善等の議論が行われており、遠隔授業や学校間連携等の推進の必要性が示されている。
- ・ 国においては、高等学校等における多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学びの実現に向け、遠隔授業の実施要件の弾力化を行うこととしている。

【課題】

- ・ 遠隔教育や学校間連携について、授業時間や教育課程の不一致や体制上の課題等により、実施が難しい場合がある。
- ・ ICT機器等の使用環境の更なる充実、教員のデジタルスキル向上等を図る必要がある。

【ビジョン】

- ・ 中山間地等に所在する小規模校の生徒が履修できる教科・科目等の種類の増加、生徒の興味関心や進路希望に基づく多様な学習ニーズに対応するため、実施要件の弾力化等、国の動向を注視するとともに、遠隔教育や学校間連携のメリット、デメリットを踏まえながら、遠隔教育の普及・拡大に取り組むとともに、学校間連携の拡大について検討し、取り組む。
- ・ 生徒が病気や怪我、感染症の流行等により一定期間登校できない状況下において、遠隔教育と対面教育をバランス良く組み合わせた教育の在り方について検討し、取り組む。

2 教育上特別な支援を必要とする生徒等への対応

【現状】

- ・ 少子化により児童生徒数が減少する中、特別支援学校だけでなく、小中高校等においても、教育上特別な支援を必要とする児童生徒は増加しており、学校教育は「共生社会^{*32}」の形成に向けて重要な役割を果たすことが求められている。

*32 共生社会：これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会であり、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。その形成に向けては、インクルーシブ教育システムの構築等が重要である。

- ・ 文部科学省による調査結果では、全ての通常の学級に教育上特別な支援を必要とする生徒が在籍している可能性があることが明らかになっている。
- ・ 令和5年3月に県内の中学校等を卒業した生徒のうち、特別支援学級に在籍していた生徒又は通級による指導を受けていた生徒は約3%であり、そのうちの3人に1人は県内の全日制県立高校に進学している。
- ・ 県内の全日制県立高校においては、雫石、紫波総合、大迫、前沢、種市の5校で「通級による指導^{*33}」を行っている。
- ・ 近年、県内公立高校に在籍する生徒で、不登校の状況にある生徒は300人台半ばで推移し、ほぼ全ての学校に在籍している状況にあり、不登校のきっかけと考えられる要因も多岐にわたっている。
- ・ 昨今、県内の在住外国人は増加傾向にあり、今後も外国人労働者の増加が見込まれ、家族滞在等による生徒の増加も見込まれる。県立高校では、令和6年度現在、10校に若干名の生徒が在籍しており、日本語指導や進路指導等について個別に対応している。

【課題】

- ・ 高校と特別支援学校との連携等により、不登校や教育上特別な支援を必要とする生徒等に応じた適切な指導及び必要な支援を行うことが必要である。
- ・ 今後増加が見込まれる日本語指導を必要とする外国人生徒に応じた適切な支援が求められている。

【ビジョン】

- ・ 多くの高校に教育上特別な支援を必要とする生徒等が在籍していることから、高校と特別支援学校との連携を深める等、これらの生徒への対応や、よりインクルーシブな教育環境の在り方について検討し、取り組む。
- ・ 不登校の状況にある生徒に配慮した教育環境の整備については、国の動向や他県の取組事例等を踏まえ、遠隔教育等による支援に取り組む。
- ・ 岩手県外国人児童生徒等教育方針^{*34}（令和6年3月策定）に基づき、外国人生徒等に対する日本語教育を含めた学校教育全般にわたる支援を検討し、取り組む。

3 普通科改革（「普通教育を主とする学科」の弾力化）

【現状】

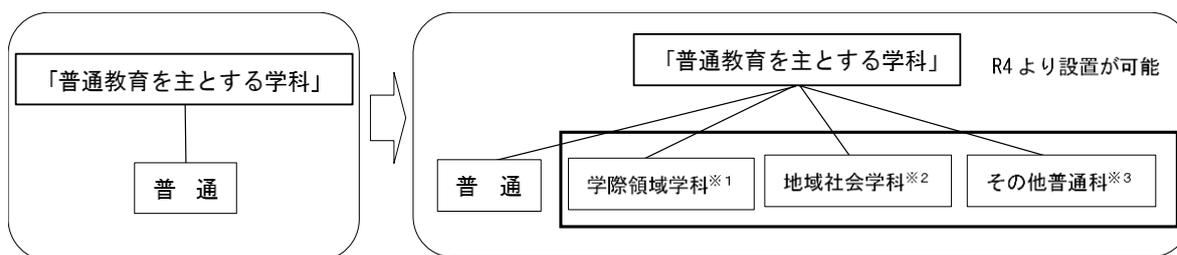
- ・ 令和3年の中央教育審議会答申において提言された普通教育を主とする学科の弾力化（普通科改革）を受け、令和4年度から新しい普通科の設置が可能となった。
- ・ 現在、大槌高校が文部科学省の指定を受け「新時代に対応した高等学校改革推進事業^{*35}」に取り組んでおり、令和6年度に、地域社会に関する探究的な学びを通して資質・能力の育成等を図る新学科（地域探究科）を設置した。

*33 通級による指導：高校の通常の学級に在籍している教育上特別な支援が必要な生徒に対して、個別に教育的ニーズに応じた指導を週に数時間程度行う特別支援教育の一つの形態。

*34 岩手県外国人児童生徒等教育方針：どの子供も社会において自立できるよう、県内に居住しているすべての外国人生徒等の就学、「日本語教育」の在り方及びその推進に関する本県の基本的な教育方針として策定したもの。

*35 新時代に対応した高等学校改革推進事業：令和3年1月の中央教育審議会答申において提言された普通教育を主とする学科の弾力化（普通科改革）や教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成を実現するため設置された事業。

参考①【普通科改革（「普通教育を主とする学科」の弾力化）の概要】



- ※1 学際領域に関する学科
… 学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科
- ※2 地域社会に関する学科
… 現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科
- ※3 その他（デジタル人材育成を目指す学科等）
… 当該高校のスクール・ミッションに基づく特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科

参考②【普通科改革に基づく新学科設置状況（全国）（R5年度）】

No	学科名	設置校数	備考
1	学際領域に関する学科	2校	私立2
2	地域社会に関する学科	5校	公立4、私立1
3	その他学科	2校	私立2
合計		9校	公立4、私立5

参考③【普通科改革支援事業指定校数（文科省）】

年度	設置校数	備考
R4年度	20校	大槌、専大北上含む
R5年度	9校	
計	29校	

【課題】

- ・ 大槌高校の新学科における取組を踏まえた他校への展開や、文部科学省が例示している「学際領域に関する学科」等の設置について、検討を進める必要がある。

【ビジョン】

- ・ 大槌高校の取組をモデルとして今後の推移を検証し、他校への展開を検討し、取り組む。
- ・ 普通科改革において、特色・魅力ある文理融合的な学びを行う学科として文部科学省が例示している「学際領域に関する学科」等の設置を検討し、取り組む。

4 普通科改革によらない新たな学科等の設置

【現状】

- ・ 高校は、生徒の能力や適性に合わせた多様な学びを促進し、将来のキャリアや社会での役割を考慮した教育を提供することが求められている。
- ・ また、自己と向き合う対話や、各教科で探究型の学びを経験することで、主体的・対話的で深い学びを実現し、自立した学習者を育てることを目指している。

- ・ 地元市町村等から、地域の実情に応じた新たな学科等の設置に関して意見が寄せられている。

【課題】

- ・ 国際的視野、多様性を認める力など、グローバル社会で活躍できる資質・能力の育成に向けて、探究的、教科等横断的な学習等の更なる推進を図る必要がある。

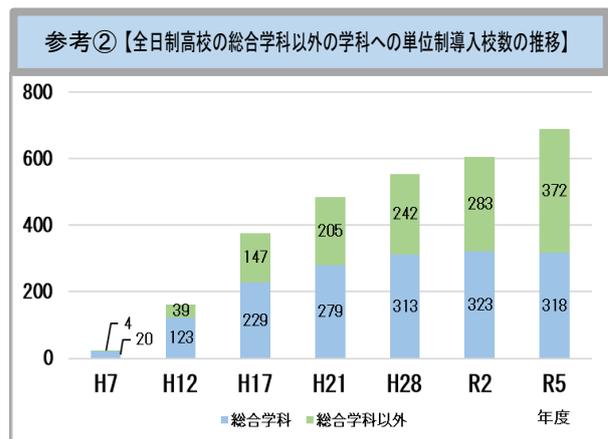
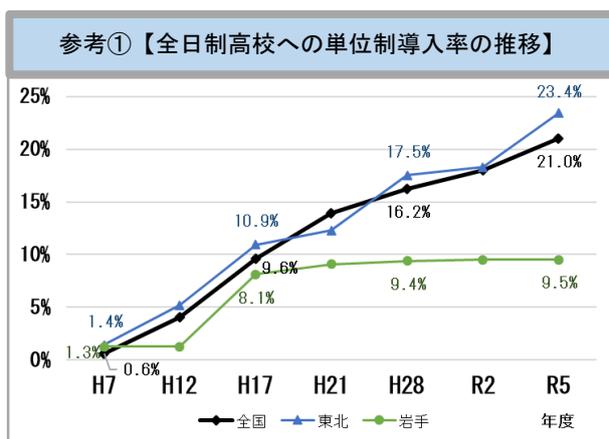
【ビジョン】

- ・ グローバル社会で活躍できる人材の育成に資する拠点校の整備や、探究的、教科等横断的な学びに資する学科等の在り方について検討し、取り組む。

5 全日制高校への単位制導入

【現状】

- ・ 他県においては、全日制高校に単位制を導入し、国からの教員加算を活用することにより、習熟度別授業の実施や生徒の多様な進路希望又は学習ニーズに対応した学校設定科目の開設、大学をはじめとした学校外での学修の単位認定制度の活用等、特色ある教育課程を編成しながら、個に応じた指導の充実を図り、生徒の学習意欲や学力の向上を図っている。
- ・ 本県の全日制高校においては、単位制による教育課程を編成している学科は総合学科のみである。
- ・ 後期計画では、南昌みらい高校に単位制を導入し、特色・魅力ある学びにおける指導体制の一層の充実を図ることとしている。



【課題】

- ・ 大学等への進学指導に重点を置いた全日制普通高校において、学力の向上等に資する指導体制の一層の充実を図る必要がある。
- ・ 単位制による学びについて、生徒や保護者等の学校関係者へ周知する必要がある。

【ビジョン】

- ・ 大学等への進学指導に重点を置いた全日制普通高校において、生徒の多様な進路希望や学習ニーズを踏まえ、大学卒業後のキャリア形成を見据えた指導体制の一層の充実に向け、単位制の導入について検討し、取り組む。

6 県政課題等に対応した人材育成の取組

【現状】

- ・ 後期計画においては、県政課題である医師の確保や、研究者・技術者等の専門的知識を持つ人材の育成に向けた学力向上に向け、教育内容の充実を図ることとしている。
- ・ 過去5年間における本県の県立高校から医学部医学科への進学者数は、30人程度で推移している。（過卒生を含めると40～60人程度で、そのうち岩手医科大学医学科への進学者数は20人台で推移している。）
- ・ 他県では、大学進学を希望する生徒が多く在籍する高校に「医学コース」や「医歯薬コース」等を設置している事例がある。

参考【全県における進学先の推移】医学部医学科及び難関大学（現役生）

卒業年度 高校	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
医学部医学科進学者	36	23	31	23	35	31	16	35	34	33	31	32
難関大学進学者	201	158	165	167	142	134	117	126	117	139	119	134

※難関大学：旧帝大、一橋大、東工大、医学部医学科

【課題】

- ・ 県政課題等に対応した人材の育成に向け、意識付けや人材の発掘、学力の向上等に資する取組の在り方について検討する必要がある。

【ビジョン】

- ・ 県政課題等に対応した人材の育成に向け、医系や科学系分野等の専門職を目指すコースや、探究的な学び、文理横断的な学びに取り組むコースなど、学力向上に資するとともに特色あるコースの設置について検討し、取り組む。

7 中高一貫教育

【現状】

- ・ 本県における中高一貫教育は、平成 13 年度から軽米地域で、平成 14 年度から葛巻地域で授業交流を中心とした連携型^{*36}の中高一貫教育を行っており、地域と一体となり一定の成果をあげている。
- ・ 両地域においては、町教育委員会や町 P T A 関係者、町内小中学校関係者、所管教育事務所及び県教育委員会等を構成員とする会議体を設置し、連携型中高一貫教育の一層の充実に向け、定期的に協議や意見交換等を行っている。

参考【岩手県の中高一貫教育】												
形態	連携型				連携型				併設型			
連携高校	軽米高校				葛巻高校				一関第一高校			
連携中学校	軽米中学校				葛巻、小屋瀬、江刈中学校				一関第一高校附属中学校 (定員 70 名)			
導入年度	平成 13 年度				平成 14 年度				平成 21 年度			
入試方法	・ 調査書及び面接 ・ 基礎学力の確認 (参考)				・ 調査書及び面接 ・ 基礎学力の確認 (参考)				入試なし			
充足率	年度	定員	入学者	充足率	年度	定員	入学者	充足率	年度	定員	入学者	充足率
	H21	120	103	85.8	H21	80	56	70.0	H21	240	243	101.3
	H28	80	48	60.0	H28	80	41	51.3	H28	240	245	102.1
	R6	80	35	43.8	R6	80	48	60.0	R6	200	185	92.5

- ・ 併設型^{*37}の中高一貫教育は、平成 21 年度に一関第一高校に県立中学校を併設し、6 年間の一貫した教育活動を行っており、探究的な学びの実施や大学進学等において一定の成果をあげている。
- ・ 中でも、医学部医学科や難関大学への進学者の多くは、内進生^{*38}が占めている。
- ・ 一方、医学部医学科や難関大学への進学実績においては、併設型中高一貫教育校の設置による県南地域や県全体への波及効果は見出せない状況である。
- ・ 県立附属中学校においては、設置当初から、国語、数学及び英語について、7 時間目 (25 分のモジュール) を設定し、中学校段階の指導内容の定着や、思考力、応用力の育成に重点的に取り組んでいる。
- ・ 一関第一高校においては、生徒育成上の観点から、内進生と外進生^{*39}が交流し合うことで互いに刺激し、高め合うことが期待できる混合型の学級編成を行っている。

*36 連携型：中高一貫教育の形態のひとつで、市町村立の中学校と県立の高校など異なる設置者による中学校と高校が教員・生徒間交流等の連携を深める形で行うもの。

*37 併設型：中高一貫教育の形態のひとつで、同一の設置者による中学校と高校を、高校への入学者選抜を行わずに接続するもの。

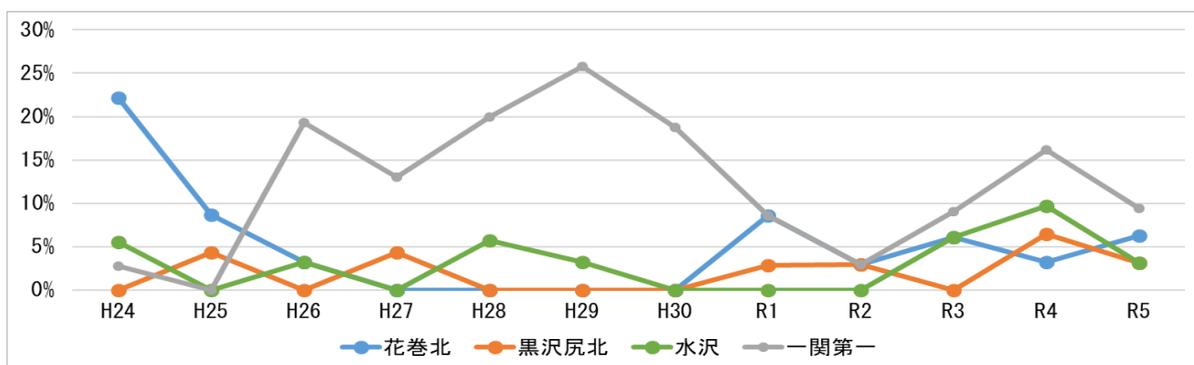
*38 内進生：県立附属中学校から一関第一高校へ進学した生徒。

*39 外進生：県立附属中学校以外の中学校等から一関第一高校へ進学した生徒。

(1) 医学部医学科（現役生）

卒業年度 高校	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
花巻北	8	2	1					3	1	2	1	2
黒沢尻北		1		1				1	1		2	1
水 沢	2		1		2	1				2	3	1
一関第一	1		6	3	7	8	3	3	1	3	5	3
上記4校の小計	11	3	8	4	9	9	3	7	3	7	11	7
全県	36	23	31	23	35	31	16	35	34	33	31	32

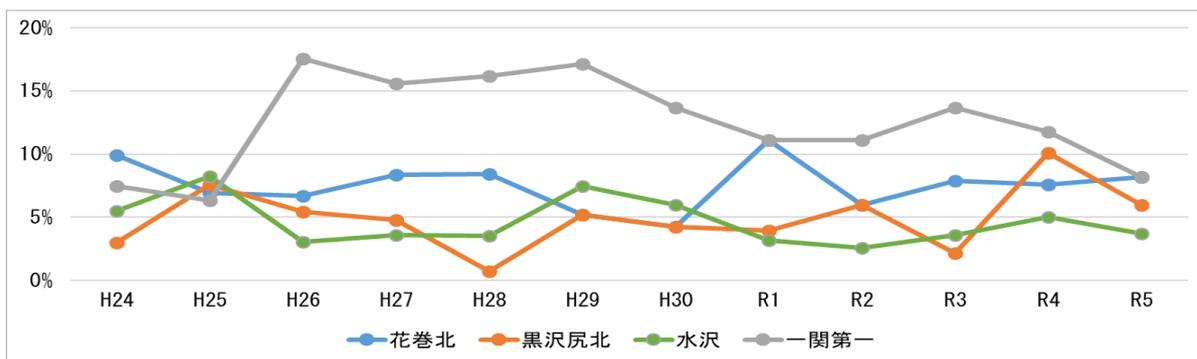
全県における入学者占有率の推移（現役生）



(2) 難関大学（旧帝大、一橋大、東工大、医学部医学科）（現役生）

卒業年度 高校	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
花巻北	20	11	11	14	12	7	5	14	7	11	9	11
黒沢尻北	6	12	9	8	1	7	5	5	7	3	12	8
水 沢	11	13	5	6	5	10	7	4	3	5	6	5
一関第一	15	10	29	26	23	23	16	14	13	19	14	11
上記4校の小計	52	46	54	54	41	47	33	37	30	38	41	35
全県	201	158	165	167	142	134	117	126	117	139	119	134

全県における入学者占有率の推移（現役生）



【課題】

- ・ 連携型中高一貫教育を行っている軽米地域、葛巻地域における連携中学校の卒業生数も減少傾向にあり、連携高校への進学率も低下傾向にあることから、軽米高校、葛巻高校においては入学者数の確保に課題がある。
- ・ 併設型中高一貫教育校である一関第一高校附属中学校の令和6年度の在籍生徒数の約7割が一関市内小学校出身者であることから、近隣の公立中学校における学級編成や教員定数への影響が懸念される。
- ・ 県立附属中学校においては、いわゆる「先取り学習^{*40}」は行われていないが、より良い教育課程の在り方について、他県の事例等を参考にしながら、継続的な研究を行う必要がある。
- ・ 中高一貫教育の特色を生かした教育の一層の充実が図られるよう、他県の学級編成の事例等を参考にしながら、継続的な研究を行う必要がある。

【ビジョン】

- ・ 連携型中高一貫教育については、連携中学校から連携高校への進学状況や今後の中学校卒業予定者数の推移等を考慮のうえ、今後の在り方について検討し、取り組む。
- ・ 併設型中高一貫教育については、これまでの成果や課題を踏まえ、県立中学校設置による周辺地域も含めた義務教育に与える影響や、中学校卒業予定者数に基づく見通し等を考慮のうえ、今後の在り方について検討し、取り組む。
- ・ 本県にとって、より良い併設型中高一貫教育校における教育課程や学級編成の在り方について検討し、取り組む。

8 いわて留学（県外募集）

【現状】

- ・ 県外からの志願については、一家転住を原則としているが、地元自治体等が生徒の生活環境を保障する場合において、特例として扱うこととし、葛巻町が平成27年度から、花巻市（大迫）が平成31年度から、それぞれ留学生の受入れを実施している。
- ・ 平成30年の「県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議」の報告書（提言）において、地域の将来を担う人材育成を期待し、県内の生徒の学びの機会の確保に配慮することを前提に、受入れ（全国募集）を認めることが適当であるとしており、令和2年度入試より実施している。
- ・ 令和6年度は13校でいわて留学（県外募集）を実施しており、合計32名を県外から受入れている。
- ・ 実施校においては、県外生と県内生が共に学ぶことにより、互いに刺激し合い切磋琢磨するなど、高い教育的効果をあげている。

*40 先取り学習：高校における指導内容の一部を中学校における指導の内容に移行して指導すること。併設型中高一貫教育校における教育課程の基準の特例として設けられている。

参考【「いわて留学」(県外募集)による入学者数の推移】

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2※2	R3※2	R4※2	R5※2	R6※2	計
実施高校数※1	3	3	3	3	4	9	11	14	14	13	-
実施市町村数※1	3	3	3	3	4	8	10	13	13	12	-
入学者数	5	5	4	4	9	19	19	31	25	32	153

※1 実施高校数及び実施市町村数は、「いわて留学」(県外募集)制度創設前に「全国的にも特色のある教育課程の設置校」として全国募集を実施している2校(水沢農業高校農業科学科、種市高校海洋開発科)を含むものであり、それら2校についても現在は「いわて留学」としている。

※2 R2年度以降の実施高校数と実施市町村数の差については、実施高校が遠野、遠野緑峰の2校に対して、実施市町村が遠野市の1市によるもの。

【課題】

- ・ 生徒数の確保に困難を抱えている1学級校等小規模校等の充足率の低い学校に対して、支援を継続する必要がある。
- ・ 親元を離れて入学する県外生の中には下宿や寮等での生活、学校における生活等に適応できない場合が見られ、そうした生徒への対応が求められている。

【ビジョン】

- ・ いわて留学(県外募集)の実施校及び実施を検討している学校に対する支援の方策について検討し、取り組む。
- ・ 県外生に対して、生活全般において適応が可能となるような支援の在り方について検討し、取り組む。

おわりに

県教育委員会においては、県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～の策定に向けて、現行計画の終期が令和7年度であることから、今後10年・15年先を見据え、本県の高等学校教育が如何にあるべきか検討するため、令和5年6月に外部有識者等を構成員とする「県立高等学校教育の在り方検討会議」を設置し、様々な視点による議論を深めながら、検討を重ねてきました。

この検討を踏まえ、当該長期ビジョンを土台として、全ての生徒が変化の激しい社会に主体的に対応する資質・能力を備えることとともに、持続可能な社会の構築につなげることを目指して、今後の県立高等学校における教育環境の構築等に取り組みます。

今後の県立高等学校における教育環境を構築の実現に当たり、一定期間を見通した実施計画を定める必要があります。

このため、県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～から概ね10年後を見据えた「第3期県立高等学校再編計画（仮称）」を策定します。策定に当たっては、令和7年度において地区毎に地域住民との意見交換を重ね、十分に意見を伺いながら検討を進めます。

なお、再編計画では、前期5年間における具体的な計画を示すとともに、後期5年間の方向性を示すこととし、後期の具体的な内容は、今後の状況を見極めながら検討することとします。

岩手県教育委員会事務局学校教育室

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10番1号

TEL 019-629-6205

FAX 019-629-6144

ホームページ：<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/index.html>

電子メール：DB0003@pref.iwate.jp

令和7年4月教育委員会定例会

(令和7年4月21日開催)

議案第1号関係 参考資料

(議案第1号 県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～の策定に関し議決を求めることについて)

- 参考資料1 県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～概要版
- 参考資料2 県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～（最終案）に係るパブリック・コメントの実施結果について
- 参考資料3 意見検討結果一覧表(パブリック・コメントにおいて提出された意見の概要)と検討結果(県教育委員会の考え方)
- 参考資料4 県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～（最終案）に係る子どもからの意見聴取の実施結果について
- 参考資料5 意見検討結果一覧表(子どもからの意見聴取において提出された意見の概要)と検討結果(県教育委員会の考え方)
- 参考資料6 県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～の主な修正箇所とその概要

学校教育室

県立高等学校教育の在り方

～長期ビジョン～(策定案)

全体構成

第1章 新たな県立高等学校再編計画(平成28年度～令和7年度)の取組(中間まとめ)……………	1 頁
第2章 岩手の高等学校教育の基本的な考え方……………	2 頁
第3章 県立高校学びの在り方……………	3 頁
第4章 学びの環境整備(県立高校の配置の考え方)……………	6 頁
第5章 高等学校教育の充実に向けた方策……………	8 頁

第1章 新たな県立高等学校再編計画（平成28年度～令和7年度）の取組（中間まとめ）

【概要】

(1) 策定の趣旨

県立高校教育の現状と課題を踏まえ、魅力ある学校づくりに向けて適切な教育環境の整備の推進を図るため策定したものの。

(2) 計画の期間

平成28年度から令和7年度までの10年間の計画である。（前期H28～R2 後期 R3～R7）

(3) 基本的な考え方

ア 特色と魅力を持った学校の整備

ウ 様々な課題を抱えた生徒に対応した学校の充実

イ 教育機会と教育環境の確保

エ 地域や産業と高校教育の連携

▶後期計画

ア 生徒の希望する進路の実現

イ 地域や地域産業を担う人づくり

(4) 現行再編計画による計画値及び実績値の比較^[参考1]

岩手県立高等学校の管理運営に関する規則[※]に基づく学級減等により、計画値と実績値に差が生じている。

[※] 入学志願者の数が、生徒の募集に関する人員に満たない場合で、その不足する数が1学級の収容定員以上であるときは、学級数を減らすことがある。

【参考1】再編計画策定時における計画値と実績値の比較

計画値

(前期H28策定、後期R3策定)

再編計画	年度	中学校卒業 予定者数	計画値			
			県立高等学校(全日制課程)			
			学校数	学級数	学科種別	募集定員
前期 (H28 ～R2)	H28	12,084 人	63 校	255 学級	普通科 [※] 148 学級	10,200 人
					専門学科 77 学級	
					総合学科 30 学級	
	R2	10,775 人	60 校	216 学級	普通科 [※] 126 学級	8,640 人
					専門学科 64 学級	
					総合学科 26 学級	
R7 [*]	9,806 人	49～51 校	189 ～ 191 学級	普通科 [※] 108 ～ 110 学級	7,560 ～ 7,640 人	
				専門学科 57 ～ 59 学級		
				総合学科 22 ～ 24 学級		
後期 (R3 ～R7)	R3	10,083 人	62 校	224 学級	普通科 [※] 129 学級	8,960 人
					専門学科 69 学級	
					総合学科 26 学級	
	R7	9,824 人	59 校	217 学級	普通科 [※] 124 学級	8,680 人
					専門学科 67 学級	
					総合学科 26 学級	

実績値

再編計画	年度	中学校 卒業者数	実績値			
			県立高等学校(全日制課程)			
			学校数	学級数	学科種別	募集定員
前期 (H28 ～R2)	H28	12,081 人	63 校	255 学級	普通科 [※] 148 学級	10,200 人
					専門学科 77 学級	
					総合学科 30 学級	
	R2	10,679 人	62 校	224 学級	普通科 [※] 129 学級	8,960 人
専門学科 69 学級						
総合学科 26 学級						
後期 (R3 ～R7)	R3	10,092 人	62 校	224 学級	普通科 [※] 129 学級	8,960 人
					専門学科 69 学級	
					総合学科 26 学級	
	R7	9,729 人	59 校	213 学級	普通科 [※] 122 学級	8,520 人
					専門学科 68 学級	
					総合学科 23 学級	

^{*} 前期におけるR7の数値は、新たな県立高等学校再編計画策定時(H28)に10年後の数値を見込んだもの。[※]普通科には、理数科及び体育科含む。

第2章 岩手の高等学校教育の基本的な考え方

【高等学校教育の基本的な考え方 ～5本柱～】

子どもたちに、広大な県土を有する本県の地理的要因によって教育の機会を損なうことなく、様々な社会的変化を乗り越えて豊かな人生を切り拓く力を身に付けさせ、「持続可能な社会の創り手、地域や地域産業を担う人材」として育成していくことが、これからの岩手の未来を切り拓く礎になると考える。

① 持続可能な社会の創り手となる人材の育成

- 変化の激しい社会の中で豊かな人生を切り拓くために必要な資質・能力を備え、多様な人々と協働しながら、これからの社会を維持・発展させていく持続可能な社会の創り手となる人材の育成に向けた教育環境の構築に取り組む。

② 高等学校の多様化に対応、各自の希望する進路の実現

- 様々な背景を持つ生徒や、教育上特別な支援を必要とする生徒が在籍する等、高等学校の実態が多様化する中、よりインクルーシブな教育環境の構築や、生徒一人一人の特性に応じた多様な可能性や能力を最大限に伸ばし、各自の希望する進路の実現を可能とする生徒を主語とした教育環境の構築に取り組む。

③ 教育の質の保証、教育の機会の保障

- 今後も見込まれている生徒数減少^{[参考1][参考2]}により、更なる学校の小規模化が懸念される中、教育の質の保証に向け、ICTの活用も含めた教育環境の構築に取り組む。また、広い県土と多くの中山間地を抱える本県の地理的状況を踏まえ、生徒の教育の機会の保障に向けた学校の配置に取り組む。

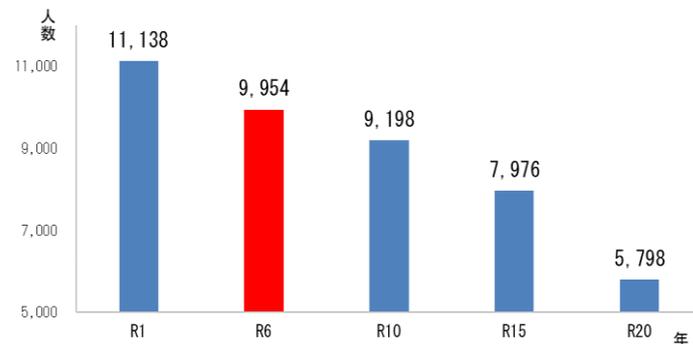
④ 地域や地域産業を担う人材の育成

- 地域社会や地元企業等と連携・協働し、高等学校の特色化・魅力化を進めながら、地域への理解を深め、地域や地域産業を担う人材の育成に向けた教育環境の構築に取り組む。

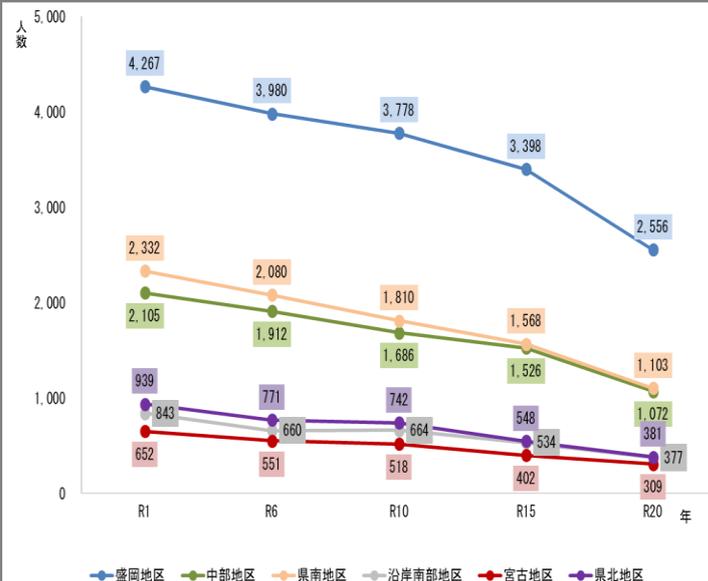
⑤ 大学進学率の向上や専門的知識を持つ人材の育成

- 大学進学率の向上や、県政課題等に対応した専門的知識を持つ人材の育成に向けた学力向上やキャリア形成支援に資する教育環境の構築に取り組む。

【参考1】岩手県における中学校卒業予定者数の推移



【参考2】各地区における中学校卒業予定者数の推移



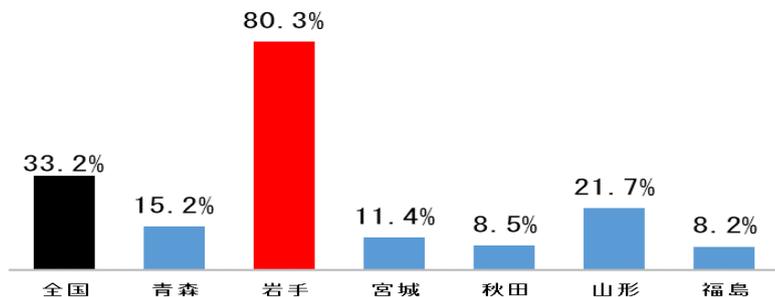
各年3月末、平成31年度及び令和6年は実数値、令和10年は推計値

第3章 県立高校の学びの在り方

【高校の特色化・魅力化のビジョン】

- 生徒の学習意欲を喚起し、一人一人の可能性や能力を最大限に伸長するため、高校の特色化・魅力化を推進し、各高校によるスクール・ポリシーを踏まえた教育活動を支援する。
- 本県でこれまで培われてきた各県立高校と地域・企業・大学等との連携・協働を深化させるとともに、取組の持続可能性を高める環境づくりに取り組む。
- 高校の特色化・魅力化に当たり、地域人材等の有効な資源との連携・協働^{【参考】}の推進に向けたコーディネーター等の専門人材の配置については、現在、国において検討が進められていることから、今後の国の動向や他県の状況等を踏まえたうえで検討し、取り組む。

【参考】公立高校におけるコミュニティ・スクールの導入率（R5）



いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031
(県立高校に関するスクール・ミッション) R3.10策定・公表

各県立高校

高校魅力化グランドデザインに基づき、各スクール・ポリシーを策定・公表

グランドエーション・ポリシー

カリキュラム・ポリシー

アドミッション・ポリシー

このような力を伸ばします

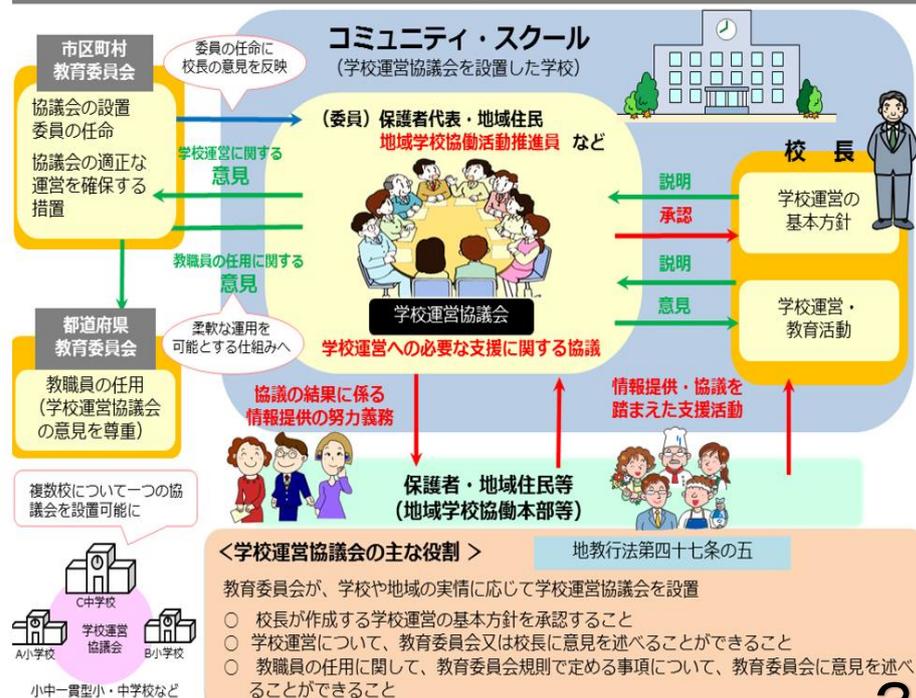
このような学びを行います

このような生徒を待っています

各県立高校のスクール・ポリシーを支える協働体制（コンソーシアム）の機能

コンソーシアムの代表例

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み



第3章 県立高校の学びの在り方

普通高校(普通科、理数科又は体育科)の【ビジョン】

- ・ 普通高校に学ぶ生徒の進路は、大学、専修学校等への進学や就職等、多岐にわたっており、生徒・保護者のニーズや社会の変化に対応した学びの保障や、生徒の資質・能力の向上を図るため、教育課程の見直しや、教育活動の特色化・魅力化等の取組を更に進める。
- ・ 学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実していく必要があることから、探究的な学び、文理横断的な学びの充実を図りながら、DXハイスクールの取組を進め、新たな学科やコース等の設置について検討し、取り組む。
- ・ 理数科等、普通科系の専門学科については、県全体のニーズや卒業後の進路状況を見据え、学科や学系の構成、その内容について検討し、取り組む。
- ・ 小規模の普通高校においては、将来的な生徒数減少の状況や、教育の機会の保障と質の保証の観点から踏まえつつ、より良い教育環境の整備を図るため、他の高校との再編等を検討し、進める。

専門高校(農業、工業、商業、水産、家庭など、職業教育を主とする学科を置く県立高校)の【ビジョン】

- ・ 専門高校については、産業振興の方向性や、地域が必要とする産業の人材育成を見据えた学科編制や学びの在り方について、国の動向も注視しながら検討し、取り組む。
- ・ 地域産業を担う人材の育成や課題の解決に向け、必要に応じて知事部局等と連携しながら、地域や産業界と学校との連携・協働の推進に取り組む。
- ・ 学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のため、探究的な学び、実践的な学びの充実を図りながら、DXハイスクールの取組を進める。
- ・ 各専門分野の中心的役割を担う専門高校については、学校規模を維持することにより、職業教育のセンター・スクールとしての機能を維持する。
- ・ 小規模の専門高校においては、各分野の専門性を維持しながらより良い教育環境の整備を図るため、より広域での再編も視野に入れながら、総合的な専門高校への再編や他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

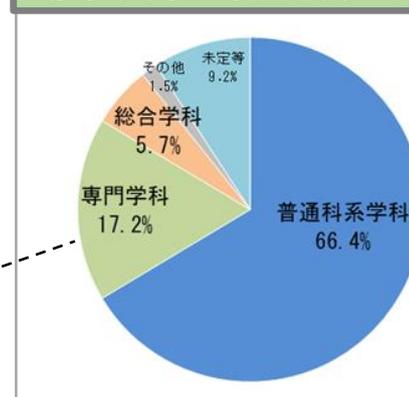
総合学科高校の【ビジョン】

- ・ 地域の産業構造やニーズを踏まえた系列構成や学びの内容となるよう、国の動向も注視しながら、系列の見直しや学びの在り方等について検討し、取り組む。
- ・ 小規模な総合学科高校においては、より良い教育環境の整備を図るため、総合学科高校に改編した成り立ちを踏まえつつ、より広域での再編も視野に入れながら、総合的な専門高校への再編や他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

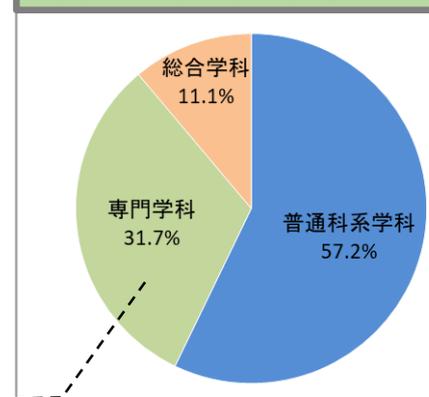
工業 7.7%、商業5.0%、農業2.2%、家庭1.9%、水産0.4%

工業14.7%、商業8.3%、農業6.0%、家庭1.8%、水産0.9%

【参考1】中学生の学科別進路希望 (R5)



【参考2】県立高校の大学科別募集定員の状況 (R6)



第3章 県立高校の学びの在り方

農業に関する学科の【ビジョン】

- ・ 地域の農業形態や産業構造及び地域のニーズ等を考慮しながら、農産品を活用した商品開発等、6次産業化へ対応した教育課程の見直しや学科改編等を検討し、取り組む。
- ・ 小規模な農業高校（科）においては、専門性を維持しながらより良い教育環境の整備を図るため、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

工業に関する学科の【ビジョン】

- ・ 地域の産業構造やニーズを踏まえながら、工業に関する専門教育の充実と卒業後の進路を見据えるとともに、関連する幅広い分野について学習できるように他の職業学科との連携を図りながら、教育課程の見直しや学科改編等を検討し、取り組む。
- ・ 小規模な工業高校（科）においては、専門性を維持しながらより良い教育環境の整備を図るため、学びの配置バランスを考慮するとともに、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

商業に関する学科の【ビジョン】

- ・ 他の学科においても、6次産業化へ対応した商業に関する学びが求められていることから、学校や学科を超えた連携を図るとともに、地域の産業構造やニーズを踏まえながら、教育課程の見直しや学科改編等を検討し、取り組む。
- ・ 小規模な商業高校（科）においては、専門性を維持しながらより良い教育環境の整備を図るため、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

水産に関する学科の【ビジョン】

- ・ 水産業の動向やニーズを踏まえながら、地域や生徒の実態に合わせた教育課程の見直しや、学校や学科を超えた連携、地域等との連携・協働等、入学者確保に向けた方策を検討し、取り組む。
- ・ 将来的にも水産の学びを確保できるように、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等、教育環境の整備の在り方について検討し、進める。

家庭に関する学科の【ビジョン】

- ・ 地域の産業構造やニーズを踏まえ、卒業後の進路を見据えるとともに、関連する幅広い分野について学習できるように他の職業学科との連携を図りながら、教育課程の見直しや学科改編等を検討し、取り組む。
- ・ 専門性を維持しながら学校の活力を向上させ、より良い教育環境の整備を図るため、学びの配置バランスを考慮するとともに、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

総合的な専門高校の【ビジョン】

- ・ 地域の産業構造やニーズを踏まえた学科構成としながら、より良い教育環境の整備を図るため、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

定時制・通信制高校の【ビジョン】

- ・ 定時制・通信制高校への入学者数の推移や国の動向等を注視するとともに、不登校や教育上特別な支援を必要とする生徒の増加等に伴う定時制・通信制高校に求められる役割の変化や、全日制高校の再編整備の動きも考慮しながら、定時制・通信制高校の機能強化等に取り組む。
- ・ 通信制高校の設置について、生徒のニーズの変化等を踏まえ、既存の定時制高校に併設する等、検討する。

第4章 学びの環境整備

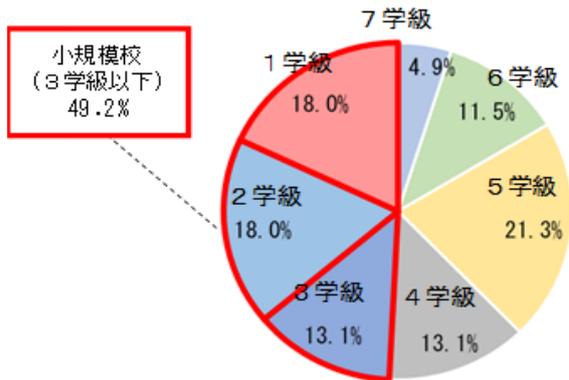
1 学校規模に係る【ビジョン】

- ・ 高校時代は社会に羽ばたこうとする段階の人間形成期にあつて、生徒同士の切磋琢磨による学力の向上、社会性や協調性の育成や生徒の希望する多様な学びの提供を図るには、学校規模^{[参考1][参考2][参考3]}を確保することが重要である。
- ・ 一方で、本県の広大な県土という地理的な条件、地域の実情、適切な教育の質の確保、県立高校が担う役割の多様化及び少子化の状況等を勘案すると、本県における学校の最低規模は1学年2学級（総合学科高校においては、学科の特長を生かした教育活動の充実を図るため、原則、1学年3学級）とする。
- ・ 地域における学びの機会を保障するため、例えば、近隣に他の高校がなく、他地域への通学が困難な場合における最低規模を1学年1学級とする学校の配置を検討する。
- ・ これらを総合的に勘案し、学校規模の大小に関わらず、各校が特色・魅力ある教育活動を展開し、生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことのできる環境を構築することが重要である。

2 小規模校の在り方に係る【ビジョン】

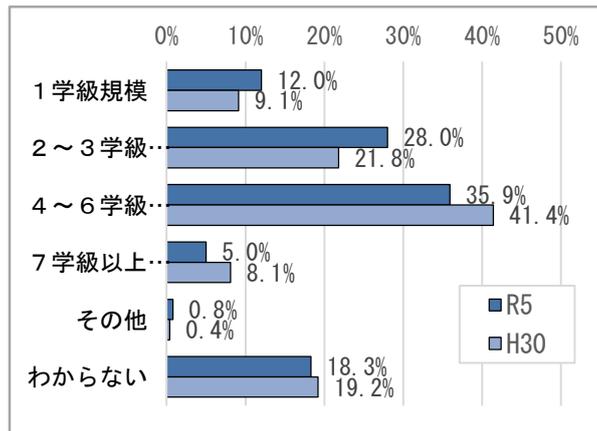
- ・（再掲） 本県の広大な県土という地理的な条件や、地域の実情、適切な教育の質の確保や県立高校が担う役割の多様化、少子化の状況等を勘案すると、本県における学校の最低規模は1学年2学級（総合学科高校においては、学科の特長を生かした教育活動の充実を図るため、原則、1学年3学級）とする。
- ・ 小規模校における教育の充実に当たり、人口減少社会を見据え、遠隔教育や学校間連携、地元市町村や特別支援学校との連携・協働、及び遠隔教育を併用した校舎制等の導入等について検討し、取り組む。
- ・ 将来的な生徒数減少の状況や、教育の機会の保障と質の保証の観点から踏まえた小規模校における教育条件の改善について、国の動向を注視しながら検討し、取り組む。

【参考1】 全日制県立高校における学校規模別の設置状況（R6）



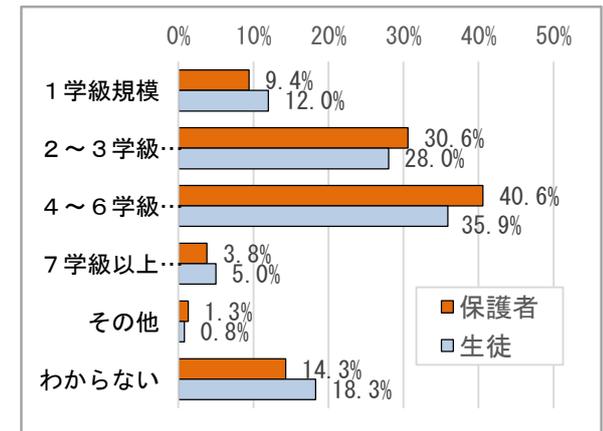
【参考2】 中学生の進路希望等に関するアンケート①（R5）

【高校の規模】 生徒（年度比較）



【参考3】 中学生の進路希望等に関するアンケート②（R5）

【高校の規模】 生徒・保護者



第4章 学びの環境整備

3 地区割と学校配置の【ビジョン】

- ・ 交通網の発達や生徒の通学の利便性、産業振興の動向、義務教育との接続等を考慮し、県立高校の配置に関する地区割の基本単位を地区とし、新たに6地区（盛岡、中部、県南、沿岸南部、宮古、県北）^{【参考1】}とする。
- ・ 専門学科及び総合学科については、将来的な生徒数減少の状況に対応しながら専門分野の学びの多様性を確保するため、全県における学校配置バランスを考慮しつつ、広域での再編を検討し、進める。
- ・ 県立高校の学校統合においては、教育の質を確保しながら地域に学びの場を残す方策として、遠隔教育を併用した校舎制等、新たな方策を検討し、取り組む。
- ・ 施設の有効活用等の観点から、特別支援学校や中学校との連携等、校種に捉われない配置の在り方を検討し、進める。

4 通学区域の【ビジョン】

- ・ 通学区域^{【参考2】}が設定されている趣旨や、入学者選抜における学区制限の状況、特定の地域への志願者の集中を招く懸念等を考慮し、学区の在り方については、次期高校再編計画における高校の配置を踏まえたうえで検討する。

5 通学等に対する支援の【ビジョン】

- ・ 将来的な生徒数の減少や、広大な県土を有する本県の通学事情等を考慮し、学校統合を行う場合で、かつ、通学が困難となる場合には、地元市町村と連携した通学支援等の在り方について検討する。

【参考1】地区割の変更

【変更前】9ブロック



【変更後】6地区



【参考2】通学区域（学区）

8学区



※ 学区の制限は、普通高校の他、総合選択制高校の不来方の人文・理数学系及び花巻南の人文・自然科学学系に出願する者が該当する。

第5章 高等学校教育の充実に向けた方策

1 遠隔教育・学校間連携に係る【ビジョン】

- ・ 中山間地等に所在する小規模校の生徒が履修できる教科・科目等の種類の増加、生徒の興味関心や進路希望に基づく多様な学習ニーズに対応するため、実施要件の弾力化等、国の動向を注視するとともに、遠隔教育や学校間連携のメリット、デメリットを踏まえながら、遠隔教育の普及・拡大に取り組むとともに、学校間連携の拡大について検討し、取り組む。
- ・ 生徒が病気や怪我、感染症の流行等により一定期間登校できない状況下において、遠隔教育と対面教育をバランス良く組み合わせた教育の在り方について検討し、取り組む。

2 教育上特別な支援を必要とする生徒等への対応に係る【ビジョン】

- ・ 多くの高校に教育上特別な支援を必要とする生徒等が在籍していることから、高校と特別支援学校との連携を深める等、これらの生徒への対応や、よりインクルーシブな教育環境の在り方について検討し、取り組む。
- ・ 不登校の状況にある生徒に配慮した教育環境の整備については、国の動向や他県の取組事例等を踏まえ、遠隔教育等による支援に取り組む。
- ・ 岩手県外国人児童生徒等教育方針（令和6年3月策定）に基づき、外国人生徒等に対する日本語教育を含めた学校教育全般にわたる支援を検討し、取り組む。

3 普通科改革に係る【ビジョン】

- ・ 大槌高校の取組をモデルとして今後の推移を検証し、他校への展開を検討し、取り組む。
- ・ 普通科改革において、特色・魅力ある文理融合的な学びを行う学科として文部科学省が例示している「学際領域に関する学科」等の設置を検討し、取り組む。

4 普通科改革によらない新たな学科等の設置に係る【ビジョン】

- ・ グローバル社会で活躍できる人材の育成に資する拠点校の整備や、探究的、教科等横断的な学びに資する学科等の在り方について検討し、取り組む。

5 全日制高校への単位制導入に係る【ビジョン】

- ・ 大学等への進学指導に重点を置いた全日制普通高校において、生徒の多様な進路希望や学習ニーズを踏まえ、大学卒業後のキャリア形成を見据えた指導体制の一層の充実に向け、単位制の導入について検討し、取り組む。

6 県政課題に対応した人材育成の取組に係る【ビジョン】

- ・ 県政課題等に対応した人材の育成に向け、医系や科学系分野等の専門職を目指すコースや、探究的な学び、文理横断的な学びに取り組むコースなど、学力向上に資するとともに特色あるコースの設置について検討し、取り組む。

第5章 高等学校教育の充実に向けた方策

7 中高一貫校教育に係る【ビジョン】

- ・ 連携型中高一貫教育については、連携中学校から連携高校への進学状況や今後の中学校卒業予定者数の推移等を考慮のうえ、今後の在り方について検討し、取り組む。
- ・ 併設型中高一貫教育については、これまでの成果や課題を踏まえ、県立中学校設置による周辺地域も含めた義務教育に与える影響や、中学校卒業予定者数に基づく見通し等を考慮のうえ、今後の在り方について検討し、取り組む。
- ・ 本県にとって、より良い併設型中高一貫教育校における教育課程や学級編制の在り方について検討し、取り組む。

8 いわて留学に係る【ビジョン】

- ・ いわて留学（県外募集）^{〔参考〕}の実施校及び実施を検討している学校に対する支援の方策について検討し、取り組む。
- ・ 県外生に対して、生活全般において適応が可能となるような支援の在り方について検討し、取り組む。

〔参考〕「いわて留学」（県外募集）による入学者の推移

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2 ^{※2}	R3 ^{※2}	R4 ^{※2}	R5 ^{※2}	R6 ^{※2}	計
実施高校数 ^{※1}	3	3	3	3	4	9	11	14	14	13	-
実施市町村数 ^{※1}	3	3	3	3	4	8	10	13	13	12	-
入学者数	5	5	4	4	9	19	19	31	25	32	153

※1 実施高校数及び実施市町村数は、「いわて留学」（県外募集）制度創設前に「全国的にも特色のある教育課程の設置校」として全国募集を実施している2校（水沢農業高校農業科学科、種市高校海洋開発科）を含むものであり、それら2校についても現在は「いわて留学」としている。

※2 R2年度以降の実施高校数と実施市町村数の差については、実施高校が遠野、遠野緑峰の2校に対して、実施市町村が遠野市の1市によるもの。

おわりに

県教育委員会においては、県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～の策定に向けて、現行計画の終期が令和7年度であることから、今後10年・15年先を見据え、本県の高等学校教育が如何にあるべきか検討するため、令和5年6月に外部有識者等を構成員とする「県立高等学校教育の在り方検討会議」を設置し、様々な視点による議論を深めながら、検討を重ねてきました。

この検討を踏まえ、当該長期ビジョンを土台として、全ての生徒が変化の激しい社会に主体的に対応する資質・能力を備えることとともに、持続可能な社会の構築につなげることを目指して、今後の県立高等学校における教育環境の構築等に取り組みます。

今後の県立高等学校における教育環境を構築の実現に当たり、一定期間を見通した実施計画を定める必要があります。

このため、県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～から概ね10年後を見据えた「第3期県立高等学校再編計画（仮称）」を策定します。策定に当たっては、令和7年度において地区毎に地域住民との意見交換を重ね、十分に意見を伺いながら検討を進めます。

なお、再編計画では、前期5年間における具体的な計画を示すとともに、後期5年間の方向性を示すこととし、後期の具体的な内容は、今後の状況を見極めながら検討することとします。

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～（最終案）に係るパブリック・コメントの実施結果

参考資料2

1 期 間

令和6年11月21日（木）～令和6年12月20日（金）

2 方 法

(1) 周知方法

実施	内 容
○	行政情報センター、行政情報サブセンター等への資料配架
○	県ホームページへの資料等掲載
○	説明会の開催（県内6ヶ所、計147名参加）
○	報道機関への発表
	県の発行する広報紙等への掲載
	印刷物の配布
○	その他（広聴広報課 X）

(2) 意見受付方法

実施	内 容
○	郵便（持参を含む。）
○	ファクシミリ
○	電子メール
○	公聴会又は説明会（会場における聴取）

3 意見件数及び対応状況

(1) 意見件数

受付方法	意見提出人数（人）	意見件数（件）
郵便（持参を含む。）	3	8
ファクシミリ	4	9
電子メール	22	87
県民説明会	26	53
市町村教委訪問	32	154
計	87	311

(2) 決定への反映状況

区 分	内 容	意見件数 (件)
A（全部反映）	意見の内容の全部を反映し、計画等の案を修正したもの	2
B（一部反映）	意見の内容の一部を反映し、計画等の案を修正したもの	4
C（趣旨同一）	意見と計画等の案の趣旨が同一であると考えられるもの	79
D（参考）	計画等の案を修正しないが、施策等の実施段階で参考とするもの	221
E（対応困難）	A・B・Dの対応のいずれも困難であると考えられるもの	2
F（その他）	その他のもの（計画等の案の内容に関する質問等）	3
	計	311

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
1	第1章 1	進路支援は重要ですが、都市部の魅力が優秀な人材の県外流出を招いています。進学・就職先選択の背景には教育や医療環境、多様なライフスタイル、給与水準の違いが絡みます。一方、生徒の進路選択は自由であるべきで、強制力を伴う誘導は慎重に考える必要があります。公的機関の誘導が選択の自由を制限する懸念もあり、公平で自由な環境を守ることが重要です。特定の進路を推奨する姿勢は避け、生徒の権利と意思を尊重した支援が求められます。	1	今後も生徒一人一人の多様な学びの実現に役立てていくための教育環境の整備等について、全県的な視野で検討を進めて参ります。	C <small>趣旨同一</small>
2	第1章 1	「一定規模の人数が必要」との記述は、少人数指導を行う特別支援学校における社会性・協調性の育成を否定するものと受け取られかねず、不適切ではないでしょうか。仮に「少人数でも工夫次第で育成可能」との反論があるならば、「一定規模の人数」が必須であるとの前提自体が揺らぎます。この記述の背後に人件費や設備費削減の意図があるのであれば、それを明示すべきです。不可能な計画の遂行は教職員の無理な労働を助長し、結果として教育の質を損ねます。説明を避けるのではなく、正面から課題を提示することが必要と考えます。	1	新たな県立高等学校再編計画（平成28年度～令和7年度）においては、望ましい学級規模を4～6学級と定めていましたが、後期計画においては、各地域における学びの選択肢を確保するため、一定の入学者がいる小規模校を含め、地域の学校を維持することとしております。	D 参考
3	第1章 2	現行再編計画のまとめとしていますが、県南地区工業高校について触れていません。	1	ブロックを越えた統合により設置することから、後期計画期間中に設置場所や統合時期、教育内容等の検討を進めているところです。	F その他
4	第2章	高等学校教育の基本的な考え方に掲げる教育の機会の保障については、少人数の学校だからこそ通えるという生徒の存在も大事な視点であると思われる。	14	県内全ての地域で少子化が加速する中、地域の高等学校の在り方を考えるに当たり、教育の機会の保障と教育の質の保証を図りつつ、それぞれの生徒が進学したいと思える学校づくり、特色化・魅力化を進めて参ります。	C 趣旨同一

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
5	第2章	人口減少に伴う学校統廃合は避けられず、他県からの生徒募集も日本全体にプラスとは言えない中、地方教育には保守的な面が見受けられる。岩手では小中高の連携強化や革新的な学校設立、職業体験によるライフプラン形成支援が求められる。また、地域の魅力を活かした教育の一体化が可能性を秘めている。学習格差解消のため塾に代わる仕組みや、主要市町村以外への支援強化も必要だ。県や政府と連携しつつ、教育費を守り地方教育のリーダーシップを確立する取り組みを期待しています。	1	長期ビジョンにおいては、今後の本県における高等学校教育の基本的な考え方として、5つの柱を掲げ、各県立高校の役割や特色等に応じた環境の構築に取り組むことが適切であると捉えおり、今後も、広く御意見を伺いながら取り組んで参ります。	D _{参考}
6	第2章	岩手の人材育成では、大学進学率の向上だけを追求するのではなく、生涯岩手に住む人や将来的に戻ってくる人を重視すべきです。地元で活躍する人を育てるためには、長期的なビジョンが必要です。また、少子化対策に加え、県立高校でどのような人間像を育成するかを考えるべきです。岩手の勤勉な気風を活かして未来に希望をもたらす教育が重要で、数値目標ではなく、生徒の人格形成に重点を置くべきだと思います。	1	長期ビジョンの今後の本県における高等学校教育の基本的な考え方の5つの柱の一つに、「地域や地域産業を担う人材の育成に向けた教育環境の構築に取り組む」を掲げており、この考え方を大切に取り組んで参ります。	C _{趣旨同一}
7	第3章 1	今後も、県立高校の魅力化・特色化の推進を期待します。	3	生徒の学習意欲を喚起し、一人一人の可能性や能力を最大限に伸長するため、高校の特色化・魅力化を推進して参ります。	C _{趣旨同一}
8	第3章 1	コミュニティスクールは学校審議会の延長からまだ抜け出せていないように思われます。もっと、地域住民の活用や連携を学校教育に活かし、学校を地域で支えるという仕組みや意識をもっと育てていかないと、学校の負担だけが増えていくので、市町村や県の教育委員会の連携や地域組織団体の連携を本気に取り組みないと、名ばかりの運営協議会で終わってしまう気がしています。	1	学校が特色化・魅力化を進めるに当たり、地元自治体や企業、商工会、大学や研究機関等の関係団体及び個人との連携・協働は、大切であると理解しております。御意見を今後のより良い連携に活かして参ります。	D _{参考}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
9	第3章 1	部活動をどう考えるか。これまで「魅力化」といわれると、部活動の占める話題が大きかったと思います。しかし、今回は全く話題になっていません。部活動の地域移行は中学校だけの話ではないと思います。それでも部活動で高校を選択している中学生もたくさんいます。部活動は「教育の機会の保障」には当たらないのでしょうか。高校の部活動をどうするのか明確に示す必要があると思われます。地域移行ということになれば、多くの中学生は私学に流れると思います。	1	部活動については、教育の場で重要な役割を果たしていると考えますが、地域移行の影響や具体的な方向性については様々な見解があります。高校選択や教育の機会との関連性も含め、地域のニーズや児童生徒の意見を十分に考慮し、広い視点で具体的な対応策について検討して参ります。	D _{参考}
10	第3章 2	理科や社会において義務教育の既習事項をSTEAM教育に関連付けて、教科等横断的な学習の推進を普通科高校には期待する。	1	学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のために、教科等横断的な学習を充実していく必要があることから、探究的な学び、文理横断的な学びの充実に取り組んで参ります。	C _{趣旨同一}
11	第3章 2	普通科目の表現を共通科目と変更すべきである。	1	学習指導要領も共通科目と表記しておりました。御意見を踏まえ、普通科目という表現を共通科目に修正いたします。	B _{一部反映}
12	第3章 3 (1)	産業に関する専門教育を大切にしてほしい。	4	地域産業を担う人材の育成や課題の解決に向け、必要に応じて知事部局と連携しながら、地域や産業界と学校との連携・協働の推進に取り組んで参ります。	C _{趣旨同一}
13	第3章 3 (1)	生徒の学科別進路希望と募集定員の乖離については、小中学校でのキャリア教育が不足しているのではないか。	1	学科については、産業振興の方向性や、地域が必要とする産業の人材育成を見据えた学科編制や学びの在り方について、国の動向も注視しながら検討し、取り組んで参ります。	D _{参考}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
14	第3章 4	将来、生徒の減少が学級減そして最終的には学校の統廃合という流れは避けられないのだと思います。統廃合で志望する学校、学科が遠方になってしまうと、通学の時間的負担が増えて、課外活動などに悪影響があると思いました。専門科が学科の統合により、総合的な学科としてまとまってしまうことがありますが、広く浅く学ぶことが、進路の裾が広がることにもつながるのだらうと思いました。我が国は他国と比べてITが遅れているとも聞きます。将来のIT、情報技術者の育成も課題の一つだと感じています。	1	地域の産業構造やニーズを踏まえた学科構成としながら、より良い教育環境の整備を図るため、国の動向も注視しながら、学びの在り方等について検討し、取り組んで参ります。	D _{参考}
15	第3章 5	定時制・通信制高校のビジョンについて、定時制・通信制高校の機能強化に取り組むとあり、また、通信制高校の設置について、生徒のニーズの変化等を踏まえ、既存の定時制高校に併設する等、検討するとあるがとても良いと思う。多様な生徒がいるので、学びの選択肢が増えることは良い。	6	定時制・通信制高校の入学者数の推移や国の動向等を注視するとともに、不登校や教育上特別な支援を必要とする生徒の増加等に伴う定時制・通信制高校に求められる役割の変化や、全日制高校の再編整備の動きも考慮しながら、定時制・通信制高校の機能強化等に取り組んで参ります。	C _{趣旨同一}
16	第4章 1	少子化は避けて通れず、今ある学校をそのまま残すのは不可能だと考える。ただし、急激に進めすぎると地元住民からの反発も大きく、子ども達も動揺すると思われるので、将来を見通して計画的に統合を進めて欲しい。	9	地域における学びの機会を保障するため、学校規模の大小に関わらず、各校が特色・魅力ある教育を展開し、生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことのできる環境を構築できるよう、関係する方々と丁寧な協議を重ね計画的に進めて参ります。	C _{趣旨同一}
17	第4章 1	今般の盛岡南高校と不来方高校の統合は非常に大きな動きであり、これから先10年20年先を見たときには、このような一定の規模を持つ高校同士の統合が必ず必要になってくると思われる。	3	学校規模の大小に関わらず、各校が特色・魅力ある教育活動を展開し、生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことのできる環境を構築するため、次期県立高等学校再編計画においても、慎重に検討して参ります。	C _{趣旨同一}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
18	第4章 1	盛岡管内の定員数を減らし、1学年1学級の学校はなくしてもよいのではないか。	2	「学びの質や多様性の確保」と「学びの機会の保障」の観点から、普通高校、専門高校等それぞれに求められる役割を踏まえ、どの地域にどのような規模で学校を配置することが適当か、慎重に検討して参ります。	D _{参考}
19	第4章 2	学校の最低規模を1学年2学級としつつも、1学年1学級の特例校設置を検討していることを評価します。引き続き現行計画の「1学級校も含めた各地域の学校をできる限り維持すること」が継続されるよう期待します。	6	次期県立高等学校再編計画の策定においては、現行計画の趣旨を踏まえながら、現在の社会状況等を勘案し慎重に検討して参ります。	C _{趣旨同一}
20	第4章 2	少子化に伴う入学者数減少への対応として、1学級校の募集停止基準(2年連続20人以下)の見直しが求められています。「いわて留学」による入学者増加の可能性を考慮しつつ、地域や高校の意見を反映した柔軟な運用が重要です。また、小規模校の在り方については各自治体と協議し、地元高校の存続や平等な進学機会を確保する体制が必要とされています。充実した教育環境の維持を目指し、中学生が安心して進学を志せる仕組みが求められています。	4	本県の広大な県土という地理的な条件や、地域の実情、適切な教育の質の確保や県立高校が担う役割の多様化、少子化の状況等を勘案しながら、慎重に取り組んで参ります。	D _{参考}
21	第4章 2	小規模校の教育上特別な支援を必要とする生徒への対応が増加している傾向にある現状は、支援を要する生徒から小規模校が必要とされていることととらえます。	3	小規模校における教育の充実に当たり、特別支援学校等との連携・協働等を検討しながら、生徒一人一人に応じた適切な指導及び必要な支援を行えるように取り組んで参ります。	C _{趣旨同一}
22	第4章 2	少子化が進み小規模校が増えてくると、小規模校では教員の数を確保できないことが懸念される。そうすると学校の中で様々な教科、特に専門高校での教科の設定が難しくなってくるのではないか。	2	将来的な生徒数の減少の状況や、教育の機会の保障と質の保証の観点を踏まえた小規模校における教育条件の改善について、国の動向を注視しながら検討し、取り組んで参ります。	D _{参考}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
23	第4章 2	現在、多くの高校で定員割れが発生していることから、40人定員にこだわらず、学校ごとに定員を減らし少人数クラスを導入することで、きめ細かな指導を行い魅力を高めることが提案されています。また、35人や30人学級への定員見直しの必要性が指摘されており、生徒一人ひとりに向き合った教育を実現するための改善が求められています。少子化対策の一環として、柔軟な定員設定についての議論が必要です。	1	1学級の定員については、少人数学級の導入とそれに伴う教職員の配置に係る経費負担について、国に要望を行っており、今後も継続して参ります。	D _{参考}
24	第4章 3	通学に関わっては、親の負担が大きくなっている中、さらに広いエリアになることで親の仕事への影響も懸念されることから、そうした部分も踏まえた検討を行う必要があるのではないかと。	2	「学びの質や多様性の確保」と「学びの機会の保障」の観点から、普通高校、専門高校等それぞれに求められる役割を踏まえたうえで、どの地域にどのような規模で学校を配置することが適当か、慎重に検討して参ります。	D _{参考}
25	第4章 3	コロナ禍以降、地域公共交通の機能が低下している現状を踏まえると、統合計画における「交通網の発達」を前提とする考え方に疑問があります。また、交通網が整備されているとしても、高校生が実際に利用可能な交通手段が限られる点や、地区割の広域化の必要性が明確でない点が問題視されています。さらに、専門学科や総合学科の広域再編が進んでも、通学可能な範囲に限られ、所在地周辺の生徒しか利用できないのではないかと懸念が挙げられています。	2	高等学校の配置を検討するには、多様な学びのニーズや生徒数減少への対応、人口の偏在や広大な県土を有する本県の実情、公共交通機関や道路交通網の整備状況、遠隔教育の可能性など、様々な要素を勘案しながら慎重に進めて参ります。	D _{参考}
26	第4章 3	「県立高等学校の在り方～長期ビジョン～」では、交通利便性や産業振興を考慮し、久慈と二戸を統合した県北地区を基本単位とする地区割が提案されています。しかし、現行の公共交通機関では生徒の通学時間が大幅に増加し、費用負担や生活全体への影響が懸念されます。また、専門学科の広域再編は地域密着型教育や地元との連携を困難にし、若者世代の流出が地域衰退を加速させる可能性があります。地域の声を反映し、持続可能な教育環境の構築を求めます。	2	現在の9ブロックを新たに6地区とし、二戸ブロックと久慈ブロックを県北地区としてまとめた経緯として、義務教育の地区割に合わせ、これまで以上に義務教育との接続を図る必要性等を考慮したことがあります。どの地域にどのような学校を配置することが適当か、地域等の意見を伺いながら慎重に検討して参ります。	D _{参考}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
27	第4章4	地区割の変更は理解できるが、通学区域で遠野が気仙釜石に含まれるのは問題ないのか。	2	遠野は、旧宮守地区は花巻方面に通いやすく、釜石寄りの地区は釜石方面に通いやすく、進学の実績もあります。大きく8学区としていますが、遠野地区については両方にまたがる形にしております。遠野地区に限らず、他の地域にも同じような場所があり、生徒の進学先に対応しております。	F _{その他}
28	第4章4	「地区割」を変更する意図や、通学区域との違いがわかりにくいため、わかりやすい説明をお願いします。	1	これまでの9ブロックは昭和40年代の旧広域生活圏に基づくものです。現在の県の行政単位としては、広域振興圏が産業振興の観点から4圏域で構成されているほか、教育に関しては6教育事務所で構成されています。今般の交通網の発達等による生徒の通学に係る利便性の向上の観点や、これまで以上に義務教育との接続を図る必要性等を考慮し、県立高校の配置に関する地区割の基本単位を「地区」とし、新たに6地区と決めました。	D _{参考}
29	第4章4	通学区域(学区)の撤廃等を視野に入れながら見直しをしてもらいたい。	7	学区の撤廃については、都市部では多くの生徒が集まる一方、人口が少ない地域においては、逆に人口流出を加速させ、地域の学校で学びたいという生徒の意向が損なわれることも考えられることから、様々な視点で慎重に検討する必要があるものと認識しております。	D _{参考}
30	第4章4	通学区域について、学区廃止に対する懸念は長期ビジョン最終案に記載のとおりです。学区は維持する必要があります。	1	今後も中学校卒業予定者数の減少が見込まれ、将来的に、学区内に普通科高校の複数配置が困難となることも想定されることから、より広域的な地域単位での学校配置も視野に、学区の在り方について慎重に検討する必要があると認識しております。	C _{趣旨同一}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
31	第4章 4	子どもの数が減ることを受け、学区外の定員を段階的に緩和することを望みます。子どもが望む教育環境の提供の観点からは、学区の設定は必要であるが、学区外からの定員を段階的に増やすことで、競争による資質の向上に寄与すると考えます。	1	長期ビジョンにおいては、学区の在り方について「次期県立高等学校再編計画における高校配置を踏まえた上で検討する」としております。	D _{参考}
32	第4章 5	公共交通機関の減便が進む中、学校統合に伴う通学支援の具体的な計画が求められています。バス路線が減少する状況を踏まえ、通学手段自体の維持を視野に入れた支援策が重要です。交通費補助だけでなく、公共交通機関の存続や地域特性に応じた柔軟な対応を含めた次期計画の検討が必要とされています。特に盛岡市以外の地域では、持続可能な通学環境を整えるための包括的な取り組みが求められています。	4	将来的な生徒数の減少や、広大な県土を有する本県の通学事情等を考慮し、学校統合を行う場合で、かつ、通学が困難となる場合には、地元市町村と連携した通学支援等の在り方について検討して参ります。	D _{参考}
33	第4章 5	今後、寮などの整備を含めた通学支援があればありがたいと思う。	2	現在、寄宿舎が設置されている高校は、盛岡農業、盛岡工業、水沢農業、岩泉の4校となっております。また、中山間部の生徒数確保に課題のある高校が所在する市町村の一部においては、地域の高校の存続や、ふるさと振興の観点から、地元高校と連携した「いわて留学」の実施等で、居住環境の整備等を行っております。将来的な生徒数の減少により、寮の整備が必要となる場合も視野に、通学支援の在り方について検討して参ります。	D _{参考}
34	第4章 5	通学支援をすれば地域から学校がなくなってもいいとは思わないと思う。	1	統合等による通学支援等に係る状況は地域によって個々に異なることから、地域の意見等を伺いながら、個別に丁寧に検討して参ります。	D _{参考}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
35	第5章 1	今後、学びの機会の確保のために遠隔教育の推進・拡充に期待する。	5	中山間地等に所在する小規模校の生徒が履修できる教科・科目等の種類の増加、生徒の興味関心や進路希望に基づく多様な学習ニーズに対応するため、実施要件の弾力化等、国の動向を注視するとともに、遠隔教育や学校間連携のメリット・デメリットを踏まえながら、遠隔教育の普及・拡大について検討し、取り組んで参ります。	C <small>趣旨同一</small>
36	第5章 1	遠隔教育推進においては、学校の主体性が失われる可能性が懸念されます。準備や連携にかかる労力や費用対効果、教員の業務負担軽減が不透明であり、対面授業の方が学習効果や集中力に優れている点からも課題が多いとされています。県教委の十分な支援が求められます。	8	限られた教員数の中で、配信環境の整備等を踏まえた上で、本県における遠隔教育の在り方については、国や他県の動向も参考にしながら引き続き課題を分析し、対応して参ります。	D <small>参考</small>
37	第5章 2	不登校生徒等、教育上特別な支援を必要とする生徒達の数は変わらず、今後も減少することは予想できない状況にある。教育上特別な支援を必要とする生徒の学びの場、機会の確保が必要になってくると思う。	7	多くの高校に教育上特別な支援を必要とする生徒等が在籍していることから、高校と特別支援学校との連携を深める等、生徒への対応や、よりインクルーシブな教育環境の在り方について検討し、取り組んで参ります。	C <small>趣旨同一</small>
38	第5章 2	県内の在住外国人が増加し令和6年6月末現在で、10,644人と過去最高になっています。今後も、外国人労働者の増加が見込まれ、家族滞在等により児童生徒の増加が見込まれます。県立高校においては、現在、10校で13名の外国籍の生徒がおり、日本語指導や進路指導等の対応が求められていると思います。また、県立高校入学者選抜等における配慮なども求められてきますので、外国人生徒への対応等について記述が求められるのではないかと思います。	2	<u>岩手県外国人児童生徒等教育方針(令和6年3月策定)に基づき、外国人生徒等に対する日本語教育を含めた学校教育全般にわたる支援を検討し、取り組む。</u> と加筆いたします。	A <small>全部反映</small>

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見 件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
39	第5章 3	今年、地域探究科を設置した大槌高等学校の取組をモデルとして、普通科改革に基づく新学科の設置について積極的に展開してほしい。	2	新たな学科における教育課程においては、学校設定教科・科目や総合的な探究の時間を各年次にわたって体系的に開設することなどが求められており、大槌高校の取組をモデルとして今後の推移を検証し、他校への展開を検討し、取り組んで参ります。	C <small>趣旨同一</small>
40	第5章 5	単位制の導入は進学に関わる大きな魅力である。保護者の多くが望んでいることは、生徒がスキルアップして社会に対応できるようになって欲しいということであり、様々な制度を活用して魅力ある県立学校を目指していただきたい。	3	単位制導入により、生徒の多様な進路希望や学習ニーズに対応した指導体制の一層の充実を図ることができるよう取り組んで参ります。	C <small>趣旨同一</small>
41	第5章 5	単位制導入は進学指導の充実や生徒の社会適応力向上を目指した魅力化の一環とされています。保護者からはスキルアップを望む声が多く、魅力ある学校づくりが求められています。一方で、導入内容や計画の具体性に欠ける点が指摘されており、どの高校で導入するのか明確な説明と次期計画での具体的な方向性の提示が必要です。これらを踏まえた単位制導入を期待します。	2	習熟度別授業の実施や生徒の多様な進路希望または学習ニーズに対応した学校設定科目の開設、大学をはじめとした学校外での学修の単位認定制度の活用等、特色ある教育課程を編成しながら、個に応じた指導の充実を図り、生徒の学習意欲や学力の向上に繋がるように、周知も含め、丁寧に取り組んで参ります。	D <small>参考</small>
42	第5章 5	単位制の導入は、大学進学が目的ではなく、進学後のキャリア形成を見据えた記述であることが望ましいと考えます。	1	大学等への進学指導に重点を置いた全日制普通高校において、生徒の多様な進路希望や、学習ニーズを踏まえ、 <u>大学卒業後のキャリア形成を見据えた指導体制</u> の一層の充実に向け、単位制の導入について検討し、取り組む。と、下線部を修正いたしました。	B <small>一部反映</small>

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見 件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
43	第5章 6	「県政課題等に対応した人材育成の取組」については、「医系等分野」は医者に特化したものではないとのことから、医系のほかにも具体的な例を示してもよいのではないか。	2	県政課題に対応した人材の育成に向け、 <u>医系や科学系分野等の専門職</u> を目指すコースや探究的な学び、文理横断的な学びに取り組むコースなど、学力向上に資するとともに特色あるコースの設置について検討し、取り組む。と、下線部を修正いたしました。	B _{一部反映}
44	第5章 6	最近は学力の高い生徒が私立高校に進学しているという話をよく聞く。私立高校についても特色を出して取り組んでいるわけなので、県立高校についても、高校の棲み分けをしながら難関大学へ進学できるような学力向上に重点的に取り組む学校を打ち出してもよいのではないか。	3	県教育委員会では、いわて進学支援ネットワーク事業や保健福祉部、医療局との連携による岩手メディカルプログラムの実施等により、学力向上に取り組んで参りました。今後、地域の児童生徒の志望動向や保護者、地域のニーズ、地域の中学校卒業予定者数の推移等、様々な観点から分析しながら、医系進学コース等の設置に向けて検討を進めて参ります。	D _{参考}
45	第5章 6	県政課題に対応した人材の育成について、岩手県にとっては農業分野に係る人材の育成も大事な分野であり、県政課題の中でも重要な課題である。	1	「ビジョン」において専門職を目指すコースの設置に係る象徴的なものとして、「医系や科学系分野等」と記載いたしました。農業分野も含め、多様な進路に対応する人材の育成に取り組んで参ります。	C _{趣旨同一}
46	第5章 7	併設型中高一貫校の新たな設置を望む。	7	中高一貫教育校の設置の可能性については、中学校卒業予定者数の推移や、各地区の義務教育への影響等を十分見極める必要があり、今後、広くご意見を伺いながら、慎重に検討して参ります。	D _{参考}
47	第5章 7	連携型中高一貫教育は、入試を簡便化することによって地元に残す意図があったと思うが、地元の中学生も減少し、そのような時代は過ぎたと思われる。連携型の在り方を再び考える段階にあると感じている。	1	連携型中高一貫教育については、連携中学校から連携校校への進学状況や今後の中学校卒業予定者数の推移等を考慮のうえ、今後の在り方について、検討して参ります。	C _{趣旨同一}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
48	第5章7	引き続き併設中での「先取り」は行わず、内進生・外進生混合型の学級編成が必要です。	1	これまで、新しいタイプの中高一貫教育校、すなわち、中等教育学校の導入や中高一貫教育校の市町村立への移行に関する事等、また、現行の中高一貫教育校の先取り教育や学級編制等、特色のある教育の在り方について様々な意見を頂戴しており、引き続き慎重に検討して参ります。	D _{参考}
49	第5章8	いわて留学は地域の活性化に大きく貢献しており、ビジョンに記載されている内容についてはぜひ取り組んでいただきたい。また、スポーツ留学や外国人留学生の受け入れ等いわて留学の取組を拡大してもいいのではないかな。	8	「いわて留学」は、生徒による地域の歴史、文化の理解促進や地域産業との連携・協働、伝統芸能の活性化や継承が図られるなど、将来的な関係人口の創出や増大が期待されるものであり、本県の人口戦略としても重要であることから、引き続き、市町村等との連携を図りながら、「いわて留学」の在り方も含め、検討して参ります。	C _{趣旨同一}
50	第5章8	「いわて留学」の推進には、地元自治体の負担を考慮し、県による財政支援の拡充が求められています。さらに、独自の取り組みを展開し、留学の魅力を高める必要があります。他県の事例を参考に、専任課の設置や県内高校の連携体制強化を図り、魅力発信の仕組みを導入することで、持続可能な体制と効果的な留学推進となることを期待しています。	5	県教育委員会では、これまでの成果や課題を踏まえつつ、「いわて留学」のより一層の推進を図るため、令和7年度から新たに、県外留学に知見を有する民間団体との協働により、受け入れ校や地元自治体と入学希望者とのマッチング機会の充実や、生徒が不安なく学校生活や日常生活を送ることができるよう、受け入れ校や地元自治体に対して助言等支援をすることとしています。	D _{参考}
51	その他	進路指導の充実や教職員の働きやすい環境づくりが重要視されています。定時退勤等が可能な就業環境を整えることで、教育の質を向上させることが期待されています。また、地域協働では偏りや行き過ぎを防ぐ仕組みが必要です。進学校の魅力化や小規模校の支援においても、過度な負担を避ける形で進めるべきです。支援を要する生徒への対応には教員配置の強化が不可欠であり、教職員が授業準備に専念できる体制づくりが生徒の学力向上に繋がると思っています。	13	次期県立高等学校再編計画策定に当たって、様々な御意見を頂戴しながら、意見交換を重ね、十分に意見を伺いながら、教職員に過度な負担がないように準備して参ります。	D _{参考}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
52	その他	県民説明会での意見交換については、とても貴重な機会であり、参加人数が少ないのは非常にもったいない。マスコミへの周知だけでなく、当事者である中学校の保護者等から意見を聴くためにも、中学校に開催を案内するなど、周知方法を工夫するべき。	2	令和7年度には、次期県立高等学校再編計画策定に当たり、地域検討会議などを実施いたします。ご指摘いただいた点を踏まえ、教育事務所等を通じて中学校の保護者等への周知や岩手県HP等による案内などを進めて参ります。	D _{参考}
53	その他	個別の高校及び地域等に対する方向性及び具体的な提案等のパブリック・コメント	143	今回のパブリック・コメントにお寄せいただいた個別の高校及び地域等に対する方向性及び具体的な御提案は、次期県立高等学校再編計画策定の参考とさせていただきます。	D _{参考}

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～（最終案）に係る子どもからの意見聴取の実施結果

1 対 象

- (1) 県内の学校に通う小学校5年生から高校3年生の個人又はグループ（友達どうし、班、学級、学年、学校）で回答を希望する子ども。
- (2) 特別支援学校、私立学校、高等専門学校の児童生徒を含む。

2 期 間

令和6年12月23日（月）～令和7年1月24日（金）

3 方 法

個人所有又は各学校で配布されている端末を活用したオンライン調査

4 調査項目

- (1) 校種
- (2) テーマ（高校について関心をもっているテーマを14項目から最大3項目選択）
- (3) 選択したテーマについての記述（200字以内）

5 回答数・意見数

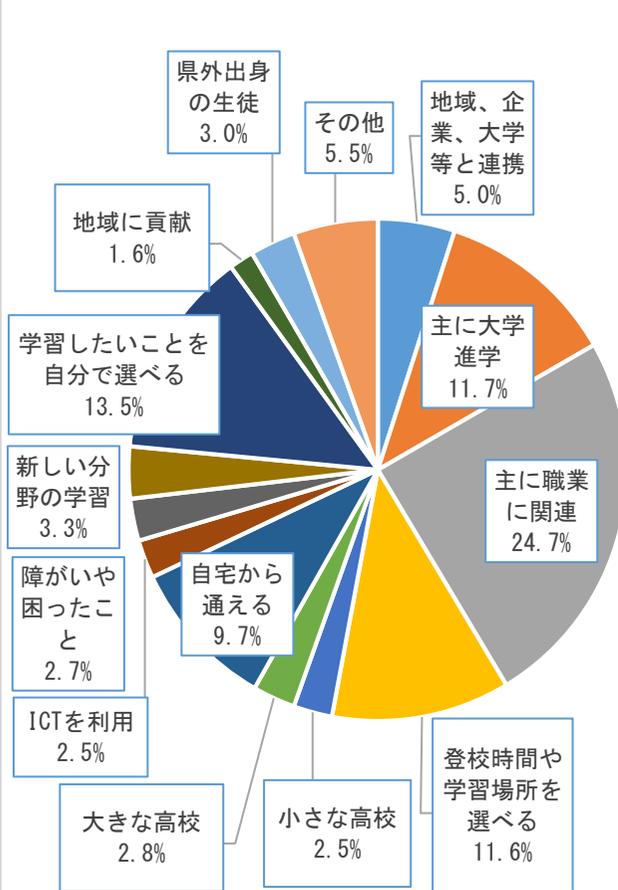
校種	回答数	意見数
小学校、小学部	1,799	2,064
中学校、中学部	1,899	2,066
高等学校、高等部	1,390	1,452
合計	5,088	5,582

6 意見の取扱い

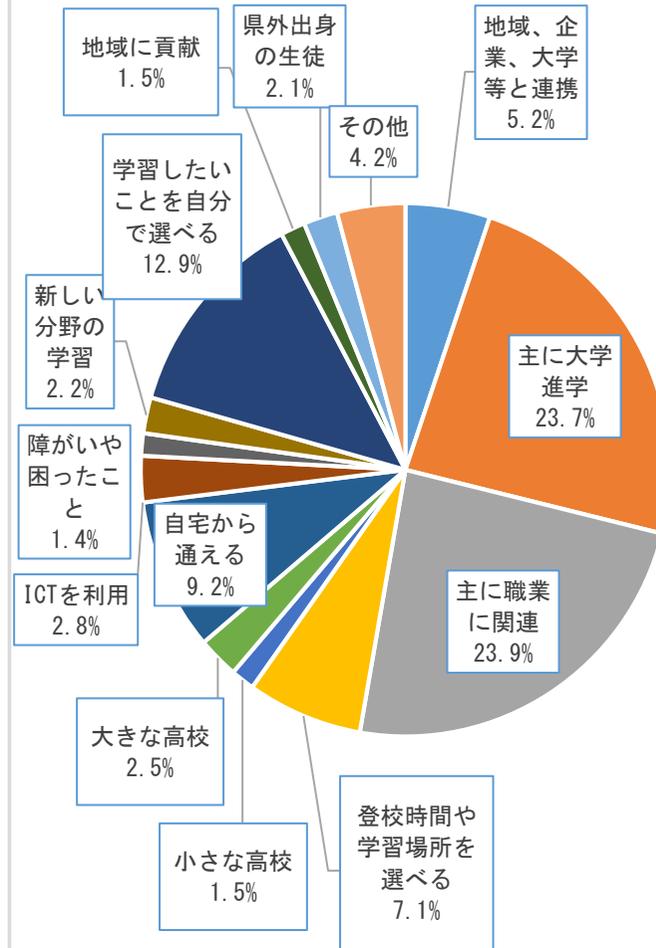
- (1) 「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」への反映
- (2) 県HPに概要及び回答を公表するとともに、その旨を各学校等に周知する。

○校種別の結果

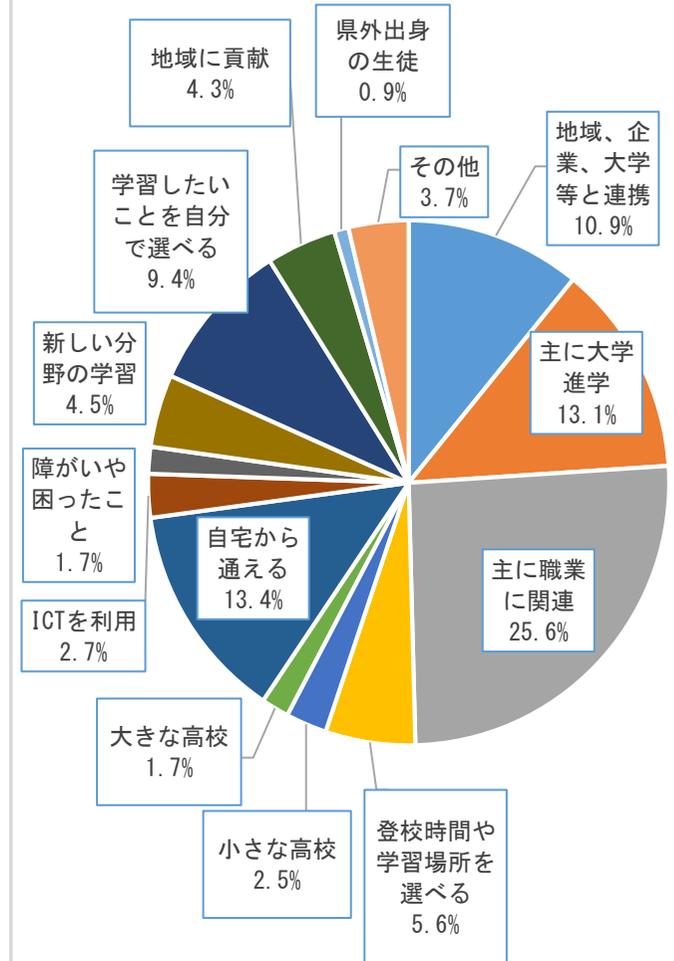
小学校、小学部 (n=2,064)



中学校、中学部 (n=2,066)



高等学校、高等部 (n=1,452)



意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記号	意見の反映状況
1	中学校、特別支援学校 校中学部	第2章 岩手の高等 学校教育の基本的 な考え方			どんな人でも良質な教育を受けられる高校。	B	長期ビジョンと同じ思いです
2	中学校、特別支援学校 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		大学への進学をゴールとするものではなく、その先の大学で何を学べるかが分かり、さらに生涯に役立つような学習ができるような高校に通いたいと思う。	A	長期ビジョンの記載に意見を反映します
3	小学校、特別支援学校 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		地域や企業、大学などと連携することで、様々なことを経験したり連携している人と仲を深めたりして将来の夢や未来に一步前進できるような高校で学びたいからです。	B	長期ビジョンと同じ思いです
4	小学校、特別支援学校 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		キャリア学習をして、将来に生かしたい。人間力を高めたい。	B	長期ビジョンと同じ思いです
5	小学校、特別支援学校 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		地域の伝統芸能がある学校や伝統芸能のことを学びたい。	B	長期ビジョンと同じ思いです
6	小学校、特別支援学校 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		将来の夢を探したり考えたりする時間や経験、知識が広がる授業になって欲しい。そして、育った地域を大切に、そこに住めるように、仕事があるように、高校時代の授業は大切だと思う。	B	長期ビジョンと同じ思いです
7	小学校、特別支援学校 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		大学などは都会のほうに行ってしまう人が多いので、地域とつながりが強く、地域と一緒に学べるような高校。	B	長期ビジョンと同じ思いです
8	小学校、特別支援学校 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		地域の方々との交流が深く、何か取り組みをする時に、応援してくれる高校。	B	長期ビジョンと同じ思いです
9	中学校、特別支援学校 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		自分の住んでいる地域は過疎化が進んでいるので高齢者などを援助できる取り組みを地域で連携して行うことを高校でやってみたい。	B	長期ビジョンと同じ思いです
10	中学校、特別支援学校 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		地域のことをよく知り、役場などと連携して地域の魅力を全国に発信していくような取り組みなどを行いたい。	B	長期ビジョンと同じ思いです
11	中学校、特別支援学校 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		自分の地域についてや企業との関連することはとても夢が広がっていいなと思いました。総合的な学習などを自分で選べて考えられる学校に通いたい。	B	長期ビジョンと同じ思いです
12	中学校、特別支援学校 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		大学などと連携した学習をすることで、高校卒業後の大学や社会などで生かすことのできる力を養いたいと思う。	B	長期ビジョンと同じ思いです
13	中学校、特別支援学校 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		生徒が主体となって学習でき、学習を多方面に活かすこと事のできる機会を作ることに協力してくれる高校に通ってみたい。	B	長期ビジョンと同じ思いです

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記 号	意見の反映状況
14	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		高校は子どもと大人の狭間なので大人とはどういうことかや社会で必要なことを学びたい。また、地域や大学、企業と連携して何かを作成したり交流を深めたりしたい。	B	長期ビジョンと同じ思いです
15	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		自分が通っている高校は、地域にどうしたら貢献できるかを探究することができるので、良い授業だと思いました。自分が今まで知らなかった魅力や課題にも気づくことができます。	B	長期ビジョンと同じ思いです
16	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		地域を学ぶ授業が小中学校からあってもいいと思う。自分の生まれた地域を知ることは自分を考える上で大事な土台になると思います。自分の暮らす市町村の強み・抱えてる問題、税金の流れ、そもそも誰が運営しているのか？市長を知ってる子はあまりいません。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します
17	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		もっと地元の企業と連携を取って町おこし的な学びがあれば面白い。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します
18	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		地域との連携も大切だと思うけれど、他の地域からも興味を持ってもらえる学校になって欲しいです。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します
19	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		大学を目指す高校と就職を目指す高校の区別をもっとはっきりさせるべき。(例えば、進学校は大学を目指していることを受験生に伝え、工業・農業・商業高校などは就職がメインということをしっかり伝える…など)	E	次期再編計画策定の参考とします
20	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		1番身近な社会という世界に触れる機会でありとても自分達の為になっていると思います。また、自分達の住んでいる町の現状を知り、進学するうえで何を学びたいかなどの新しい発見や動機づけのきっかけにもなっていてとてもいい経験になっています。これから先もぜひ続けて欲しいと思いますし、子どもが減り続けているので実業高校とも協力し実践的に取り組める機会があっても面白そうだなと思いました。	E	次期再編計画策定の参考とします
21	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	1 高校の特色化・ 魅力化		地域や企業、行政と連携し一般教科以外の世の中のことや自分のやっているプロジェクトをサポートしてくれる体制があるといいと思う。	E	次期再編計画策定の参考とします
22	小学校、特別支援学 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		国語、数学、社会、理科、英語の5教科を基礎的内容だけでなく、発展的な内容までを高校で学びたいと思う。	B	長期ビジョンと同じ思いです
23	小学校、特別支援学 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		職業について学びたい、そのために大学に行きたいので高校では主に大学進学を目指す学習や地域のことを学び、将来に活かせることをしていきたいです。	B	長期ビジョンと同じ思いです
24	小学校、特別支援学 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		自分が得意で好きな社会や地理などの教科を学びたいです。人によって得意不得意があるけれど、得意を伸ばし、不得意を平均まで伸ばすような高校に通いたいです。	B	長期ビジョンと同じ思いです
25	小学校、特別支援学 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		安定している良い生活を送りたいので普通科で授業を受け、大学に就職し有名な企業に勤めたい。	B	長期ビジョンと同じ思いです
26	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		何かに特化した特徴的な学習よりかは、基礎的な学習で幅広く、将来を選ぶ指針にもつながるようなことを高校で学びたい。	B	長期ビジョンと同じ思いです

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記 号	意見の反映状況
27	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		高校卒業後の進路についてしっかりサポートしてくれる高校に通いたいです。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
28	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		同じくらいの学力の同級生たちと交流し合うのがすごく楽しみなので、交流の場が多い学校はいいと思う。大学進学のためにも必要な知識を身につけて明るい将来を作りたい。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
29	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		どんな事情があっても、学びたい気持ちが認めてもらえる学校になって欲しいです。進学を希望している学校は、学びたい気持ちを理解して貰えていないような気がしています。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
30	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		高校では自分の研究したいことを考えて自分たちで進めていくことをしていきたい。これからの未来の大学生活(多分)で役立つことになりそうだから、高校のうちから慣れていきたいと思う。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
31	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		大学進学を目指しているので大学進学に必要な学びや進路選択などをについて生徒に親身に寄り添ってくれる学校に通って学びたい	B	長期ビジョンと同じ思いで す
32	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		大学進学の中でも、難関大学と普通の大学を分けて学習に取り組めるようにしてほしい。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
33	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		しっかり2年生までで高校範囲を終わらせ3年生は演習などで入試対策をしっかりする、あらゆる教科選択に対応できる高校がよい。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
34	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		中には「〇〇大学に行かなきゃ」と悪いことではないが選択肢が縛られている子がいると思うので、そのような子の選択肢とか新たな進路を広げられるような高校で学びたい。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
35	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		普通科の学校でも自身のしたい職について学べる場や時間を設けることによって、将来について見通しを立てることができ、大学受験にも意欲的に取り組むことができるようになると思う。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
36	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		授業でわからないところを1か月に何回か、復習する時間を自由参加で放課後などに作ってほしい。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
37	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		授業の理解度や必要な宿題の量などは人によって違うため、大学進学にとって重要である自主学習の時間を確保するためにも個人の勉強の自由度をあげてほしい。勉強の仕方や大学について(小論文、入試、進路選択など)学びたい。探究活動及び発表や、授業での活発な話し合い・意見交流は大学や社会でも活かせていいと感じている。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
38	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	2 普通高校(普通 科、理数科又は体育 科を置く県立高校)		楽しく自分から進んで学びたいと思えるような、学びができる高校に通いたいです。また、職業体験ができるような時間が学校で取れたら、より将来のことについて考えられるのかなと思うので職業体験のようなものがあるといいなと思います。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記 号	意見の反映状況
39	小学校、特別支援学 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(1) 全体	自分のなりたい職業について高校の頃から学べることは、その後の未来に役立つと思うから。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
40	小学校、特別支援学 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(1) 全体	職業に就くことが成人になるための第一歩だからこのテーマを選びました。この職業で決めて いけば大学も職業のことについての大学が見つけやすくなるし、未来の自分のためにも頑張れ ると思いました。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
41	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(1) 全体	社会に出たときに困らないように目上の方とのコミュニケーションの取り方や会社での暗黙の ルールなどを知りたい。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
42	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(1) 全体	小・中学校ではあまりなかった職業に関する学習をたくさんやってくれる高校がいい。どんな職 業があるかあまり知らないまま進路を決められないため。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
43	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(1) 全体	資格をとっていることで高卒ですぐ就職したい人でも職につきやすく良いと思う。また、資格取 得の学習も大事だが全体的に相手への接し方(コミュニケーション)についても学びたい。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
44	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(1) 全体	現在行われている資格取得等の学習に加えて、実際に職場見学等、自分の希望する職業に 触れる機会を増やすことで、将来のことを具体的に考えるができ、自分の進路に対してより良い イメージを持つことが出来ると思います。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
45	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(1) 全体	地元で就職したい人、大企業で働きたい人などいろいろなタイプの人に対応する就職活動をし てくれる学校。	B	長期ビジョンと同じ思いで す

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記 号	意見の反映状況
46	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(1) 全体	学校で実施する職業学習で扱う職業の種類を増やしてほしい。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
47	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(1) 全体	現在一般に認知されている職業だけでなく、より幅広い職業について学ぶことのできる高校。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
48	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(1) 全体	実業高校の魅力がもっと県内の子供達に伝わって欲しいなと思っています。実業高校では一番社会と関わる機会が多くあり即戦力としても戦える力が身につきます。これから先の世の中では有力な人材が求められるので、実業高校も進学先の視野に入れてもらえるように中学校の頃から実業高校と関わる機会を作っていただきたいです。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
49	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(1) 全体	自分の将来についてまだ明確に決まっていなくても、色々なことを学んで勉強できるような高校。	E	次期再編計画策定の参 考とします
50	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(2) 農業 に関する学 科	自分は、酪農経営で自宅からかよえる場所だし、高校は農業高校だったので入って農業の勉強をもっとしたいと思って入りました。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
51	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(2) 農業 に関する学 科	AIを使った農業のやり方などを学びたいです。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
52	小学校、特別支援学 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(3) 工業 に関する学 科	工業に関する学習をやってみたいです。理由は、メカやプログラミングなどに興味があり、特に自分の作ったロボットでロボコンに出場してみたいからです。	B	長期ビジョンと同じ思いで す

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記 号	意見の反映状況
53	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(3) 工業 に関する学 科	自分の夢は自動車整備士なので、自動車について深く学べる高校に入りたいと思いました。県 内の高校で、自動車について学ぶことができる所は少なく限られており、主に私立が多いので 公立でも学ぶことができるようにしてほしいです。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
54	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(3) 工業 に関する学 科	色々な企業からのオファーが多いのは工業高校ならではの	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
55	小学校、特別支援学 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(4) 商業 に関する学 科	高校では、パソコンでのデザインや広告の作り方を中心に、学びたいです。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
56	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(4) 商業 に関する学 科	高校卒業してすぐ働けるようなビジネスマナーなどについて学べる高校。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
57	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(4) 商業 に関する学 科	簿記や情報処理や流通など中学校では学べない内容を学んでいるから。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
58	小学校、特別支援学 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(5) 水産 に関する学 科	おとうさんと、おじいちゃんと、ひいおじいちゃんがぎょぎょうをしているから。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
59	小学校、特別支援学 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(5) 水産 に関する学 科	漁業の免許や調理師の免許どちらかを取ってみたいからです。	B	長期ビジョンと同じ思いで す

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記 号	意見の反映状況
60	小学校、特別支援学 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(6) 家庭 に関する学 科	食べ物についての学習や、栄養学を学べる高校にかよいたいです。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
61	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(6) 家庭 に関する学 科	もっと広い範囲で学べるようにして欲しい。特にファッションをもっと学べる所が欲しい。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
62	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(6) 家庭 に関する学 科	栄養士の資格を高校卒業と同時に取れるような学校がほしい。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
63	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(7) 総合 的な専門高 校	私の高校には4つの学科があり、それぞれの分野で学んでいます。ですが、別々でやっている ことから他学科と協力した実習を試してみたいです。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
64	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	3 専門高校(農業、 工業、商業、水産、 家庭など職業教育を 主とする学科(以下、 「職業学科」という。) を置く県立高校)	(7) 総合 的な専門高 校	農工商が集まっている高校に通ってみたい。	E	次期再編計画策定の参 考とします
65	小学校、特別支援学 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	4 総合学科高校		学びたいコースを自分で選択できる高校に通いたい。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
66	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	4 総合学科高校		私は将来介護福祉士になることが夢です。高校からちよつとずつ福祉に触れた学習を行いた いと思っています。でも岩手では介護が勉強できるところが少なく、できるだけおおく介護につ いて学べるところに行きたいと考えています。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
67	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	4 総合学科高校		岩手でも介護(福祉)や看護専門の学校を増やして高校のうちから学べる環境にして欲しいで す。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
68	小学校、特別支援学 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	5 定時制・通信制		定時制高校や自分がやりたい時間、自分のペースで勉強できる高校がいいです。	B	長期ビジョンと同じ思いで す

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記 号	意見の反映状況
69	小学校、特別支援学 校小学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	5 定時制・通信制		通信制で学費が安い高校にかよいたい	B	長期ビジョンと同じ思いで す
70	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	5 定時制・通信制		中学生の頃不登校だった生徒などでも、気が楽になって学習できる高校に通ってみたいです。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
71	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	5 定時制・通信制		定時制や通信制など、時間や場所が選べていいと思った	B	長期ビジョンと同じ思いで す
72	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	5 定時制・通信制		「大学にいかない＝その学校は雰囲気が悪い」という印象があり、実際行きたい！と強く願う高校はないのが現状です。外国語が専攻の通信制にしようかと考えていますが、できれば通信制ではない高校が良かったです。でも、私が高校生になる頃に新しい高校ができるとは到底考えられません。少しでも未来のために・とっています。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
73	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	5 定時制・通信制		登校時間を複数設けるほうが良いと思う。企業で採用されているフレックスタイム制のように、自分で複数設けられた登校時間から選んで決められた学習計画をこなすというようにすれば、電車が遅延したり、病気で朝起きることが辛い人でも安心して学校生活を送ることができると思う。	E	次期再編計画策定の参 考とします
74	中学校、特別支援学 校中学部	第3章 県立高校の 学びの在り方	5 定時制・通信制		登校時間が選べるのは家が遠い人にとっては嬉しいけど、あまり自由にしすぎると将来会社に勤めて入社時間が決まっているときに守れなくなりそうと思いました。でも、学習することは嫌じゃなくても、クラスの人が嫌で学校に来られない人もいると思うので、学習場所を選べるのはとても良いと思いました。	E	次期再編計画策定の参 考とします
75	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	5 定時制・通信制		自分のペースで登校時間、学習場所を選べるのは革新的だなと思いました。ですがその分沢山の意見が必要だと思いました。自分の好きに選べて勉強のやる気も上がると思います。	E	次期再編計画策定の参 考とします
76	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	5 定時制・通信制		働きながら、夜高校に行っているが、もう少し定時制などでも幅広い分野の勉強がしたい。	E	次期再編計画策定の参 考とします
77	高等学校、特別支援 学校高等部	第3章 県立高校の 学びの在り方	5 定時制・通信制		通信制の高校で農業や商業、漁業などの専門的な学習を学べる高校があれば高校選びの視野が広がると思う。	E	次期再編計画策定の参 考とします
78	小学校、特別支援学 校小学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	1 学校規模		今のクラスの規模が小さいから、大きな社会に出た時の暮らし方とかを早いうちに学んでおきたいから。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
79	小学校、特別支援学 校小学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	1 学校規模		いろいろな人がいると、いろいろな視点から、勉強が分かるし、体育祭、運動会など行事が人が多くと楽しくなるので良いと思います。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
80	中学校、特別支援学 校中学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	1 学校規模		自分の将来のために、高校生のうちからたくさんの人たちと関わり、学び合い、成長できる学校生活を送りたいです。	B	長期ビジョンと同じ思いで す

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記 号	意見の反映状況
81	中学校、特別支援学 校 中学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	1 学校規模		人が多く、いろいろな人と交流できる学校に通いたい。人が多ければいろんな考え方の人がいるから自分では思いつかなかった意見に気づき考えを深められる。	B	長期ビジョンと同じ思いです
82	高等学校、特別支援 学校 高等部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	1 学校規模		地域の高校は人が減ってしまって、倍率も人数も少ないことが寂しいため規模の大きい学校に憧れる。	B	長期ビジョンと同じ思いです
83	中学校、特別支援学 校 中学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	1 学校規模		少人数、大人数のよさを生かした高校になって欲しい。	C	長期ビジョン策定の参考とします
84	小学校、特別支援学 校 小学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	2 小規模校の在り 方		私は、あまり大きな高校にはいける気がないので小さな高校でまなんでいきたいです。	B	長期ビジョンと同じ思いです
85	中学校、特別支援学 校 中学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	2 小規模校の在り 方		少人数で学んだほうが先生も一人ひとりの様子を確認することができたり少人数だから同じクラスの人と仲良くしやすくなるかと思ったから。自然(主に動物系)を学びたいです。	B	長期ビジョンと同じ思いです
86	高等学校、特別支援 学校 高等部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	2 小規模校の在り 方		小規模だとクラス替えなど環境が変わることがないから生活しやすいし、授業でも先生1人に対して生徒の数が少ないから質問などをしやすい環境にあると思った。	B	長期ビジョンと同じ思いです
87	高等学校、特別支援 学校 高等部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	2 小規模校の在り 方		小さな学校だからこそ、人とのコミュニケーションなどが取れ、勉強面でも、部活面でも協力しあって成し遂げられる学校。	B	長期ビジョンと同じ思いです
88	高等学校、特別支援 学校 高等部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	2 小規模校の在り 方		小規模校だからこそ、地域との連携を強めたり、一人ひとりに合ったレベルの授業など大規模校にはできないことを行う学校がいい。	B	長期ビジョンと同じ思いです
89	高等学校、特別支援 学校 高等部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	2 小規模校の在り 方		たくさんの方がいるところだと精神的な疲れやストレスが現れることが多いから、そういう人のためにも直ぐに統合すればいいと思わないで欲しい。	E	次期再編計画策定の参考とします
90	小学校、特別支援学 校 小学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	3 地区割と学校配 置		どこに住んでいても学びたい学校で学べる制度を整えてほしい	B	長期ビジョンと同じ思いです
91	小学校、特別支援学 校 小学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	3 地区割と学校配 置		親の送り迎え、電車での登校がなく自転車、歩行していける距離にあるため、家族への負担が少いから。	B	長期ビジョンと同じ思いです
92	中学校、特別支援学 校 中学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	3 地区割と学校配 置		交通費などのお金で負担がかかり学校に来られない人もいると思うから、自転車や歩いて通える距離だったら学校に来たいと思う人が増えると思うから。	B	長期ビジョンと同じ思いです
93	中学校、特別支援学 校 中学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	3 地区割と学校配 置		県内の高校で大学進学を目指そうとすると、どうしても目指しやすい環境の整った高校がたくさんあるわけではないと感じます。また、盛岡市以外に住む人はさらにそれが顕著だと思えます。学ぶ環境がより整った高校が増えるといいなと思います。	C	長期ビジョン策定の参考とします
94	中学校、特別支援学 校 中学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	3 地区割と学校配 置		私の家は公共交通機関が少ないため、家から通える学校が限られてしまっています。学区内の学校でも、行ける学校と行けない学校で別れてしまい、正直行きたい学校をあまり選択できません。なので、もっと近くに進学校があると将来のために自分が本当にやりたいことができると思います。	C	長期ビジョン策定の参考とします
95	高等学校、特別支援 学校 高等部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	3 地区割と学校配 置		夢を達成するために隣の市の学習の質の高い教育の県立高校に通っています。	C	長期ビジョン策定の参考とします

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記 号	意見の反映状況
96	高等学校、特別支援 学校高等部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	3 地区割と学校配 置		高校から遠いと登下校が大変で、通学時間が多くなる分、家での学習時間などが短くなる	C	長期ビジョン策定の参考 とします
97	高等学校、特別支援 学校高等部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	3 地区割と学校配 置		家と学校までの距離が遠いため、自動車やバスなどで通学しているが、自動車やバスの本数が少ないので困っているため、本数を増やしてほしい	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
98	小学校、特別支援学 校小学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	3 地区割と学校配 置		家から一番近くの高校でも、車で20分ぐらいかかるから、もう少し近いところに高校があってほしい。	E	次期再編計画策定の参 考とします
99	中学校、特別支援学 校中学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	3 地区割と学校配 置		自宅からの通い易さはとても重要な項目の一つであると思う。実際に家から通うことのできる高校に通っているが、どこの高校でも勉強すれば大学や自分の進路達成は可能だと考えたため、家から近い高校を選ぶのが無難なのではないかと考えた。何か目標が明確になっている場合でない以外、遠くの学校に通うのは勇気がいると思った。	E	次期再編計画策定の参 考とします
100	高等学校、特別支援 学校高等部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	4 通学区域(学区) 配置		現在普通科に設けている学区、県外枠を私立高校が立地しない県北沿岸部の普通科高校こそ撤廃し、いわて留学を進めていってほしいし、地域に必要な高校は残してください。お願いします。	E	次期再編計画策定の参 考とします
101	高等学校、特別支援 学校高等部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	5 通学等に対する 支援		一人一人が自分の将来について深く考えるためには家庭の事情や経済的事情等で選択肢が絞られたり、勉強できる環境がない人がいることを解決していくべきだと思う。大学受験や就職も同じだと思う。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
102	中学校、特別支援学 校中学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	5 通学等に対する 支援		自宅から高校までの道のりが遠い時に家の近くまでバスなどが来てくれる。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
103	中学校、特別支援学 校中学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	5 通学等に対する 支援		近くの高校だけではなく、通学費用(電車賃、バス賃など)の補助を利用することで家計に負担をかけずに選べる高校の選択肢を増やしたい。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
104	中学校、特別支援学 校中学部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	5 通学等に対する 支援		バイク通学が出来るようにしてほしい。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
105	高等学校、特別支援 学校高等部	第4章 学びの環境 整備(県立高校の配 置の考え方)	5 通学等に対する 支援		寮があり、自宅から離れていても通える学校で学びたい。	E	次期再編計画策定の参 考とします
106	小学校、特別支援学 校小学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	1 遠隔教育・学校 間連携		不登校の人や学校に行けない人のためにリモート学習などが欲しいと思います。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
107	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	1 遠隔教育・学校 間連携		他校の生徒と合同で共通の学習内容について学び意見を交換する機会があると良いなと思いました。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
108	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	1 遠隔教育・学校 間連携		趣旨とは少し異なるが、進学中心の高校と就職中心の高校とで交流があると面白いと思う。自分のあまり触れたことのない世界を体験するのは非常に学びになる。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記 号	意見の反映状況
109	小学校、特別支援学 校小学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	2 教育上特別な支 援を必要とする生徒 等への対応		障がいとかではないけど人前で話すのが苦手な人でも、その人のペースに合わせて授業をして くれるような学校がいいです。あとは、困ったときにすぐ助けてくれるような学校が安心しま す。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
110	小学校、特別支援学 校小学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	2 教育上特別な支 援を必要とする生徒 等への対応		困ったことがあっても、相談することが出来ないし、先生に相談しても質問ばかりされるから、 ただただ自分が思っていることを言いたいです。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
111	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	2 教育上特別な支 援を必要とする生徒 等への対応		多様性が認められる学校に通いたい。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
112	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	2 教育上特別な支 援を必要とする生徒 等への対応		ジェンダーレスに理解のある学校。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
113	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	2 教育上特別な支 援を必要とする生徒 等への対応		障がい者や健常者に関係なく同じ場所で学習に取り組むインクルーシブ教育を実現して普通 高校と特別支援学校を選択できるようにする枠組みを作るべきだと思う。	C	長期ビジョン策定の参考 とします
114	小学校、特別支援学 校小学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	2 教育上特別な支 援を必要とする生徒 等への対応		支援学級みたいに少ない人数で勉強したいです。バリアフリーの学校が良いです。車椅子で 通える学校が良いです。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
115	小学校、特別支援学 校小学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	2 教育上特別な支 援を必要とする生徒 等への対応		自分が慣れない生活をしたりするとストレスがたまったり、勉強が頭に入ってこなかったりするから、 自分のレベルに合わせた勉強や、自分が勉強しやすい空間をつくったり、登校時間も自分の ペースで決められたら、一人一人がもっと、通いやすい学校になると思います。自分も、そん な高校があったらいいなと思います。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
116	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	2 教育上特別な支 援を必要とする生徒 等への対応		教室の喧騒が苦手という生徒にも複数のタイプがあるため保健室登校以外に図書室への登校 も許してほしい。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
117	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	2 教育上特別な支 援を必要とする生徒 等への対応		学校の先生や親、放課後等デイサービスの職員さんとの関わりは毎日楽しいが、その他の 方々と関わりを持つ機会が少ないので、学校に来てもらったり、遊びに行ったりしてたくさん の方と関わりたい。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
118	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	2 教育上特別な支 援を必要とする生徒 等への対応		病気など様々な理由で学校に行くことの難しい人たち一人ひとりに合わせた学校が出来れば いいな。また、不登校と呼ぶのではなくホームスタディなどと名前を変えてほしい。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
119	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	2 教育上特別な支 援を必要とする生徒 等への対応		少ない人数の高校で学習したい。いじめなどで不登校しがちで、出席日数が不安だし、学習も 追いついて行けてないから、支援してくれる高校がいい。	E	次期再編計画策定の参 考とします
120	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	2 教育上特別な支 援を必要とする生徒 等への対応		障がいや不登校といった普通の学校に通い辛い生徒たちが学校は楽しいと思えるような学校 を高校を通して考えて行きたいし、将来は学校に通い辛い人達の小中高学校を作りたい。	E	次期再編計画策定の参 考とします
121	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	2 教育上特別な支 援を必要とする生徒 等への対応		今もないわけではないが、障がい者が安心して学習できる学校がもう少し増えてもいいと思う。 都会の方でなく田舎の方に特にあればいいかなと感じる。	E	次期再編計画策定の参 考とします

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記 号	意見の反映状況
122	小学校、特別支援学 校小学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	3 普通科改革(「普 通科教育を主とする 学科」の弾力化)		eスポーツを学びたい。	E	次期再編計画策定の参 考とします
123	小学校、特別支援学 校小学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	3 普通科改革(「普 通科教育を主とする 学科」の弾力化)		自分は、ゲームなどのプログラムにかかわる仕事をしたいから、プログラミングなどの授業がある 学校に通いたいです。	E	次期再編計画策定の参 考とします
124	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	3 普通科改革(「普 通科教育を主とする 学科」の弾力化)		株などについて学べる学校やこれからの社会など、政治を学べる学校。	E	次期再編計画策定の参 考とします
125	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	3 普通科改革(「普 通科教育を主とする 学科」の弾力化)		ある種大学のように、自分でテーマを決めて研究を行える学校があったら面白いと思う。	E	次期再編計画策定の参 考とします
126	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	3 普通科改革(「普 通科教育を主とする 学科」の弾力化)		最近進行している環境破壊及び生態系への懸念について解決・活動する高校で学びたいと思 います。	E	次期再編計画策定の参 考とします
127	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	3 普通科改革(「普 通科教育を主とする 学科」の弾力化)		探究などで発見する地域の課題を建前ではなく自分の将来的な研究課題とすることで、研究 学問が決まり、大学への希望を見つけやすいので、よりリアルに地域課題を研究できる高校が いい。	E	次期再編計画策定の参 考とします
128	小学校、特別支援学 校小学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	4 普通科改革によ らない新たな学科等 の設置		アニメ関連のことが学べる所にいきたいと思います。	E	次期再編計画策定の参 考とします
129	小学校、特別支援学 校小学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	4 普通科改革によ らない新たな学科等 の設置		興味のある分野を選んで詳しく学びたい。ネイルやヘアメイク、メイクなどを学びたい。	E	次期再編計画策定の参 考とします
130	小学校、特別支援学 校小学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	4 普通科改革によ らない新たな学科等 の設置		ぼくは、鉄道が好きなので、鉄道関係の高校にかよいたいです。そして、好きな鉄道関係のも の以外にもいろいろなおことを学びたいです。	E	次期再編計画策定の参 考とします
131	小学校、特別支援学 校小学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	4 普通科改革によ らない新たな学科等 の設置		自分は、漫画家になりたいので、漫画の描き方をしっかり教えてくれるような高校に行きたいで す。	E	次期再編計画策定の参 考とします
132	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	4 普通科改革によ らない新たな学科等 の設置		看護系を学べる学校に行きたい。	E	次期再編計画策定の参 考とします
133	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	4 普通科改革によ らない新たな学科等 の設置		保育や教育について学びたい。	E	次期再編計画策定の参 考とします
134	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	4 普通科改革によ らない新たな学科等 の設置		私は、将来「美術的」な仕事に就きたいと考えています。例えば、「漫画家」や「イラストレー ター」などです。そのために、「美術科」などの専門の学科などが設置されている学校に通いた いです。「美術部」だけでは、美術的なことを学ぶことはできないので「美術科」などの専門の科 を設けたほうが賞ら美術などの職業に就きたい方が通いやすいと考えます。	E	次期再編計画策定の参 考とします
135	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	4 普通科改革によ らない新たな学科等 の設置		新しい分野かはよくわかりませんが、学校で日本舞踊みたいな日本芸能のことをやりたい。	E	次期再編計画策定の参 考とします
136	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	4 普通科改革によ らない新たな学科等 の設置		理系が好きだが県内に理数科が少ないため増やして欲しい	E	次期再編計画策定の参 考とします
137	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	4 普通科改革によ らない新たな学科等 の設置		海外の学生との交流に力を入れている学校で学びたい。この先の未来はグローバル化が進 み、多文化共生をしなければ行けないと考えているからです。高校のうちに英語などの外国語 をマスターしたいのもあります。	E	次期再編計画策定の参 考とします

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記 号	意見の反映状況
138	小学校、特別支援学 校小学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	5 全日制高校への 単位制導入		一人一人自分が学習したいことや興味を持ったことは違うから、高校で学習したいことを自分で 選べるのが良いと思いました。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
139	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	5 全日制高校への 単位制導入		行きたい大学のレベルに合わせて授業ができる高校に通いたい。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
140	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	5 全日制高校への 単位制導入		必修科目以外にも自分の興味や関心があることや、教科について学びたい。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
141	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	5 全日制高校への 単位制導入		大学と同じように授業を自分で選べて、将来で使うことを専門に勉強できる。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
142	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	5 全日制高校への 単位制導入		時間割はあってもいいと思うがもう少し自由な時間に登校できたり、自分でどのコマにどの授業 をいれるかなども選べたらもう少し良くなるんじゃないかと思う。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
143	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	5 全日制高校への 単位制導入		学習したいことを自分で選ぶことで、自分の長所や特技を伸ばすことにもつながると思います。 また、自分が興味のあることを学べるので楽しさもあると思います。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
144	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	5 全日制高校への 単位制導入		文系でも物理ができたり理系でも世界史が出来る個人個人が学びをオリジナルで作れる高校。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
145	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	5 全日制高校への 単位制導入		選択科目の枠を超えて、もっと自分である程度自由に履修科目を選ばせて欲しい。進学型単 位制はよい取り組みだと思うため、他高校にも広げてほしい。	E	次期再編計画策定の参 考とします
146	小学校、特別支援学 校小学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	6 県政課題等に対 応した人材育成の取 組		高校では、宇宙のことや科学を詳しく学びたい。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
147	小学校、特別支援学 校小学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	6 県政課題等に対 応した人材育成の取 組		教師になれる高校に行きたい。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
148	小学校、特別支援学 校小学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	6 県政課題等に対 応した人材育成の取 組		弁護士になりたいから法律に関する県外の大学に行きたいと思う。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
149	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	6 県政課題等に対 応した人材育成の取 組		医療系の大学に進学できる高校にかよいたい。医療について学べる高校にかよいたい。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
150	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	6 県政課題等に対 応した人材育成の取 組		岩手の日本の世界のリーダーを目指す高校に行きたい。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
151	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	6 県政課題等に対 応した人材育成の取 組		岩手県で大学への進学を目指すとなると、第一に岩手大学を目指すこととなります。しかし、岩 手大学より更にレベルの高い東北大学など様々な大学へ岩手県から優秀な人材を輩出するこ とができるような高校がほしいです。そして県全体でも大学進学率をあげてほしいです。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記 号	意見の反映状況
152	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	6 県政課題等に対 応した人材育成の取 組		看護師を目指しているので、看護師という明確な将来について考えて取り組むことのできる学校に行きたいです。人と直接かかわる仕事に就きたいので、活発にイベントがある学校がいいです。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します
153	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	6 県政課題等に対 応した人材育成の取 組		自分は医学部志望なので医学部に特化した学習(医学系の学習)を高校で学べたらなと思っている。	E	次期再編計画策定の参 考とします
154	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	6 県政課題等に対 応した人材育成の取 組		今後の日本は他国に負けないような、何か新しいアイデアや技術を磨くべきだと思うので、生徒個人がある分野について深く探求したいと思っているのならば学校でも支援してほしい。	E	次期再編計画策定の参 考とします
155	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	7 中高一貫教育		総合的な探究の時間で教科の授業ではできない経験をたくさんできたので、これからも自分の興味のあることを学べる環境が充実して欲しい。受験に向けての授業を中学校で先取りするなど柔軟な履修ができると目的意識が上がると思う。	E	次期再編計画策定の参 考とします
156	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	7 中高一貫教育		中高一貫校を増やすべきだと考える。理由は以下の通りです。 1 高校に入学し今までと異なった環境になってしまうと変化に適応できず不登校になってしまう可能性がある。大きな変化がなくゆとりある環境で6年間学べる点が魅力的である。 2 他校にくらべ授業の進度が早いため、レベルが高く大学受験に向けた対策が早めに行える。 3 高校が近くにあるため将来を見送ることができる。	E	次期再編計画策定の参 考とします
157	小学校、特別支援学 校小学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	8 いわて留学(県外 募集)		小学校みたいに同じ地域出身の友達との勉強もいいと思うけど、高校は小学校より地域の関係なく学力などで集められていて、県外出身の友達もいるので、自分とは違う価値観や文化にも触れられて、いいことだなと思います。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
158	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	8 いわて留学(県外 募集)		私の地域では過疎化が進み、今現在通っている中学校も私が二年生の時に統合し、町で唯一の中学校となりました。私は町の自然や人の温かさなどの良いところを伝えていきたいと考えています。そのために、県外出身の生徒の話聞きながら地域に貢献するための学習をしたいと思っています。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
159	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	8 いわて留学(県外 募集)		県外出身の方と関わることで、他県の学習に対する姿勢を知る機会を得ることができ、自分とは視点の異なる意見を取り入れ自分の考え方をより柔軟にできると思いました。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
160	高等学校、特別支援 学校高等部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	8 いわて留学(県外 募集)		教育目標や環境について、県外出身の生徒でも安心でき、魅力を感じられる高校があれば良いと思う。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
161	中学校、特別支援学 校中学部	第5章 高等学校教 育の充実に向けた 方策	8 いわて留学(県外 募集)		自分とは違う地域で生まれ育った人との交流関係を深めるような機会は大学などでしか体験できないけれど、体験することに遅いも早いもないから県外だけではなく国外の人とも交流ができるような学校があってほしい。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記 号	意見の反映状況
162	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	1	長期ビジョン全般	県立高等学校再編計画には、生徒数減少への対応として統合がよいと考える。統合により行事や部活動が活性化して、人脈や進路の幅も広がる。一方で学費や通学距離、伝統行事の廃止など課題も多い。普通科高校の減少や偏見を解消するため、コースをふやすなど多様な生徒が目指せる環境づくりが必要であると考え。少子化の影響を踏まえ、メリットとデメリットを考えながら、計画を少しずつ進めることが大切。	E	次期再編計画策定の参考とします
163	小学校、特別支援学 校小学部	その他	4	その他	先生が悪いことをしない、安全。	B	長期ビジョンと同じ思いです
164	小学校、特別支援学 校小学部	その他	4	その他	僕は、教師が自分の未来に真剣に向き合ってくれて意見を尊重してくれるような学校に通いたいです。	B	長期ビジョンと同じ思いです
165	小学校、特別支援学 校小学部	その他	4	その他	優しい先生や困ったことがあったら教えてくれるところで学びたい。	B	長期ビジョンと同じ思いです
166	小学校、特別支援学 校小学部	その他	4	その他	クラスみんな仲が良くトラブルも少ない高校で色々な学習をしたい。	B	長期ビジョンと同じ思いです
167	小学校、特別支援学 校小学部	その他	4	その他	一件もいじめがない高校にかよいたい。毎年いじめで自殺をしてしまう若者が日本では多いので定期的に命の大切さを高校でも呼びかけてほしいです。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します
168	中学校、特別支援学 校中学部	その他	4	その他	将来の不安を解消できるような環境がある高校に通いたい。また、気軽に相談できる機会がほしい。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します
169	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4	その他	将来についてたくさん悩むことが多いと思うので将来について先生などと相談しやすい学校がいいと思います。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します
170	中学校、特別支援学 校中学部	その他	4	その他	生徒の立場でいうのは大変憚られる気がしますが受験対策をするにあたり、教師陣のスキルも問題になると考えられるので、県内全ての高校でなるべく高いスキルを持った教員を配置できるように育成してほしいと思います。	B	長期ビジョンと同じ思いです
171	中学校、特別支援学 校中学部	その他	4	その他	私はまだ中学生で高校のことはよくわかりません。ですが教員の方々が他の教員の授業を学ぶ機会がないと聞きました。研究授業を率先して行うことで生徒にとっても学びが深まると思います。ぜひお願いします。	B	長期ビジョンと同じ思いです
172	中学校、特別支援学 校中学部	その他	4	その他	自分のやりたいことやレベルに教師がしっかり寄り添ってくれる環境であってほしい。	B	長期ビジョンと同じ思いです
173	中学校、特別支援学 校中学部	その他	4	その他	大学進学、就職に向けての学習を全校の職員、生徒で積極的に行い、職員の方々は生徒が分かりやすいように、遅れがないように学習を行ってくれたら生徒全員の学力が上がると思います。	B	長期ビジョンと同じ思いです
174	中学校、特別支援学 校中学部	その他	4	その他	自分が学びたいことに精通した先生がいてくれてその分野について詳しく学び、自分が望む将来をかなえることができるようにサポートしてくれる学校に行きたいです。	B	長期ビジョンと同じ思いです

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記 号	意見の反映状況
175	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		就職するにあたり大学卒業が当たり前になった日本において、岩手の教員の質が悪すぎると 思います。高校は義務教育では無いが税金から給料が出ている以上それに値する授業、姿勢 が出来ていないと感じる。しかし、それは義務教育である小学校、中学校が一番の原因だと思 う。盛岡市内だけで学習能力の大きな差が生まれていること、中学校での情報提供の少なさな ど問題が沢山ある。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
176	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		学力の向上が急務だと思う。教員の、特に小学校教員の給料を増やし、優秀な先生による質 の高い授業を提供しなければ岩手県の未来は無いと考えている。自分は共通テスト最下位を 何年も取るような県の学校に自分の子供を通わせたいとは強く思わない。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
177	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		先生にもICTに不慣れな方が多い中で、無闇矢鱈にパソコン等を授業に取り入れようとするこ とは非効率だと思います。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
178	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		時代にあった考え方ができる先生が多い高校。	B	長期ビジョンと同じ思いで す
179	中学校、特別支援学 校中学部	その他	4 その他		特に公立高校の制服が私立に比べて、正直可愛くなくてモチベーションが上がらないから公立 高校の制服を私立のように可愛く、今っぽくして欲しいです。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
180	中学校、特別支援学 校中学部	その他	4 その他		私は行事がしっかりしていて青春ができる学校が良くて、校則などゆるい学校がいいなと思っ ています。制服が可愛い、スマホ持ってきていい、お菓子いい、メイクいい、髪自由、行事がしっ かりしているなどの学校があったら私は行きたいなと思います。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
181	中学校、特別支援学 校中学部	その他	4 その他		バイトが出来る高校がいいです。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
182	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		校則が意味の無いものが多々あるので改善していきたい。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
183	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		一部の高校を対象にした難関大講座について、どこの大学を具体的に想定しているか明記し てほしい。(東北大などのような難関と国公立医学部のような難関ではベクトルが異なると思 っているため。)	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
184	中学校、特別支援学 校中学部	その他	4 その他		推薦入試を復活させて欲しい。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
185	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		スポーツに力を入れている高校に通いたい。そのために推薦制度を戻した方がいいと思いま す。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します
186	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		校舎が綺麗なのは絶対条件。私が通っている高校の今の校舎が限界を迎えていると思われ る。それにより私たち高校生は厳しい環境で学習をしている。高校の入学希望者が減りすぎ ているのも、校舎の荒廃によるものであると考えられている。現在、過疎化が著しく進んで いる地区の、唯一の進学校として生きていくために、校舎の建て替えを検討してほしい。県 内で一番校舎が古いとので、検討をお願いいたします。	D	それぞれの取り組みで前 向きに実現を目指します

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記 号	意見の反映状況
187	小学校、特別支援学 校小学部	その他	4 その他		蔵書数が多い学校を増やしてほしい。なぜなら、パソコンやタブレットでは味わえない学びがあると思ったから。そして、高校生にも貴重資料の閲覧をさせてほしい(歴史系の文献とか)。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します
188	小学校、特別支援学 校小学部	その他	4 その他		授業でスマホを使うことがあるなら、学校のWi-Fiにつながるようにしてほしい。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します
189	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		大学進学に向けた個別学習ができる場所が確保できる学校がいい。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します
190	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		トイレが和式が多いが、これから使い慣れていない人が増えていだろうし、特に夏場臭うので洋式に改修したほうがいいと思う。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します
191	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		男女トイレが校舎内の各階に置かれているが、そこに男女共用トイレを設置して欲しい。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します
192	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		Wi-Fiが貧弱であり、授業が思うように進まないことが多々あります。どうかICTフリーな授業を受けさせてください。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します
193	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		パソコンを個人で1端末買った割にはたくさん使えていないと思う。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します
194	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		ICT利用と言ってもスマホでできてしまうことが多いものもあるので、パソコン(surface)でしかできない打つ作業なども取り入れて欲しい。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します
195	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		体調不良などで休んだ時にしっかりサポートしてくれるような高校ならいいと思います。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します
196	小学校、特別支援学 校小学部	その他	4 その他		クラスの人と協力して何事にも全力でチャレンジしたり色々な行事に取り組んで行きたいです。	B	長期ビジョンと同じ思いです
197	中学校、特別支援学 校中学部	その他	4 その他		部活と勉強が両立できる環境が整っていて、学校生活を送りやすい、良い雰囲気溢れている学校に通いたいです。	B	長期ビジョンと同じ思いです
198	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		応援や挨拶が厳しい高校が増えてほしい。	B	長期ビジョンと同じ思いです
199	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		勉強面だけでなく、体育祭や文化祭など学校行事にも力をいれている高校に通いたい。	B	長期ビジョンと同じ思いです
200	中学校、特別支援学 校中学部	その他	4 その他		バンカラみたいに伝統ある文化が素敵だと思った。	B	長期ビジョンと同じ思いです
201	高等学校、特別支援 学校高等部	その他	4 その他		伝統も大事だけどそれじゃあ減るだけだから考えや見た目から変えるべき。	D	それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します

意見検討結果一覧表

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～(最終案)に対しての子どもからの意見聴取

通しNo.	校種	大区分 長期ビジョン の章	中区分 長期ビジョンの 章内の番号	小区分 長期ビジョ ンの章内の カッコ番号	意見	記号	意見の反映状況
-------	----	---------------------	-------------------------	--------------------------------	----	----	---------

長期ビジョンの記載に意見を反映します A 1

長期ビジョンと同じ思いです B 101

長期ビジョン策定の参考とします C 6

それぞれの取り組みで前向きに実現を目指します D 53

次期再編計画策定の参考とします E 40

その他 F

県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～の主な修正箇所とその概要

区分	項目	意見の要旨	修正箇所の概要
第3章	2 普通高校	<ul style="list-style-type: none"> 普通科目は、学習指導要領では、共通科目となっている。 <p>[パブリック・コメント]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領のとおり「共通科目」として記載した。
第5章	2 教育上特別な支援を必要とする生徒等への対応	<ul style="list-style-type: none"> 外国人生徒の増加が予想され、就学支援等の対応等が必要ではないか。 <p>[パブリック・コメント]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昨今の在住外国人の増加の状況や、将来的な日本語教育等を必要とする外国人生徒数の増加の見込みを踏まえた学校教育全般にわたる支援の必要性を加筆した。
	5 全日制高校への単位制導入	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学後のキャリアを見据えた教育が望ましい。 <p>[パブリック・コメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学で何が学べるか分かり、生涯に役立つような高校に通いたい。 <p>[子どもからの意見聴取]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大学等への進学指導に重点を置いた全日制高校においては、生徒の人生設計や目標達成に向け、非常に重要である「大学卒業後のキャリア形成」を見据えた指導の必要性を加筆した。
	6 県政課題等に対応した人材育成の取組	<ul style="list-style-type: none"> 県政課題等に対応した人材育成は医師養成だけではないと考える。 <p>[パブリック・コメント]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 半導体や自動車関連産業など、県内の主要産業に必要な高度技能者や技術者の育成等も進めていることから、医系に加え科学系分野等の必要性を加筆した。

